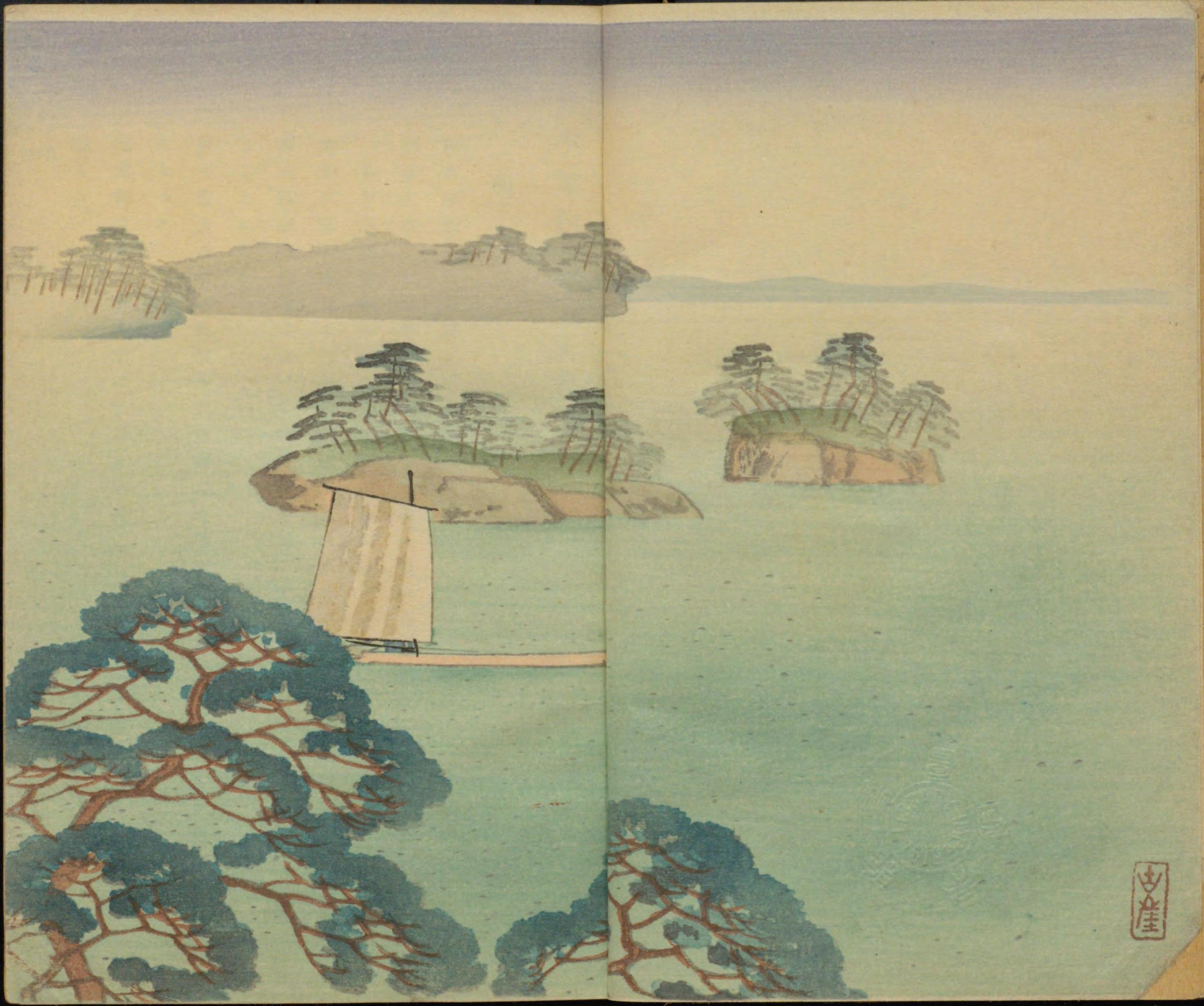
569-156
1200501517708
569
156

25.10.31

日本案内記

東北篇

鐵道省



569156

日本案內記　東北篇

例言

一　日本案內記は七篇より成り、分冊刊行の豫定である。

一　本篇は主として福島、宮城、岩手、青森、山形、秋田の六縣につき記述したものであるが、交通線の關係上新潟縣の一部の案內記事を加へた。

一　卷初に東北地方の概說を記載し、また旅行日程案を示した。

一　案內記事の順序は凡べて鐵道線路別によることゝし、東京方面から進めることにした。

一　假名書きの名稱及振假名は臨時國語調査會の發表にかゝる新假名遣法によつた。

一　度量衡は**メートル**法によるを本體とし、便宜上處々在來の度量衡法をも示した。

例言

一 案内記事中官公廳、銀行、會社、工場、旅館、料理店、土産物などはその若干を示すに止め、また驛名の次には前驛からの距離を示した。

一 統計は昭和二年度によつたものが多いが、中にはその前年もしくは前々年のを採つたものもある。

一 檢索の便を圖り卷末に索引を附した。

一 本篇編纂後に生じた異動その他は再版の際に修正する。

昭和四年三月

日本案内記 東北篇 總目次

一 口繪 松島
一 例言
一 本文目次
一 地圖目次
一 挿圖目次
一 寫眞目次
一 概説
一 案内篇
　白河福島間
　福島仙臺間
　勿來岩沼間
　仙臺盛岡間
　盛岡青森間
　福島新庄間
　新庄秋田間
　郡山新津間
　新津秋田間
　秋田青森間
一 索引
一 索引地圖

日本案內記 東北篇 本文目次

概說……一—五八
位置　區域……一
地形　地質……一
氣候……二
動、植物……七
行政區劃……一〇
風俗……一三
方言……一七
產業……二〇
　農業　蠶業　牧畜　水產業　林業　鑛業　工業
有史前の遺蹟及遺物……二五
沿革及史蹟……二六
神社……三三
寺院……三五
佛像と佛畫……三九
學術上の施設……四〇
名勝と溫泉……四一
登山とスキー……四三
交通……四五
旅行日程案……五〇
松島、花卷廻覽　松島、金華山廻覽　會津廻覽　會津、溫海、鳴子廻覽　十和田湖廻覽（其一、其二）田澤湖廻覽　男鹿半島廻覽　東北地方廻覽（其一、其二、其三）　磐梯山登山、會津若松、東山溫泉廻覽　吾妻山登山　靈山登山藏王山登山、山寺廻覽　岩手山登山　八甲田山越　出羽三山登山　鳥海山登山　岩木山登山
附記……五五

案內編

白河福島間……五九—八四
東京から白河まで
白河附近……六〇
白河驛　白河町　小峯城址　立敎館址　友月山公園　丹羽長重廟　戊辰戰役戰死者の碑　鹿島神社　搦城址（白河古城）　南湖公園　境明神社　關山滿願寺　白河關址　一町佛　借宿廢寺址　石川町　石川山　母畑鑛泉　軍馬補充部白河支部　河內　甲子溫泉
白棚鐵道線……六五
棚倉町　棚倉城址　都々古別神社　水口東山廢寺址　都都古別神社　須賀川驛　須賀川町　岩瀨森　長祿寺　牡丹園　岩屋大佛と橫穴群　乙字瀧　宇都峯城址（雲水峯）　桙衝神社　長沼町
郡山附近……六九
郡山驛　郡山市　遊覽順路　安積國造神社　如寶寺　麓山公園（共樂園址）　開成山公園　明治天皇行在所　夜討川戰死者伊藤重信墓碑　阿邪訶根神社曼陀羅塔婆　圓壽寺の供養碑　富岡村阿彌陀三尊來迎佛供養碑　和泉莊司供養碑本栖寺石塔婆
磐越東線……七三
三春驛　三春町　三春城址　三春田村氏墓　秋田氏廟　瀧櫻　舞木の石塔婆　常葉町　大瀧根山　仙臺平のカルスト　王子神社（堂山神社）　東堂山觀音　平伏沼　本宮驛　安積山　蛇の鼻牡丹園　安達太良神社　田中稻荷供養碑　二本松驛　二本松町　二本松神社　二本松城址　安達原黑塚　嶽溫泉　安達太良山　松川驛
川俣線……七七
川俣町　仙海碑　金谷川驛　伊達稙宗墓　土湯溫泉　福島驛　福島市　遊覽順路　紅葉山公園　信夫山　辨天山公園　競馬場　黑岩虛空藏　文字摺石　安洞院裏古墳群　陽泉寺　大森城址　飯坂、湯野溫泉　天王寺供養碑　大鳥城址　醫王寺　西根神社　源朝定母供養碑　金秀寺笠塔婆　梁川城址　靈山神社　靈山
福島仙臺間……八五—九三
桑折驛　桑折鑛泉　無能寺　赤館址（西山城址）　伊達朝宗墓　半田鑛山　藤田驛　半澤果樹園　僧智璟亡親供養碑　阿津加志山（厚樫山）　白石驛　白石町　白石城址　大鷹澤の球狀閃綠岩產

地　小原溫泉　材木岩　鎌先溫泉　苅田嶺神社
大河原驛　大高山神社　遠刈田溫泉　青根溫泉
峩々溫泉　藏王山　藏王山麓スキー場　槻木驛
富澤磨崖佛　船迫阿彌陀堂鐵佛　高藏寺　岩沼
驛　岩沼町　竹駒神社　玉崎牡丹園　道祖神社
（佐倍之神）　實方中將墓　熊野神社　太白山
秋保溫泉
勿來岩沼間……………………………九四—一〇五
東京から平まで　勿來驛　勿來關址　松川磯
常磐炭田　勿來附近の炭坑　植田附近の炭坑
小名濱町　湯本町　鮫川上流地方の地質　綴附
近の炭坑
平附近……………………………………九六
平驛　平町　平城址　飯野八幡宮　子鍬倉神社
松ケ岡公園　專稱寺　如來寺　大國魂神社　甲
塚古墳　澤村勝爲墓　白水阿彌陀堂
磐越東線…………………………………九九
赤井岳藥師堂　四ツ倉驛　四ツ倉町　新舞子
惠日寺阿彌陀像　藥王寺　長友地藏堂　八莖銅
山　玉山鑛泉　久之濱驛　久之濱町　浪江驛
大堀の相馬燒　小高驛　小高町　相馬氏廟　小
高神社　泉澤磨崖佛　磐城太田驛　太田神社
原ノ町驛　原ノ町　東京無線電信局原ノ町送信
所　野馬追祭　中村驛　中村町　中村城址　中
村神社　相馬神社　二宮尊德墓碑並僧慈隆墓
八幡神社　原釜海水浴場　松川浦　新地驛　釣
師濱海水浴場　新地貝塚　亘理町　荒濱
仙臺盛岡間……………………………一〇六—一一五
仙臺驛　仙臺市　仙臺平　八橋織　埋木細工
さんさ時雨　ハットセ踊　遊覽順路　東照宮
榴ケ岡公園　政岡の墓　瑞鳳殿　伊達家累代墓
所　櫻岡公園　仙臺城址　五色沼スケートリン
ク　青葉山　大崎八幡神社　龍寶寺釋迦像　林
子平墓　支倉六右衞門常長墓　青葉神社　養賢
堂　芭蕉の辻　横綱谷風の碑　陸奧國分寺址
作並溫泉　定義溫泉　岩切驛　青麻神社　洞雲
寺　多賀城址　多賀城廢寺址
鹽竈線……………………………………一一六
鹽竈驛　鹽釜町　鹽竈神社　御釜神社　野田の
玉川　末松山址　菖蒲田海水浴場　松島驛　松
島　松島遊覽順路　五大堂　觀瀾亭　瑞巖寺
雄島の賴賢碑　新富山　桂島海水浴場　大鷹森
宮戸島貝塚　富山　不老山　鹿島臺驛　鹿島臺
神社　小牛田驛　小牛田町
石巻線……………………………………一二三
黃金山神社　箟嶽觀音堂　寶ケ峯石器時代遺蹟
石巻驛　石巻町　日和山葛西城址　牧山觀音
石巻海水浴場　渡波海水浴場　金華山
陸羽東線…………………………………一二五
川渡溫泉　田中溫泉　鳴子溫泉　潟沼　河原溫
泉　新車溫泉　元車溫泉　赤湯溫泉　鳴子スキ
ー場　鬼首間歇溫泉　鬼首の諸溫泉　栗駒五湯
中山溫泉　瀨峯驛　雙林寺藥師堂　石越驛　高
田鑛山
一ノ關附近………………………………一二九
一ノ關驛　一ノ關町　蘭梅山公園　嚴美溪　酢
川溫泉　栗駒山
大船渡線…………………………………一三三
布佐窟　猊鼻溪　折壁驛　氣仙沼町　音鳴穴
小原木の大理石　高田町　高田松原　盛町　高
田、盛附近の石器時代遺蹟
平泉附近…………………………………一三四
平泉　中尊寺　金色堂　經藏　辨財天堂　寶物
館　中尊寺本坊、藥師堂、閼伽堂　鐘樓　平泉館
址　無量光院址　高館址（衣河館）　泉ケ館址
傳、三條吉次信高宅址　毛越寺址　達谷窟
水澤附近…………………………………一四一
水澤驛　駒形神社　くるす場　緯度觀測所　岩
谷堂城址　金崎驛　膽澤城址　鎭守府八幡宮
鳥海柵址　黑澤尻驛
横黑線……………………………………一四四
岩澤驛　綱取鑛山　水澤鑛山　夏油溫泉　大荒
澤驛　卯根倉鑛山　本の松鑛山外五鑛山　當樂
の楓林　陸中川尻驛　湯川溫泉　湯本溫泉　土
畑鑛山　赤石鑛山
花巻附近…………………………………一四六

花巻驛　花巻城址（鳥谷ケ崎城）　花巻温泉　花巻温泉附近スキー場　臺温泉　志戸平温泉　大澤温泉　鉛温泉　西鉛温泉
岩手輕便鐵道……一四八
北成島毘舍門堂　熊野神社の經塚　上閉伊那寶物館　沓掛の石灰洞　仙人峠
釜石鑛山線……一四九
釜石鑛山採鑛場　石灰石採掘場　釜石町　釜石鑛山製錬場　石鳥谷驛　一里塚　早池峯山　日詰驛　日詰町　勝源院の梛　矢幅驛　南昌山　乙部の枝垂桂　大萱生鑛山
東北地方主要驛乘降人員表……一五四
盛岡青森間……一五五—一九〇
盛岡附近……一五五
盛岡驛　盛岡市　樺火　金山踊　さんさ踊　市内遊覽の順路　盛岡城址　石割櫻　高松池　厨川柵址（安倍館）　大館　南部家歷代廟所　上之橋、下之橋　大慈寺
橋場線……一五九
小岩井農場　繫温泉　網張温泉　玄武洞　鶯宿温泉　國見温泉
山田線……一五九
上米内石器時代遺跡　宮古町　淨土濱　日出島の潮吹孔　瀧澤驛　岩手山　好摩驛　姬神山
花輪線……一六四
松尾鑛山　巻堀神社（金勢明神）　沼宮内驛　仙波堤竪穴住居址　今松竪穴住居址　一戸驛　浪打峠　西方寺毘舍門堂　北福岡驛　福岡城址　横山石器時代遺蹟　斗米村竪穴住居址　天台寺（御山觀音）　鳥越觀音　舌崎石器時代遺蹟糠部神社　尻内驛　櫛引八幡宮
八戸線……一六八
八戸驛　八戸町　三八城城址　新羅神社　八戸公園　橋本農園　是川石器時代遺蹟　閉伊穴金山澤洞窟　蕪島　陸中八木　久慈町　久慈製鐵所　宍平岩泉の石灰洞　古間木驛
十和田鐵道……一七一
三本木驛　十和田湖奥入瀬口　蔦温泉　十和田湖　子の口　十和田神話　湖上の遊覽　沼崎驛　新館神社　十三森古墳群　盛喜山竪穴住居地　野邊地驛　馬門温泉
大湊線……一八一
田名部驛　田名部町　常念寺　恐山　恐山地藏堂　藥研温泉　下風呂温泉　佛ケ浦　小湊驛　白鳥群棲地　椿山　淺虫驛　水族館　淺虫温泉
青森附近……一八五
青森驛　青函連絡船と連絡船待合所　青森市遊覽順路　ねぶた祭　善知鳥神社　合浦公園　雪中行軍遭難紀念碑　十和田湖八甲田越道　八甲田山　八甲田山スキー場　酸ケ湯温泉
福島新庄間……一九一—二三〇
庭坂驛　吾妻山　信夫高湯　微温湯温泉　板屋驛　五色温泉　新五色温泉　五色温泉スキー場　峠驛　滑川温泉　姥湯温泉　松川源流の瀑布
米澤附近……一九六
米澤驛　米澤市　遊覽順路　米澤城址　上杉神社　松岬神社　上杉家廟　直江兼續墓　佐氏泉公園　栗子トンネル　笹野觀音　籍田遺蹟碑　小野川温泉　白布高湯温泉　西吾妻山
米坂線……二〇〇
成島公園　小松町　糠ノ目驛　灌田紀功碑　龜岡文殊堂　赤湯驛　赤湯温泉　偕樂公園　取上坂スキー場
長井線……二〇三
雙松公園　日坂鑛山　朝日岳　伊佐澤の久保櫻　上ノ山驛　上ノ山町　上ノ山温泉
山形附近……二〇五
山形驛　遊覽順路　山形市　山形城址　最上義光墓　第二公園　雁島公園　八幡神社の槻　千歳公園　鳥海月山兩所宮　千歳山　釋迦堂唐松觀音　最上高湯温泉　最上高湯スキー場　吉祥院　山寺立石寺　根本中堂　面白山　白鷹山
左澤線……二一一
慈恩寺　幸生鑛山　永松鑛山　出羽三山　左澤驛　大沼の浮島　天童驛　天童町　天童温泉　若松觀音堂　東根驛　東根温泉　東根の大欅

大石田驛　銀山鑛泉　魚取沼の鐵魚　新庄驛
新庄町　東山公園スキー場　肘折温泉
陸羽東線……二二八
瀬見驛　瀬見温泉　富澤驛　赤倉温泉
陸羽西線……二二九
古口驛　最上温泉　淸川驛　草薙鑛泉　狩川驛
出羽三山登山
新庄秋田間……二三一—二三八
羽前豐里驛　羽根澤温泉　院內驛　院內鑛山
湯の澤温泉　横堀驛　湯ノ岱温泉　稻住温泉
鷹の湯温泉　秋宮の珪華　湯ノ又温泉　湯澤驛
湯澤町　湯の原鑛泉　佐藤信淵の生地　十文字
驛　增田町　吉乃鑛業所　川連の漆器　横手驛
横手町
横荘鐵道東線……二三四
淺舞町　金澤柵址　西沼竪穴住居址　後三年驛
附近スキー場　大曲驛　大曲町　古四王神社
生保內線……二三六
角館驛　角館町　角館の白技垂櫻　神代驛　抱
返り　夏瀬温泉　生保內驛　田澤湖　駒ヶ岳
駒ヶ岳山麓の温泉　澁黑温泉、北投石、毒瓦斯
羽後境驛　荒川鑛山　和田驛　筑紫森
秋田附近……二三四
秋田驛　秋田市　秋田蕗　竿燈　秋田音頭　秋
田萬蔵　遊覽順路　千秋公園　平田篤胤墓　天
德寺　日吉八幡神社　全良寺戊辰役戰死者墓
秋田城址　古四王神社　手形山スキー場
郡山新津間……二三九—二六〇
岩代熱海驛　熱海温泉　高玉温泉　高玉鑛山
上戸驛　猪苗代湖　小平潟天神　川桁驛　川上
温泉　中ノ澤温泉　沼尻温泉　沼尻、中澤温泉
附近スキー場　横向温泉、野地温泉　野地温泉
の噴氣孔　沼尻硫黃山　猪苗代驛　猪苗代城址
土津神社　磐梯山　磐梯温泉　翁島驛　押立
温泉　西ノ澤温泉　長濱　戸ノ口　赤井谷地
大寺驛　惠日寺　大寺製錬所　廣田驛　延命寺
八葉寺　會津若松驛、若松市　會津塗　遊覽
順路　飯盛養國神社　御藥園　宗英寺　蘆名盛氏墓
若松城址　日新館址　山鹿素行誕生地碑　蒲生
氏郷墓　戊辰役戰死者墓地　戊辰役戰死者墓
松平家墓　日什上人墓　白虎隊墓　榮螺堂　蒲
生秀行墓　東山温泉
會津線……二五一
蘆ノ牧温泉、小谷温泉　龍興寺　伊佐須美神社
田子藥師堂　勝常寺藥師堂　塔寺石器時代遺蹟
塔寺立木觀音堂　調合寺　柳津虛空藏　沼澤沼
喜多方驛　喜多方町　熱鹽温泉　日中温泉　飯
豐山　野澤驛　野澤町　大山祇神社　上野尻驛
西光寺　寶坂の蛋白石產地　津川驛　津川町
赤崎山スキー場　麒麟山　小花地　小山田の櫻
五泉驛　五泉町　村松町　新津驛　新津町　新
津油田　田家の煮壺　秋葉山
新津秋田間……二六一—二八五
水原驛　水原町　八房梅　三度栗　出湯温泉
今板温泉　村杉温泉　月岡温泉　新發田驛　新
發田町　加治川堤の櫻
赤谷線……二六三
二王子岳　小戸の七瀧　赤谷鑛山　加治驛　菅
谷のあきにれ　菅谷不動　大峰山の櫻　坂町驛
乙寶寺　湯澤温泉　高瀬温泉　鷹ノ巣温泉　岩
船町　村上驛　村上町　瀬波の噴騰泉　瀬波温
泉　蒲萄鑛山　桑川驛　笹川流　勝木驛　八幡
山原始林　鼠ヶ關驛　鼠ヶ關　辨天島　孝子慶
玉の墓　温海驛　温海海岸　温海温泉　由良
八幡神社　羽前大山驛　大山町　椙尾神社　善
寶寺　湯野濱温泉
鶴岡附近……二七一
鶴岡驛　鶴岡市　遊覽順路　鶴岡城址　莊內神
社　酒井氏累代墓　舊致道館址　日枝神社　鈴
木今右衞門墓　常念寺　本住寺　新山温泉　湯
田川温泉　黃金堂　出羽神社五重塔　出羽神社
月山登山　筍澤温泉　酒田驛　酒田町　酒田名
物おばこ節　酒田祭　龜ヶ崎城址　日枝神社
光丘神社　松林銘碑　日和山公園　河村瑞軒倉
庫址　山居倉庫　飛島　大物忌神社蕨岡口ノ宮
吹浦驛　湯ノ田鑛泉　大物忌神社吹浦口ノ宮

鳥海山　莊内の砂丘　小砂川海水浴場　象潟驛　古の象潟　干滿珠寺　象潟海水浴場　沖の島海水浴場　羽後平澤驛　琴ヶ浦海水浴場　小國油田　羽後本莊驛　本莊町　由利油田　道川海水浴場　下濱海水浴場

秋田青森間……二六六—三〇八

土崎驛　土崎港町　秋田製油所　道川油田　追分驛　黑川油田

船川線……二八七

八郎潟　寒風山　船川驛　船川港　男鹿半島巡り　大久保驛　豐川油田　小倉豐川油田

能代線……二九一

能代港町　汐ヶ島のガンガラ洞と七ッ池附近の湖沼群　厩生石器時代遺蹟　鷹巢驛　阿仁鑛山　赤倉鑛山　大館驛　大館町

秋田鐵道……二九四

大瀧溫泉　猿間鑛山　不老倉鑛山　大湯溫泉　十和田湖毛馬內口　尾去澤鑛山　湯瀨溫泉

小坂鐵道……二九五

長木澤國有林　小坂町　小坂鑛山　濁川の噴泉塔　十和田湖小坂口　花岡鑛山　陣場驛　長走風穴地帶の高山植物　矢立、日景、下內澤溫泉　碇ヶ關驛　碇ヶ關溫泉　湯の澤、新湯の澤溫泉　大鰐驛　大鰐藏館溫泉　大圓寺　大鰐スキー場　弘前驛　弘前市　遊覽順路　津輕塗　獅子踊　林檎の古木　弘前城址　八幡宮　熊野奥照神社　最勝院五重塔　長勝寺　報恩寺　高照神社　岩木山神社　岩木山　嶽溫泉　暗門瀧　川部驛

黑石線……三〇五

黑石驛　黑石町　中野山公園　溫湯溫泉　板留溫泉　十和田湖黑石口

五所川原線……三〇六

五所川原驛　五所川原町　小泊　權現崎　木造驛　木造町　龜ヶ岡石器時代遺蹟　床舞石器時代遺蹟　鰺ヶ澤驛　鰺ヶ澤町　大戶瀨　深浦港　津輕新城スキー場

地圖目次

一　東北地方交通圖……二
二　同　史蹟名勝圖……二六
三　同　溫泉位置圖……四二
四　白河附近……六〇
五　郡山市……六六
六　福島市……七六
七　靈山……八四
八　藏王山……八八
九　仙臺市……一〇六
一〇　仙臺附近……一一四
一一　松島……一一八
一二　平泉……一二四
一三　盛岡市……一五六
一四　岩手山……一六〇
一五　十和田湖……一七二
一六　青森市……一八六
一七　八甲田山……一八八
一八　吾妻山……一九〇
一九　米澤市……一九六
二〇　山形市……二〇四
二一　田澤湖……二一八
二二　秋田市……二二四
二三　磐梯山……二四二
二四　若松市……二四六
二五　鶴岡市……二七二
二六　出羽三山……二七四
二七　酒田町……二七六
二八　鳥海山……二八〇
二九　男鹿半島……二八八
三〇　弘前市……二九八
三一　岩木山……三〇二
三二　東北地方（其一）……三〇八
三三　同（其二）……三〇八

挿圖目次

一　鐵道防雪林、防砂林の分布圖……六

目次

二　米産地分布圖……二一
三　鑛産地分布圖……二三
四　森林分布圖……二四
五　龜ケ岡土偶……二五
六　流造、權現造……三四
七　屋根の正面及側面……三六
八　枡　組……三八
九　阿彌陀三尊供養碑……三九
一〇　藏王山……九〇
一一　常磐炭田……九五
一二　仙臺城址……一一〇
一三　多賀城址……一一五
一四　鹽竈神社境內圖……一一七
一五　金華山……一二四
一六　鳴子附近……一二六
一七　栗駒山……一三一
一八　花卷附近……一四七
一九　盛岡城址……一五七
二〇　岩手山……一六一
二一　十和田湖交通圖……一七四
二二　八甲田山……一八八
二三　松川から見た吾妻山……一九二
二四　出羽三山（其一）……二一二
二五　出羽三山（其二）……二一三
二六　久保田城址……二三六
二七　磐梯山……二四三
二八　若松城址……二四九
二九　笹川流……二六七
三〇　鳥海山……二八二
三一　秋田附近の油田分布圖……二八六
三二　弘前城址……三〇一
三三　岩木山……三〇四

寫眞目次

一　白川關址……五八
二　南湖公園……五八
三　甲子温泉かりがね橋……五八
四　安達ヶ原黒塚……五八
五　信夫文字摺石……五八
六　靈山神社……五八
七　飯坂湯野温泉……五八
八　青根温泉……九四
九　藏王山五色沼……九四
一〇　竹駒神社……九四
一一　白水阿彌陀堂本尊……九四
一二　長友地藏堂本尊……九四
一三　野馬追……九四
一四　仙臺芭蕉辻……一〇六
一五　榴ケ岡公園……一〇六
一六　大崎八幡神社……一〇六
一七　同内部……一〇六
一八　鹽竈神社……一〇六
一九　松島瑞巖寺……一〇六
二〇　中尊寺金色堂本尊……一〇六
二一　北成島毘沙門堂吉祥天……一〇六
二二　平泉中尊寺經藏經卷……一〇六
二三　猊鼻溪……一〇六
二四　花卷温泉……一〇六
二五　十和田湖……一五四
二六　淺虫温泉附近……一五四
二七　青函連絡船……一五四
二八　上杉神社……一九〇
二九　立石寺……一九〇
三〇　大沼の浮島……一九〇
三一　立石寺如法經所碑……一九〇
三二　秋田千秋公園……一九〇
三三　若松城址……二三八
三四　白虎隊墓……二三八
三五　東山温泉……二三八
三六　柳津虚空藏尊……二三八
三七　加治川堤の櫻……二六〇
三八　笹川流……二六〇
三九　弘前最勝院五重塔……二八六
四〇　男鹿半島蒿雀窟……二八六

日本案内記　東北編

概説

位置　區域

東北地方は本州島の東北部に位し、また奥羽地方とも云ふ。この地方は磐城、岩代、陸前、陸中、陸奥、羽前、羽後の七國より成り、行政上福島、宮城、岩手、青森、山形、秋田の六縣に分れ、東は太平洋に面し、西は日本海に臨み、南は關東及北陸地方に接し、北は津輕海峽を隔てゝ北海道本島に對して居る。南北の長さ約五三〇粁に及び、東西の幅約一〇〇粁から一八〇粁の間にある。全面積は六六、九〇三方粁(四、三三七方里)で、本州島の三分の一弱にあたる。

地形　地質

日本列島特に本州島の骨格は南彎、北彎の兩山系から成つて居て、共に內帶、外帶の別がある。東北地方はその北彎山系に屬し、北上、阿武隈の二山脈は外帶に屬し、この地方の脊梁を成せる奥羽山脈及これと竝行する日本海岸の出羽丘陵は內帶に屬する。これらの山脈に沿ひ、東では阿武隈川、北上川の縱谷が南北に走り、西では會津、米澤、山形、横手など數多の盆地が南北に竝び、これを貫いて阿賀ノ川、最上川、雄物川、米代川、岩木川が流れて居る。

北上山脈は一に北上山地と稱せられ、馬淵川と北上川の構造谷によつて脊梁山脈から堺せられ、主に古生層より成り、多年浸蝕作用を受けたために數多の河谷を生じて居る。最高峯たる早池峯山は山地の中央に聳え、海拔一、九一四米に達する。その東岸には數多の小灣が深く刻まれ、宮古、釜石などの良港がある。北上山脈は南に延びて牡鹿半島となり、仙臺灣を擁し、その南端に近く金華山の花崗岩島があり、航海者の好目標となつて居る。仙臺灣の一部には凝灰岩より成る數多の島嶼が散在して松島の勝地を作つて居る。灣岸の平

野には東北第一の都會たる仙臺市がある。

南方の阿武隈山脈は一に阿武隈高原と呼ばれ、阿武隈川の構造谷の東に横はり、最高峯たる大瀧根山は海拔一、一九三米に過ぎない。この山地は主として結晶片岩より成り、海岸に沿ふ第三紀層には常磐炭田がある。

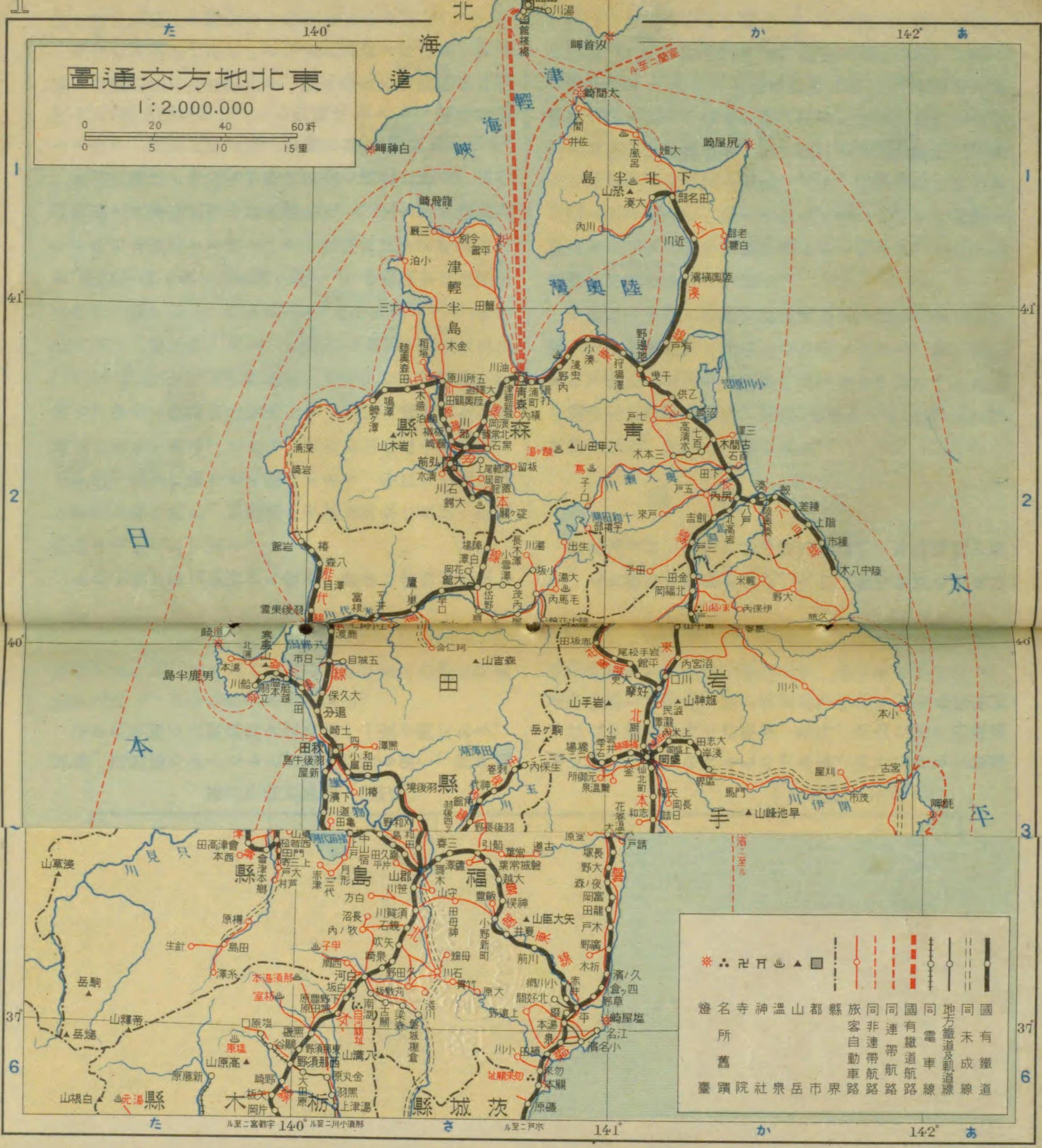
奧羽山脈はこの地方の中央を長く南北に連り、太平洋斜面と日本海斜面の分水嶺をなし、主として凝灰岩その他の水成岩より成り、その北端には下北半島があり、津輕半島と共に陸奧灣を抱く。この山脈中には那須火山脈に屬する恐山(海拔八七四米)八甲田山(一、五八五米)岩手山(二、〇四一米)藏王山(一、八四一米)吾妻山(二、〇二四米)安達太良山(一、七〇〇米)磐梯山(一、八一九米)那須岳(一、九一七米)などが噴起して居る。中にも磐梯山は明治二十一年に大爆發をなし世界的に有名である。これらの山地の間には十和田湖、田澤湖、猪苗代湖などの湖水があり、中にも十和田湖は風景が特に勝れ、田澤湖は水深四二五米に及び、全國最深と稱せられて居る。

出羽丘陵は第三紀層から成り、數多の油田が存在して居る。この丘陵の中には鳥海火山脈に屬する岩木山(一、六二五米)森吉山(一、四五四米)鳥海山(二、二三〇米)月山(一、九八四米)などが噴起し、中にも鳥海山は特に雄大で、東北地方最高の火山である。出羽丘陵の南方には北陸地方との境上に越後山脈が横はり、朝日岳(一、八七〇米)飯豐山(二、一〇五米)など花崗岩塊の高峯が聳えて居る。日本海岸には砂丘が長く連る處多く、概して出入に乏しい。この單調を破るものは火山性の男鹿半島があるのみで、この半島は淺い八郎潟を包んで居る。

平野は太平洋の斜面では阿武隈川下流から北に延び北上川の中流以下に連るものが最も大きく、また馬淵川の下流から北方小川原沼に及ぶものがある。日本海の斜面では會津、米澤、山形、横手などの盆地と莊內、秋田、能代、津輕の平野がある。

氣候

東北地方は、本州の他の地方に比べて平均氣溫が低く、また霖雨の現象が少い。大體に於て氣溫の變化は



東北地方交通圖
1:2.000.000
0 20 40 60粁
0 5 10 15里
國有鐵道
同未成線
地方鐵道及軌道線
同電車線
國有鐵道航路
同連帶航路
同非連帶航路
旅客自動車路
縣界
都市
山岳
温泉
神社
寺院
名所舊蹟
燈臺
(昭和三年七月現在)

昭和三年七月現在
日本海
太平洋

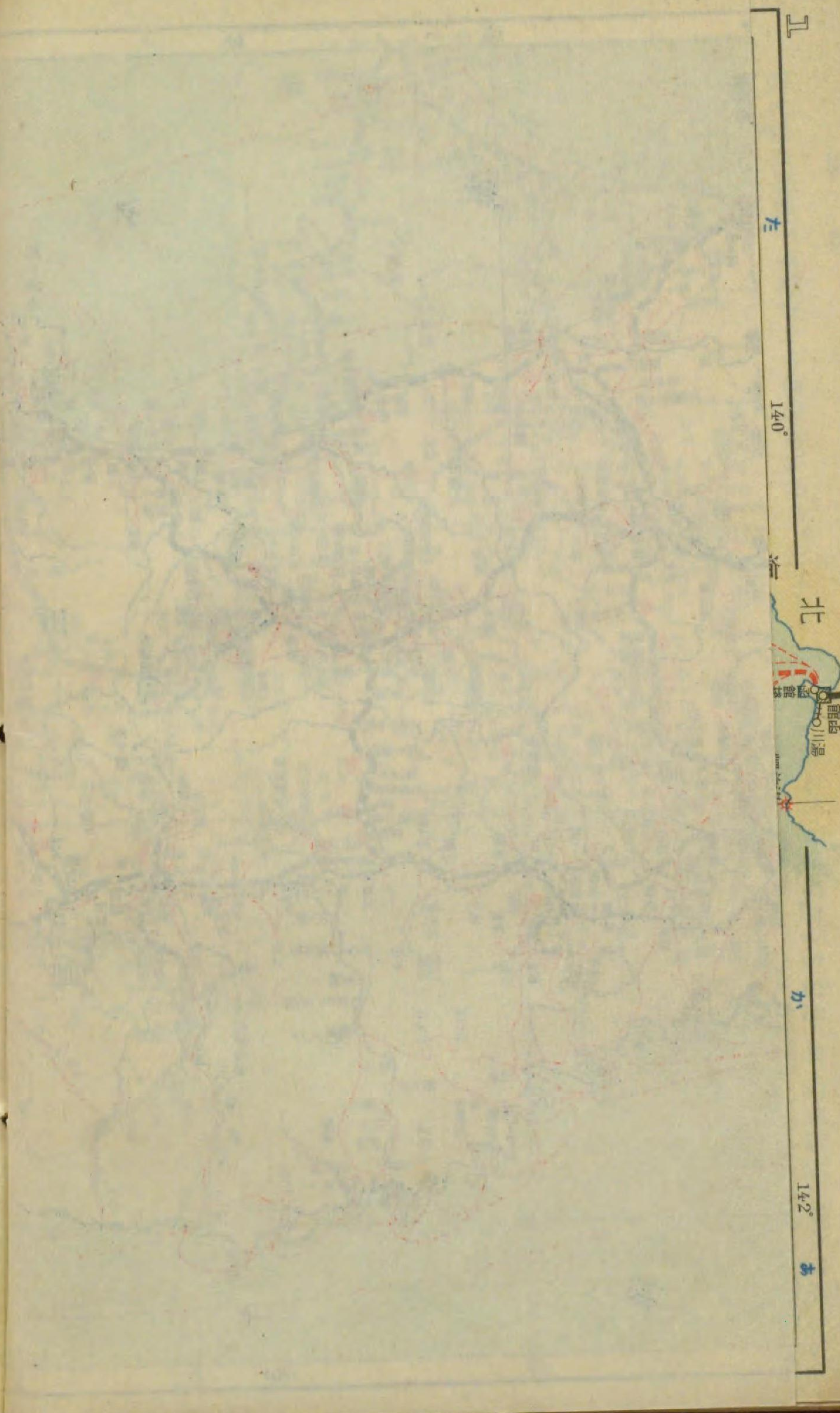
順調であるが、その調和を失ふときは直に農耕に惡影響を及ぼし、凶作を來すことがある。

年平均氣温は大抵攝氏九度乃至一一度の間にあり、東海、近畿地方から見ると、五度内外も低く、諸外國中英佛獨あたりと同位である。夏の暑い間は短く、冬季は概して平均氣温が零度以下に降る。これは本州ではこの地方の外には松本、長野、高山などの内陸高地に於てのみ見られるものである。四月になると氣温

毎月平均氣温表（攝氏）

測候所名＼月次	一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	一一	一二	年
福島	〇、五	一、〇	三、八	一〇、四	一四、九	一九、三	二三、一	二四、二	二〇、一	一三、五	七、九	三、〇	一一、八
金山	〇、六	一、〇	三、六	九、六	一四、一	一八、一	二三、一	二三、三	一九、五	一三、四	七、七	二、九	一一、三
水澤	(一)二、七	(一)二、〇	一、三	八、四	一三、〇	一七、七	二二、九	二三、三	一八、六	一二、二	五、九	〇、〇	九、八
小名濱	二、四	三、二	五、一	一〇、五	一四、一	一七、九	二二、五	二三、六	二〇、九	一五、三	一〇、一	四、九	一二、五
石巻	(一)〇、三	〇、三	三、一	八、九	一三、二	一七、三	二二、二	二三、二	一九、七	一三、八	七、九	二、四	一〇、九
宮古	(一)〇、六	(一)〇、三	二、五	八、三	一二、三	一六、〇	二〇、一	二三、三	一八、五	一二、六	七、三	二、二	一〇、一
青森	(一)二、六	(一)二、一	〇、七	七、一	一一、八	一六、三	二〇、七	二三、九	一八、五	一二、一	六、一	〇、一	九、三
山形	(一)一、六	(一)一、三	二、一	九、一	一四、三	一九、一	二三、九	二四、〇	一九、四	一二、六	六、五	一、三	一〇、七
秋田	(一)一、五	(一)一、三	一、九	八、五	一三、二	一八、一	二三、一	二三、八	一九、三	一二、六	六、九	一、三	一〇、四
盛岡	(一)三、四	(一)三、三	(一)〇、五	七、八	一二、七	一七、〇	二三、一	二三、〇	一八、〇	一〇、六	五、四	(一)一、四	九、一
會津	(一)二、九	(一)二、九	(一)〇、四	七、三	一二、七	一七、〇	二二、九	二三、二	一八、四	一一、三	五、八	〇、一	九、三

(一)は氷點下を示す



が急に上り、梅櫻桃李が一時に開花する。

氣壓の配置を見るに、冬春の候は西方に高氣壓、東北方に低氣壓があり、氣流は一般に西北から東南に向ひ、夏季はこれに反して東方に高氣壓、西方に低氣壓を生じ、氣流は東南から西北に向ふ。冬季には亞細亞大陸から强烈な西北風を受けるから、日本海は波浪が高くて交通が不便となり、同海岸にあつて西北に向つて開いて居る港灣は船舶の碇泊に適せず荷役は困難となる。土崎港が冬季補助港として船川港を要するのはこれがためで、大湊の一部を商港として開放することになつたのも青森港補助の意味からである。

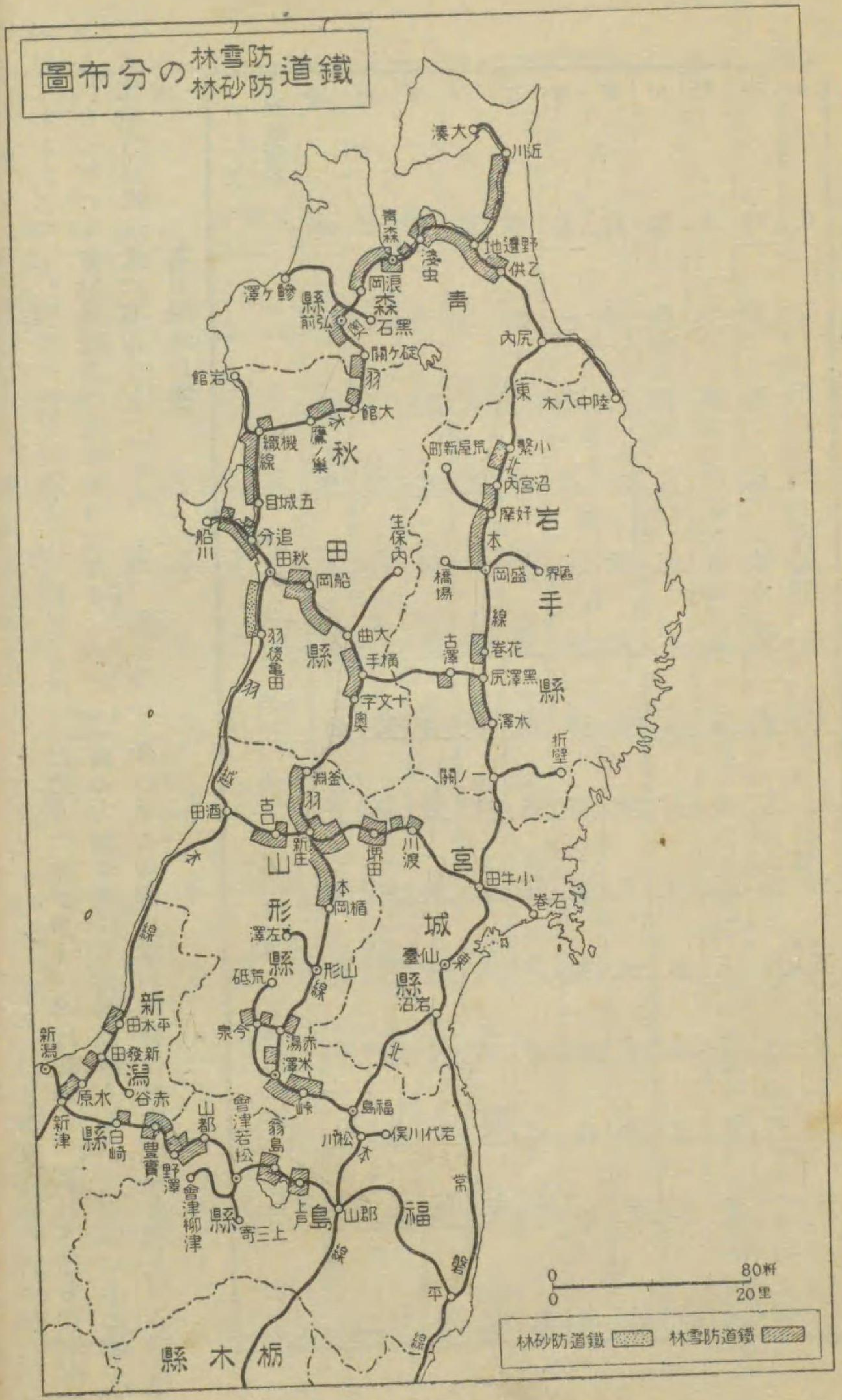
東北地方は降水量に不足なく、一年に一、一〇〇粍乃至一八〇〇粍に及んで居る。表日本即ち太平洋斜面の方面は夏季に雨が多く、冬は乾燥し、裏日本即ち日本海斜面の方面は夏にも雨量は少くないが、殊に冬の雪量が多い。この裏日本の降雪は日本海岸を北上する暖流の

各月平均降水量表（粍）

測候所名＼月次	一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	一一	一二	年
福島	四八	五七	七六	八三	一〇〇	一三九	一四六	一六三	二〇六	一三一	六六	五七	一、二五一
金山	五三	七四	九〇	九九	一一七	一五九	一四七	一九六	二四七	一七七	六三	五六	一、四七八
水澤	六四	六八	六九	八六	一〇五	一三五	一四四	一五〇	一六五	一一〇	八八	七一	一、二五六
小名濱	四九	九三	一〇三	一二三	一三四	一七六	一三〇	一五一	二二八	二三六	一〇三	五七	一、五七九
石卷	四三	五三	七四	八九	一一三	一一七	一二七	一一三	一六七	一三六	六三	四五	一、一三五
宮古	六八	七四	八五	九五	一一九	一三九	一四三	一七四	二二八	一六九	八四	六五	一、四四三
青森	一五一	一一三	九一	六三	七三	八三	一二五	一一三	一四四	一一九	一四三	一六九	一、三九四
山形	九一	七四	七三	六九	八三	一〇七	一四〇	一四四	一五三	九七	八七	六八	一、二三五
秋田	一三四	一〇四	一〇八	一一三	一一一	一二八	一九三	一八三	二〇〇	一七三	一九一	一七四	一、八一九
盛岡	四三	四五	八四	五一	七四	五八	一三六	二一三	一四三	九三	八五	八〇	一、一〇五
會津	一三四	八九	一二四	九一	九九	一〇三	一八三	一二〇	一八四	一〇〇	一二八	一八九	一、五五四

各月降水日數

測候所名＼月次	一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	一一	一二	年
福島	一四	一二	一二	一二	一二	一五	一七	一六	一七	一四	一二	一五	一六八
金山	一一	一一	一二	一二	一二	一五	一七	一六	一八	一四	一一	一二	一六二
水澤	一二	一九	一九	一四	一四	一五	一七	一五	一七	一六	一八	二一	二〇五
小名濱	七	九	一二	一二	一四	一七	一六	一二	一八	一六	一一	七	一五九
石卷	一〇	一〇	一二	一二	一二	一四	一五	一四	一六	一四	一二	一一	一五二
宮古	九	一〇	一二	一一	一二	一四	一五	一五	一七	一二	一〇	九	一四七
青森	二七	二三	一二	一四	一二	一二	一四	一二	一七	一七	二一	二七	二一〇
山形	二三	二〇	一九	一二	一四	一四	一五	一三	一六	一六	一八	二三	二〇三
秋田	二七	二四	二一	一五	一五	一五	一七	一三	一八	一八	二三	二七	二三三
盛岡	一八	一六	一七	一二	一四	一二	一六	一四	一八	一五	一六	二〇	一八九
會津	二五	二一	二一	一五	一五	一二	一六	一一	一九	一五	一九	二三	二一二



對馬海流に伴はれた濕氣が西北風に吹き送られるために起る現象である。さればこの方面では冬季の往來に橇を用ゐる。また市街中には廂を長く突き出してその下を通路とする處があり、津輕地方ではこれを小店と稱へて居る。西北風が特に強い處ではこの廂下の通路の外側にも板戸やガラス障子を立てるやうになつて居る。鐵道沿線には防雪林を造り、また種々の防雪工事を施して居る。陸羽線、奥羽本線、磐越西線などに於て特に著しい。

年平均降水日數は宮古の百四十七日から秋田の二百三十三日の間にあつて、表日本は一年の約十分の四、裏日本は約十分の六は降水日で、降水量の少い割合に降水の日數は多く、殊に裏日本では冬季に著しく、天候が概ね陰鬱である。また太平洋岸では北海道近海から南下する寒流の親潮は夏は金華山沖、冬は犬吠崎まで流れて來て、濕風がこの寒流の上を吹くと、冷却せられて濃霧を起し、初夏の頃から航海を妨げることが少くない。さればこの沿岸の燈臺には霧笛を設けてこれを警戒して居る。青函連絡船さへ濃霧のために發着時刻の變更を見ることがある。初雪は山間及北部の地方では概ね十一月上旬、海岸及南部の地方では十一月中旬で、その平均期日は青森では十一月八日、小名濱では二月十五日である。また終雪は概ね四月上旬で、その平均期日は小名濱では三月二十六日、青森では四月十日である。

動植物

東北地方の森林は主に溫帶林で**ぶな帶**に屬する。針葉樹には**ひば**、杉、**ひのき**、**さわら**、**もみ**、**つが**、**かや**、**ひめこまつ**、**あかまつ**、**からまつ**などがあり、中にも**ひば**、杉は處々に美林をなし、また濶葉樹は**ぶな**、**なら**、**かしわ**、**しらかば**、**くぬぎ**などがある。防雪林には**からまつ**、防風林、防波林、防砂林には**くろまつ**、を植ゑた處が多い。日本海岸に沿うて進めば砂丘の上を掩ふ防砂林が幾たびか車窓から眺められる。常磐線で海岸を走ると防風林、防波林の緑濃き松林が處々

に見える。東北本線で福島を過ぎると**櫻桃**が盛に栽培されて居るのに氣がつく。濶葉常綠樹も竹藪も北に進むに從つて減少する。仙臺と盛岡の間で植物がよほど變り**ぶな**、**とち**なども仙臺附近では山地にのみ存するが、盛岡附近に行くと平地で見られる。また**椿**の自生北限地帶は陸奥灣夏泊岬附近の椿山である。奥羽本線で板谷峠を越すと、濶葉常綠樹や竹藪は急に減少し、山形縣では六月下旬に**櫻桃**の美しく熟したのが目につく。津輕平野では十月中旬に味も色もよい**林檎**が熟する。この方面では**椿**の自生北限地帶は男鹿半島南岸の椿山である。

津輕海峽は植物の分布に著しい影響を與へ、その南北によつて大に趣を異にする。**青森とゞまつ**は八甲田山で見られるが、北海道にはない。また蜜柑の一種**からたち**は青森縣にあつて北海道には見られない。

寒帶林は普通海拔一,〇〇〇米乃至一,四〇〇米で現はれるが、たゞ青森縣では約九七〇米でこの帶に達する。また早池峯山、月山、鳥海山、駒ケ岳(秋田)、藏王山などの諸山は高山植物に富み、**こまくさ**、**むしとりすみれ**など珍しいものがある。月山や早池峯山には歐洲のアルプスの植物を代表するエーデルワイスに似た**みやまうすゆきそう**がある。殊に月山の頂上はこの植物で一面に掩はれて居る。海岸にはこの地方の特色ある植物と云ふべき**はまなす**の群落があり、五月頃には美しい濃紅色の花を咲かす。また海藻中**ほんだわら**の類は日本海に限られ昆布は金華山附近に終つてその以南には見られない。

植物の開花期は**梅**は白河(福島縣)三月下旬、沼宮内(岩手縣)四月下旬、**桃**は白河四月下旬、新町(岩手縣)五月上旬、**櫻**は白河(福島縣)四月中旬、青森五月上旬である。また紅葉期は十和田、抱返りは十月中旬、山寺、甲子(福島縣)は十月下旬である。

左に本地方の天然記念物としての指定植物を示す。

三春瀧櫻　(福島縣田村郡中鄉村瀧久保)
苦竹の公孫樹　(宮城縣宮城郡原町宮城野の一部)
勝源院の逆栢　(岩手縣紫波郡日詰町日詰新田勝源院境内)
石割櫻　(盛岡市地方裁判所構内)
法量の公孫樹　(青森縣上北郡法奥澤村淵澤善正寺境内)
伊佐澤の久保櫻　(山形縣東置賜郡伊佐澤)
東根の欅　(山形縣北村山郡東根町東根小學校構内)
熊野神社の大杉　(山形縣西田川郡上鄉村)

東北地方は動物分布上大切な地位を占めて居る。わが國の動物は津輕海峽を境界線として南方種、北方種の二つに分たれ、この地方には南方種の北限を示し、北方種もまゝ殘存して居る。津輕海峽は英人ブラッキストンの研究(明治十六年亞細亞協會報告)によつて哺乳類、鳥類の分布上著しい境界となつて居ることが明にされた。この海峽以北に產して以南に見ることの出來ないのは、哺乳類では**あかぐま**、**えぞいたち**、**えぞてん**など、鳥類では**えぞやまどり**、**しまふくろ**などで、この海峽以南にあつて以北にないものは、哺乳類では**猿**、**てん**、**つきのわぐま**、**いのしし**など、鳥類では**やまどり**、**雉**などである。今尙この地方に殘存する北方種は**秋田犬**、**越後兎**、**山兎**、**山いたち**、十和田湖、大館、弘前地方の**五目ぜみ**で十和田湖の名產**ひめます**も北海道から移された北方種である。

渡鳥は北方から來てこの地方に着陸し、秋冬になると次第に南方へ移り、翌春またこの地方を經て北へ歸る。**うずら**は夏季に青森縣の山地から岩手縣の北部にかけて多いが、九月下旬には南へ移動する。**むく鳥**は九月頃青森附近に群集する。**鴨**は九月上旬から十月にかけて小川原沼、八郎潟、松島灣と次第に南下する。十二月頃には**四十雀**、**雁**を松島灣内に見る。春秋に青函連絡船で旅行するものは津輕海峽を往來する鳥類を見ることが多い。渡鳥で天然記念物として珍らしいのは冬季青森縣の野邊地灣の西岸に來る**はくちよう**と、夏季同縣八戶附近の蕪島に群棲する**うみねこ**(鷗の一種)である。後者はまた日本海の飛島にも來る。

東北地方は林野が廣く鳥類が多く生育して居るから全國諸地方中最も狩獵に適する。雉は宮城縣の北部、

岩手、青森二縣の西部、秋田、山形二縣の海岸地方に多い。鴨は八郎潟によく繁殖して居る。**おしどり**は十和田湖附近の溪谷に終歲見ることが出來る。

行政區劃

縣	面積 平方粁	面積 平方里	人口 總數	人口 一平方粁の密度	人口 一平方里の密度
福島	一三、七二〇	八九〇	一、四三七、五九六	一〇五	一、六一五
宮城	七、二八七	四七三	一、〇四四、〇三六	一四三	二、二〇七
岩手	一五、二三五	九八八	九〇〇、九八四	五九	九一二
青森	九、六三一	六二四	八一三、九七七	八四	一、三〇四
山形	九、三〇六	六〇三	一、〇二七、二九七	一一〇	一、七〇四
秋田	一一、七二四	七六〇	九三六、四〇八	八〇	一、二三二
計	六六、九〇三	四、三三七	六、一五九、二九八	九二	一、四二〇

東北地方は現今の普通行政區劃上六縣に分れ、福島縣は岩代の全部と磐城の大部分から成り、宮城縣は陸前の大部分と磐城の刈田、伊具、亘理の三郡を占め、岩手縣は陸中の大部分、陸前の氣仙郡及陸奧の二戸郡、青森縣は陸奧の大部分、山形縣は羽前の全部と羽後の飽海郡、秋田縣は羽後の大部分と陸中の鹿角郡を占めて居る。各縣市郡の名稱は左の通りである。

福島縣（三市十七郡）
福島市、若松市、郡山市、信夫郡、伊達郡、安達郡、安積郡、岩瀬郡、南會津郡、北會津郡、耶麻郡、河沼郡、大沼郡、東白川郡、西白河郡、田村郡、石城郡、雙葉郡、相馬郡

宮城縣（一市十六郡）
仙臺市、刈田郡、柴田郡、伊具郡、亘理郡、名取郡、宮城郡、黑川郡、加美郡、志田郡、玉造郡、遠田郡、栗原郡、登米郡、桃生郡、牡鹿郡、本吉郡

岩手縣（一市十三郡）
盛岡市、岩手郡、柴波郡、稗貫郡、和賀郡、膽澤郡、江刺郡、西磐井郡、東磐井郡、氣仙郡、上閉伊郡、下閉伊郡、九戸郡、二戸郡

青森縣（二市八郡）
青森市、弘前市、東津輕郡、西津輕郡、中津輕郡、南津輕郡、北津輕郡、上北郡、下北郡、三戸郡

山形縣（三市十一郡）
山形市、米澤市、鶴岡市、南村山郡、東村山郡、西村山郡、北村山郡、最上郡、飽海郡、東田川郡、西田川郡、西置賜郡、東置賜郡、南置賜郡

秋田縣（一市九郡）
秋田市、南秋田郡、北秋田郡、山本郡、河邊郡、由利郡、仙北郡、平鹿郡、雄勝郡、鹿角郡

常磐線で北行すると、關本と勿來の間で茨城縣から福島縣に入り、新地と坂元の間で福島縣から宮城縣に入る。東北本線で北行すると、下野豐原と白坂の間で栃木縣から福島縣に入り、藤田と越河の間で宮城縣に進む。更に石越と花泉の間で岩手縣に入り、金田一と三戸の間で青森縣に進む。奧羽本線で北行すると赤岩、板谷間で福島縣から山形縣に入り、及位、院內間で秋田縣に進み、陣場、碇ケ關間で青森縣に入る。羽越本線で北行すれば府屋、鼠ケ關間で新潟縣から山形縣に入り、吹浦、小砂川間で秋田縣となる。また磐越西線で西行すると德澤、豐實間で福島縣から新潟縣に出る。

軍政區劃上第二師管區は宮城、福島兩縣、第八師管區は青森、岩手、秋田、山形の四縣を占め、更に仙臺、福島、青森、盛岡、秋田、山形の聯隊區に分れて居る。そして仙臺に第二師團、弘前に第八師團の司令部がある。

陸軍常備團隊配備表

衛戍地名	師團	師團司令部所在地	步兵旅團	旅團司令部所在地	步兵聯隊	騎兵旅團	旅團司令部所在地	騎兵聯隊	砲兵 野砲兵聯隊	工兵大隊	輜重兵大隊
仙臺	第二	仙臺	第三	仙臺	第四			第二	第二	第二	第二
若松					第二十九						
青森	第八	弘前	第四	弘前	第五						
弘前					第三十一				第八		第八
秋田			第十六	秋田	第十七						
山形					第三十二						
弘前						第三	盛岡	第八			
盛岡								第二十三		第八	
								第二十四			

風俗

奥羽地方は風土位置の關係で風俗は槪して質素である。家屋は木造のものが多く、古來茅葺、柾葺、杉皮葺などが廣く行はれて居たが近年防火の必要上トタン葺、瓦葺に改められたものが少くない。日本海岸には妻入の町家が多く、柾葺屋根に石を竝べて居るものも少くない。風の强い地方では家屋の周圍に防風林を植ゑて居る所もある。盛岡附近で多く見る矩形の家は所謂**南部の曲家**で住宅と廐を結び付けられたもので竈や爐で焚く火氣が廐に通ずる仕掛になつて居る。會津山形地方では資産家の家屋は外面からは質素な構造に見えるが、奥には土藏を造りその中に立派な藏座敷を設けて居るものがある。

衣服は槪して質素であつて、勞働に便利で暖かいものをつける。岩手縣では**こぎの**（**こぎぬ**）と云ふ勞働服が最も廣く行はれ、**むじり**と稱する筒袖を着る地方もある。秋田縣仙北郡の山間では男女とも**ぼと**と云ふものを着る。これは袂がなく袖、裾の短いものである。この地方では半股引、脛當をつけ、女は頭を**たな**と稱する布で包み襟卷を垂れる。男は外出の際腰に山刀をつける風がある。

山形、秋田の二縣、岩手縣の東北部及青森縣の東部では女は冬季外出に**ふろしき**を被る風がある。飛島の女は夏冬を通じて**ふろしき**を被る。眞紅な**ふろしき**を被つた娘を見るのはこの島の一異彩である。秋田縣の象潟附近では娘は**どもつこ**と稱する紺の布を被つて更に笠を被る。山袴の類は廣く行はれ、一般に**もんぺい**または**もつぺい**と云ひ、福島縣三春では**かつさん**、岩手縣では**さるぺ**と稱し、また福島縣には**ふごみ**と云ふ處もある。雪にも山道にも便利なもので男女共にこれを用ゐる。

食物は槪して質素である。都會や中流以上の家庭の食物は他地方と大差なく米を常食とするが、中流以下の人々は米に麥、粟、稗、豆類、野菜などを混ぜて居る。岩手縣の僻村では大根の莖や昆布を細く切つて**めのこ**と稱するものを作り、これに少量の粟、稗を混ぜて常

食とし、山形縣荘内地方の貧民には**さがく葉**を米に混ぜ**つくめし**或は**うつき**と云ふものを作つて食用とするものがある。副食物は馬鈴薯を始め普通の野菜の外**あいこ**、**みず**の莖、**なめこ**、**まいたけ**などの菌類も食膳によく上る。山奥では葛根、蕨根、栃實、楢實も糧に充て蝦蟇、蝗虫を食する處もある。

魚族分布の關係上、岩手縣以南の東岸では鰹、鮪の類が食せられ、その他の地方では鮭、鱒を食膳に見ることが多い、鮭については神祕的な傳說もあり神聖視する地方さへある。秋田地方で賞美される**はたはた**と稱する魚は土崎から岩館までの近海が名產地で、秋の末雪のちらちら降る頃から浪の荒れて遠く雷の音のする日には盛に獲れ、**酢のはたはた**は春の祝になければならないものとされて居る。かずの子に似た**はたはた**の卵は**ぶりこ**と稱せられ、新年の料理の内に加へられる。

年中行事は風土の關係で他の地方に比べて多少變つて居る。竹の少い地方では新年の門松にこれを添へることが出來ない。伊勢海老の得られない處では**はにしん**（鯡）をこれに代へる。三月三日の雛祭には桃がまだ咲かないから枝だけをかたばかりに用ゐる。秋田地方では五月五日には**ちまき**の外に**笹まき**を作る。田植の祝は廣く行はれ、福島縣石城郡ではこの日の祝の膳には普通に凍豆腐、凍大根、**わかめ**、**あきあじ**（鹽鮭）を用ゐ、羽後の由利郡では拇指ほどの筍の煮付を多く用ゐ、また田植終りの祝には**五月飯**を用ゐる。これは朴の葉を二枚合せてその上に藁を十字にかけて結び、中には豆の粉を敷いてその上に少量の飯を置いたものである。

東北地方の風習には古代の遺風の珍らしいものが多い。福島縣四ツ倉地方には舊正月中旬に火打合が行はれ、勝つた方は豐年と信じて居る。岩手縣江刺郡、膽澤郡の一部には**蘇民曳き**と稱し、舊正月七日の夜に青年が寺堂に集つて**蘇民袋**を取合ひして豐凶の年占をする。舊正月の十四日または十五日の夜には奇異の假裝をした青年が家々の子供をおどす眞似して、餅團子菓子などを貰ひあるき、また子供自らこれを貰ひあるく

風が各地に行はる。釜石地方ではこれを**がんぼう**と云ひ、遠野地方では**もうこ**と稱へ、船川及仙北郡では**なまはげ**と呼んで居る。福島縣二本松及南會津の地方ではこれを笠鳥と云ひ、陸前その他ではこれを**かせとり**と稱する。東津輕郡油川地方では**かばかば參つた**と呼びあるく風習となつて居る。また**ねぶた流し**は舊七月上旬に處々に行はれて、壯觀を極める。弘前青森地方では**ねぶた祭**と稱し、人物、草木、禽獸などの形を造り、その上に紙を貼り彩色を施したものを舁ぎ巡り、または車臺に載せて市中を練りあるき、秋田縣能代大曲地方では**ねぶり流し**と稱し、切籠燈籠を流し、秋田では**竿燈**の大行列が行はれる、また七月中旬相馬地方に行はれる**野馬追**は中村、小高、原の町に亙つて行はれる勇壯な祭禮で、これによつて牧馬地方に保存された武勇奬勵の遺風を見ることができる。

東北地方で尊信せられる神社を見るに、宮城縣鹽釜の鹽竈神社は主として安産の神、金華山神社は理財の神として參詣者が多く、岩沼の竹駒神社、郡山の安積國造神社も信仰が厚く、水澤の駒形神社は馬の守護神として尊信する者が多い。八戸の三社大祭、能代の日吉神社祭、大曲の諏訪神社祭、酒田の日枝神社祭の當日は何れも盛況を呈する。

高山及火山の頂上には社祠があつて一般に信仰が厚く、夏季には黃笠白衣の登山者が多い。特に羽前の羽黑、月山、湯殿は登山者最も多く、信徒は廣大な區域に亙る。鳥海山も大に尊信せられ、山形、秋田諸縣の各地には鳥海山大權現の石標を見る。青森縣の岩木山は七月頃から十月初にかけて山詣が盛んで、參詣人の唱へる、**懺悔々々**、**六根淸淨**、**御山初來**、**金剛童子**、**一々禮拜**、**南無歸命頂禮**の聲が續く、また恐山では舊七月二十五日山納祭に參詣者の幟が多く見られる。その他福島縣の飯豐山、宮城縣の栗駒山、岩手縣の岩手山、駒形山、南昌山、姬神山なども登山參拜者が多い。

佛敎では主として觀音、地藏の信仰が行はれ、南部北奧などの牧馬地帶には特に馬頭觀音を祀つて居る。修驗道も盛んで、出羽三山の信仰もこれから出たのである。原始宗敎ではリンガ崇拜の遺風が尙稀に見られる。北奧では金勢明神と云ひ、男性のものは、これを道祖神或は賽の神と稱し、女性のものは通常これを淡島(粟島)明神と稱へて居る。

左に東北地方に於ける主なる年中行事とその關係驛を示す。

舊正月七日	柳津虛空藏	會津柳津
舊正月十四日—十五日	羽黑山曉詣	福島
二月十一日	十日市	會津若松
三月十二日—十七日	馬市	白河
三月十三日—十九日	竹駒神社初午祭	岩沼
三月廿五日	軍旗祭	會津若松
三月廿八日	軍旗祭	山形
舊三月二十九日	志波彥神社祭	鹽竈
舊三月十三日	柳津虛空藏	會津柳津
舊三月十六日—十七日	東堂山觀音	小野新町
四月三日—五日	汐干狩	淺虫
四月十日—十二日	鹿島臺神社祭	鹿島臺
四月十七日	東照宮祭	仙臺
四月十七日	古四王神社祭	土崎
四月廿二日	靈山神社祭	福島
四月廿四日—廿五日	莊內神社祭	鶴岡
四月廿五日	鹽竈神社花祭	鹽竈
四月廿八日—卅日	上杉神社祭	米澤
舊四月卅日—五月一日	招魂祭	仙臺
四月下旬	加治川堤觀櫻	新發田 加治
五月一日	松岬神社祭	米澤
五月一日—二日	白山神社祭	平泉
五月一日—七日	青麻神社祭	岩切
五月二日—四日	駒形神社祭	水澤
五月七日—八日	古四王神社祭	土崎
五月八日	藥師如來祭	山形
五月八日	大物忌神社祭	吹浦 遊佐
五月上旬	鷹揚公園觀櫻	弘前
五月上旬	競馬	郡山
五月中旬	合浦公園觀櫻	濵打
五月十五日	椙尾神社祭	羽前大山
五月二十日	日枝神社祭	酒田
五月廿日—廿一日	生出森八幡祭	長町

五月廿一日	光丘神社祭	酒田
五月廿四日―廿五日	青葉神社祭	仙臺
五月廿五日	天満宮祭	鶴岡
五月廿五日―廿六日	櫻山神社祭	盛岡
五月下旬	競馬	福島
六月五日―十四日	大山祇神社祭	野澤
舊六月十四日	天王祭	伊達
舊六月十七日	駒形神社祭	好摩
七月一日	日枝神社祭	酒田
七月十日	鹽竈神社祭	鹽竈
七月十一日―十三日	野馬追祭	中村・鹿島・原ノ町
七月十二日	伊佐須美神社祭	會津高田
七月十五日	月山神社祭	狩川
同	湯殿山神社祭	
同	出羽神社祭	鶴岡
七月廿日―廿一日	神明社祭	土崎
七月廿一日―廿二日	日吉神社祭	能代
舊七月朔日―七日	ねぷた祭	弘前
舊七月廿二日―廿三日	黒岩虚空藏	福島
舊七月廿四日―廿五日	小平潟天満宮祭	關都
舊七月二十九日―八月朔日	岩木山詣(山かけ)	弘前
八月一日	岩木山神社祭	弘前
八月一日―四日	ねぷた祭	青森
八月二日	北上川川開	石巻
八月十三日	盂蘭盆煙火大會	横手
八月廿二日―廿四日	諏訪神社祭煙火大會	大曲
八月廿五日	天満宮、戸澤神社祭	新庄
八月廿七日	諏訪神社祭	新發田
舊八月十七日	小栗山神社祭	弘前
九月一日―三日	三社大祭	八戸
九月三日―七日	馬市	木造
九月中旬	馬市	盛岡
九月十一日	都々古別神社祭(棚倉)	磐城棚倉
九月十四日―十五日	日吉八幡神社祭	秋田
九月十五日	大崎八幡神社祭	仙臺
同	伊佐須美神社祭	會津高田
十月十四日―十五日	安倍八幡神社祭	盛岡
九月十九日―二十日	駒形神社祭	水澤
九月廿七日―廿九日	安積國造神社祭	郡山
九月廿九日―十月三日	馬市	白河
舊九月九日	大山祇神社祭	野澤
舊九月廿五日―末日	秋餅廻し	青森
十月四日―六日	二本松神社祭	二本松
十月九日―十一日	福島市祭典	福島
十月十七日	最上義光祭	山形
十月十八日―廿一日	馬市	川渡
十月下旬	競馬	福島
十月下旬	競馬	郡山
十一月一日	都都古別神社祭(近津)	磐城棚倉
十一月十日―十二日	鹿島臺神社祭	鹿島臺

方言

東北地方は古來交通が不便で人文普及の後れた處が少からず、ために各地に特有の方言が行はれた。しかるに今は交通及教育の發達と共に大に改善せられて來たが、尙概して鼻音が多く、發音、語法上普通語と異なる地方もあつて旅行者の不便を感ずる場合がある。

この地方では發音上

い、え　**し、す**
ち、つ　**ひ、ふ**
み、め　**む、も**

を混同することが少くない。例へば

いび(蝦)　**えと**(絲)
からし(烏)　**なす**(梨)
ずんさ(巡査)　**けんつず**(縣知事)
ふとつ(一つ)　**ひたつ**(二つ)
おうかめ(狼)　**もこ**(壻)

次に清音を濁音に云ふものが多い。例へば

がに(蟹)　**がえる**(蛙)
さが(坂)　**かだ**(肩)

時には**き**を**ち**に訛つて

きのう(昨日)を　**ちのう**
きよういく(教育)を　**ちよういく**

と云ひ、また**だい**を**でああ**、**か**を**けあ**と發音して

だいこん(大根)を　**でああこん**
かない(家内)を　**けなえ**

と云ふ。また一般に名詞に**こ**を添加し、てにをはの**へ**

を**さ**または**ちや**と云ひ、地方によつては語尾に**べ**をつけて云ふ。例へば

ほり（堀）を　**ほりこ**
やま（山）を　**やまこ**
みそ（味噌）を　**みそこ**
町へ行くを　**町さ行く**
此處へ來いを　**ここさこい**
明日來るを　**明日來るべ**
どつちや行げばえがすか、あつちや行つてたんへ
（何方へ行けばよいか、あつちへ行つて御聞きなさい）

と云ふ。

東北地方では各地風土の差異もあり、文化も地方的に發達を異にした關係で、地方毎に方言の特異なものを耳にするのである。福島縣には

い　が　い（大い）
ござんしよ（おいでなさい）

などの言葉があり、宮城縣には

あずける（與へる）
あ　ば　い（行から）
お　ち　る（おりる）
で　き　る（出る）
も　じ　る（曲る）
が　　　え（來なさい）
うんねえ（對話中の言葉のはい）
いぎえん（行きませぬ）

などの言葉がある。仙臺地方の方言歌に

いぐいす（鶯）**や、初音ぶん出せ、聞くべいにあぜに**（何故に）**啼かない無沙汰だんべい**

とあるのは面白い。

北に進んで岩手縣には

う　　　ね（對話中のはい）
げ　　だ（厭だ）
ご　つ　こ（肴）
ず　ほ　ど（手拭）
なだまし（なんです）

あ　べ　さ（行から）
およせて下さい（御覽下さい）
な、ござんす（ありません）

などの言葉が行はれる。更に青森縣に入ると

ひ　ぶ　と（爐）
へえんつい（便所）
あ　げ　る（預ける）
き　や　ど（街道）
け　　　ら（蓑）
ご　　　へ（藁沓）
た　ま　る（曲る）

などの言葉がある、津輕地方の田植唄に

どたば（どうしたんだらう）
えこの（分家の）**てであ**（阿爺）
雨ふる中に、笠もかぶらなえで（被らずに）
みの（蓑）**こもきなえで**（着ずに）

とあるのは野趣に富んで面白い。山形縣には

おしようし（有難う）〔米澤地方〕
あ　ま　い（承知しました）〔米澤地方〕
わかつたす（承知しました）〔山形地方〕
あばつしやい、んぢや（行きませう）
ほだす、ふだす（さうです）
はえつとう（御免なさい）〔山形附近〕
ね　あ　い（御免なさい）〔鶴岡附近〕

などの言葉が行はれる。山形地方では物を買ひに行つた時の用語に

か　う　す（下さいな）
何　や　す（何をあげませうか）
……**けらつしやいす**（………を下さい）
十錢やす（十錢分を下さい）

と云ふのがある。秋田縣では

けてたんせい（下さい）
ひ　と　や（ちよつと）
ずつしり（澤山）
しやつこい、さつこい（冷い）

などの言葉が行はれる。秋田音頭に

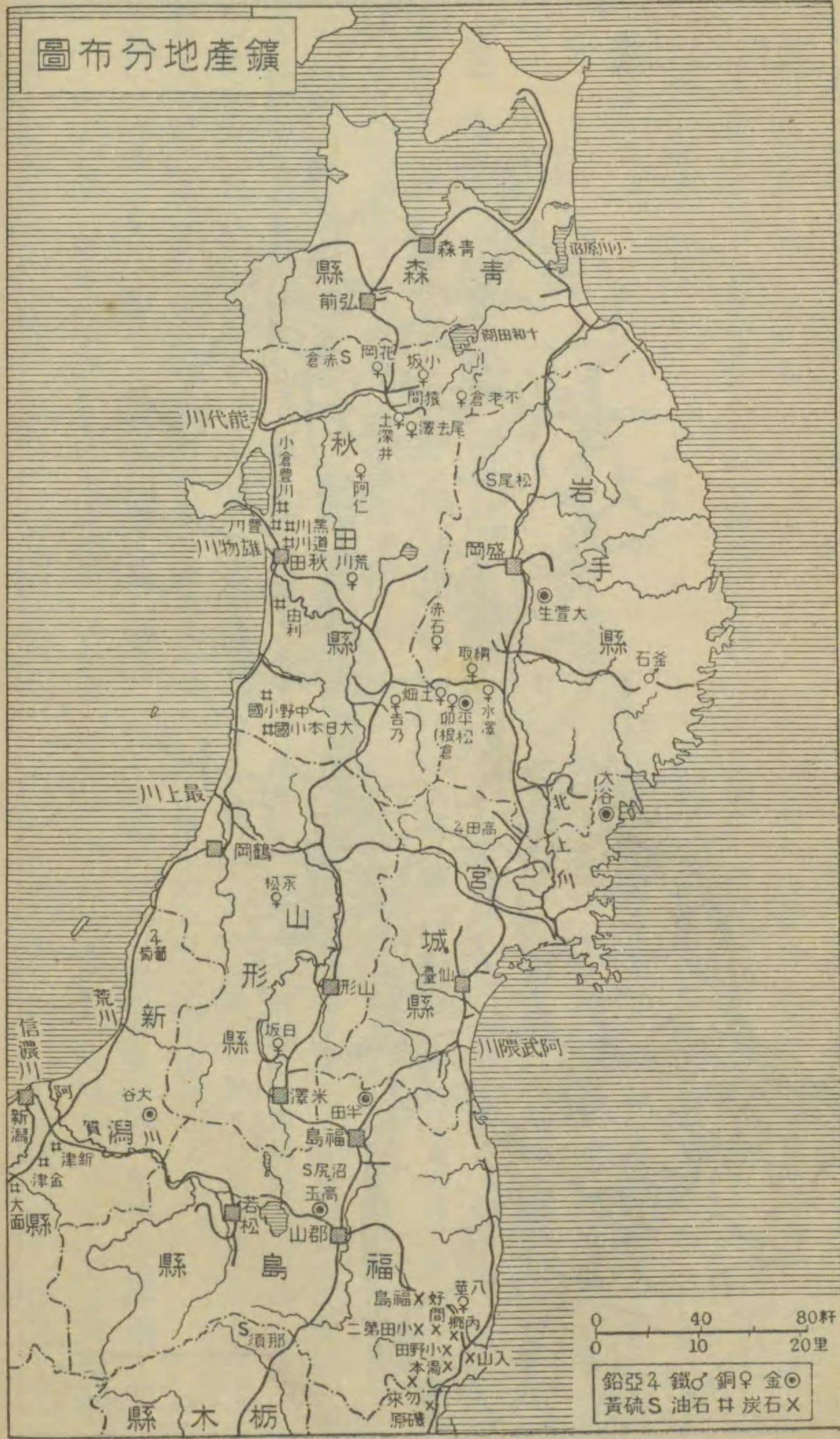
棚このしま（隅）この荒このひる（蒜）こ、
味噌こであえだどさ（あへたとさ）
皿こさ入れで（皿に入れて）
じやど（座頭）**こさかせだら**（盲人に食はせたら）
うまいと喜んだ
と云ふのがある。

産業

農業　東北地方は原野が廣く、耕地は全面積の約一割半を占め、米の産出が多くてその主要な供給地となつて居る。米の生産額は秋田、山形兩縣が各百九十餘萬石、宮城、福島の二縣は各百六十餘萬石で、岩手、青森兩縣は各百萬石内外である。一般に秋冷が早く來るので收穫後の乾燥が十分でなく、そのため米の品質に影響するが、山形縣荘内平野に産する米は優良なので名高い。麥類は宮城、岩手、福島の三縣に多く産し、大豆、小豆、粟、稗は岩手縣がその主産地で、馬鈴薯は青森、宮城、福島の三縣に、葉煙草は福島縣に多い。

果實で名高いのは林檎、櫻桃、梨、柿で、青森縣に於ける林檎の産額は全國總額の三分の二を占め、縣内の産物では米に次いで大切なものである。津輕地方の丘陵から平野に亘つて廣く栽培せられ、弘前はその集散地である。早熟種の紅魁は七月下旬、中熟種の祝は八月上旬から市場に現はれ、十月中旬から收穫する晩熟種の紅玉は最も風味がよい。櫻桃は山形、福島の二縣に多く、山形縣は内地總産額の半を占め、山形米澤の兩盆地がその産地である、福島縣はこれに次いで福島盆地に盛に栽培せられ、六月下旬から七月上旬にかけては、美しい果實が汽車の窓から眺められる。梨は福島縣に日本梨を産し、福島附近の庭坂から優良な品種が出る。秋田縣には西洋梨の産が多い。柿は福島縣に多く、會津地方の身不知が名高い。この他葡萄は山形、福島の二縣に産する。

蠶業　この地方の蠶種、繭、生絲の産額は全國の約一割で、福島、山形、宮城の三縣は主要養蠶地帶である。殊に福島縣は全國中長野縣に次いで養蠶戸數が多



く、福島、郡山には製絲が盛んである。

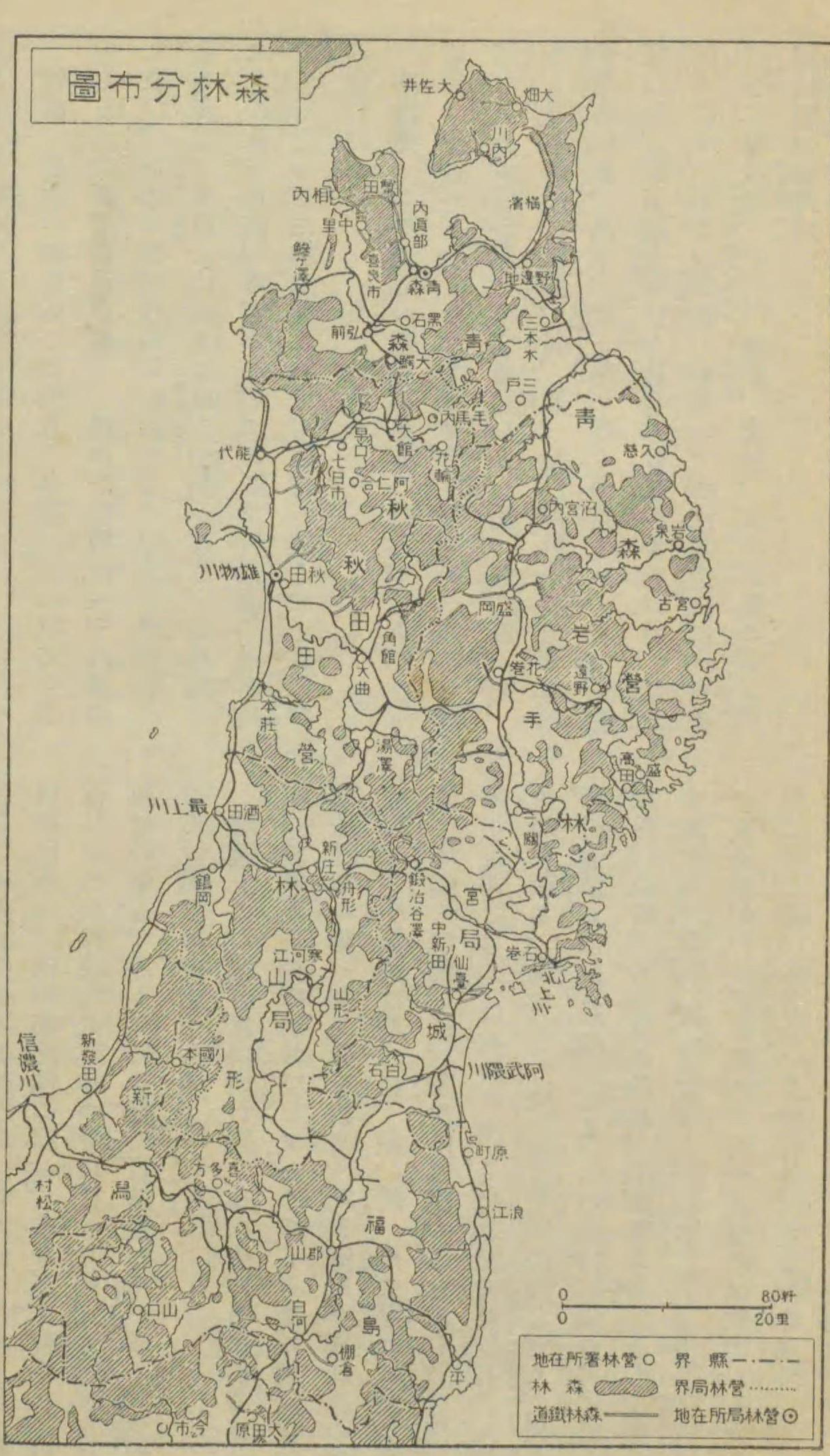
牧畜 舊幕の頃からこの地方の各藩は共に牧馬を奬勵したので良馬の產が多く、馬の全頭數は三十八萬頭に及び、全國の約四分の一にあたる。中にも岩手縣に最も多く、盛岡では盛大な馬市が開かれる。福島縣はこれに次ぎ白河の馬市が有名である。青森縣では小川原沼附近から三本木野にかけて牧馬が盛んで七戶に糶市が行はれる。

水產業 この地方の近海は魚族に富んで居るが、水產業の發達が不十分なため漁獲物は全國の一割にも及ばない。太平洋岸には**するめいか**、鮪、鰈、鮫、鮑、鰹、日本海岸には鯛、鯖、鰮、鮭、津輕海峽方面には**するめいか**、昆布、鱈、鮑が多く漁獲され、また青森縣の鮫、宮城縣金華山の沖合には捕鯨が行はれ、淡水產では十和田湖の姫鱒が名高い。水產製造物には青森岩手二縣の鯣、干鮑、搾粕、宮城、岩手二縣の鰹節、宮城縣の蒲鉾がある。

林業 この地方には山地が多く林業が廣く行はれて居る。林產額は全國總額の約一割四分にあたり殊に秋田縣に多い、秋田縣北部の杉林、青森縣津輕半島の**ひば**林は共に內地三大美林の中に數へられ、能代、青森は製材の中心である。岩手縣には薪炭の產が多く、宮古はその集散の港市である。

鑛業 この地方は山地が廣く火山岩の噴出が多かつたので鑛脈及鑛床がおびたゞしく生じ、その鑛產額は內地總額の約一割三分を占め、秋田縣は全國屈指の鑛產地で、小坂には銅、金、銀、鉛、尾去澤には銅、金、銀、阿仁には銅、銀、荒川には銅、銀を產し、豐川、道川、黑川などには石油が出る。岩手縣では釜石、久慈に鐵を產し、福島縣では常磐炭田に內鄕、入山、小野田、湯本などの炭坑がある。この他宮城縣の高田からは鉛、亞鉛、岩手縣の松尾、福島縣の沼尻からは硫黃を產する。常磐線で北進すると勿來から湯本、綴附近に亘る炭田の壯觀を眺め、奧羽本線には秋田から大久保に至る間に油井櫓の丘陵に林立するのを見る。

工業 この地方には大規模の工業の發達は遲々とし



て進まないが、古來工藝品の產が少くない。その著しいものは生絲、絹織物で福島、山形の二縣には生絲の產が多く、福島縣の川俣には輸出向の羽二重を產し、山形縣には米澤に絲織、長井に米琉、山形に節織、鶴岡に羽二重を產する。この他仙臺には仙臺平、八橋織、秋田に八丈の名產がある。別に仙臺、郡山には紡績業が行はれる。清酒は各地で釀造せられ、若松、仙臺、米澤、大山、湯澤、增田などはその主產地である。麥酒は仙臺で釀造せられる。

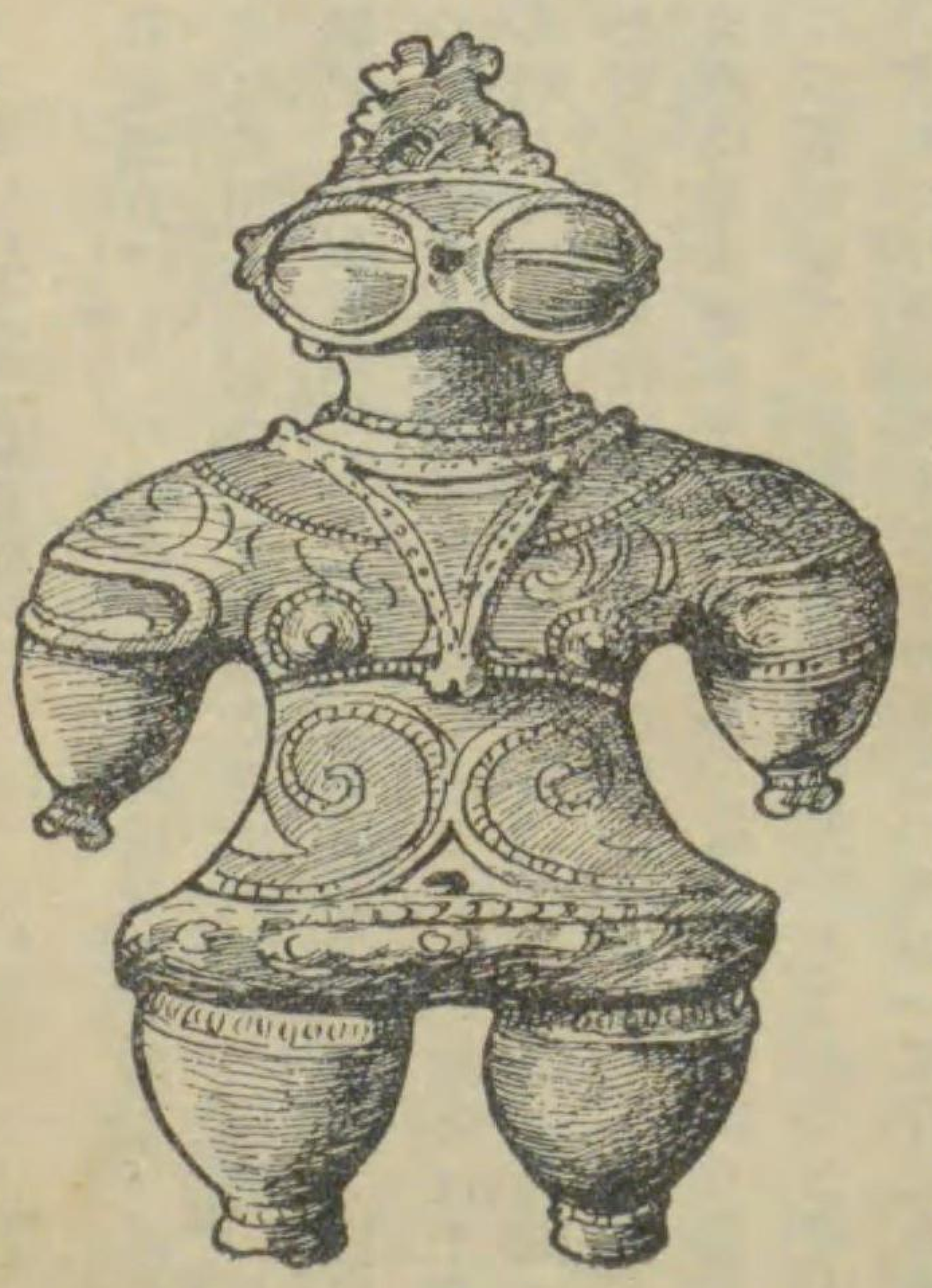
漆器には會津塗、能代春慶塗、津輕塗を始とし、山形の花塗、鶴岡の竹塗、川連漆器、角館春慶塗、淨法寺椀(岩手縣荒町)などがある。陶磁器には會津燒相馬燒が產額多く、鐵器では盛岡、山形、秋田の鐵瓶米澤の鎌が名高い。また埋木細工は仙臺に、黑柿細工は山形及鶴岡に、曲物は湯澤に、樺細工は角館に、木通蔓細工は弘前に產する。

地方の名產として旅客を喜ばすものは福島の信夫文字摺、仙臺の鯛味噌の外に仙臺の九重、政岡豆、山形米澤ののし梅、甘露梅、秋田の蕗の砂糖漬、秋田諸越などの名菓がある。

有史前の遺蹟及遺物

東北地方は關東及北海道と共に石器時代の遺蹟が多く、その主なるものは貝塚と遺物包含地である。松島灣の宮戸島、福島縣相馬郡新地などは貝塚の著しいもので、青森縣の龜ヶ岡、秋田縣の麻生などは多くの發掘品を出した遺物包含地として名高い。その遺物の主な

龜ヶ岡土偶



るものには、土製品では繩文土器、彌生式土器、土偶、土版などがあり、石製品では石鏃、石皿、石臼、石槌、打製石斧、磨製石斧、石錐、石槍、石匙、石小刀、石庖丁、石鈷、石棒、岩版などがある。

これらの遺物は有史前に於ける東北地方の文化を見るべき貴重な資料である。そしてこれらの遺蹟遺物を殘した民族は如何なる人種であつたかと云ふ問題に就いてはまだ定說はないのである。

わが石器時代民族はアイヌの口碑に殘つて居るコロボクグルと稱する種族でアイヌとは別な人種であると云ふ說があり、これに對してわが石器時代の遺蹟遺物はアイヌのものでその口碑に傳はつて居るコロボクグルと稱するものも、畢竟アイヌそのものであらうと云ふ說がある。また古史に屢々出て居る蝦夷は卽ちアイヌの祖先であると解し、從つて有史前東北地方に住んで居た民族を日本民族の祖先と考へない學者もある。これに對して石器時代の彌生式土器はアイヌの使用して居た繩文土器から發達したものであつてこの土器を使用した民族は原日本人とも稱すべき日本民族の祖先であらうと云ふ說がある。

沿革及史蹟

東北地方は古の陸奧、出羽兩國の地である。陸奧はまた奧州とも云ひ、太平洋方面にあたり、白河、勿來以北、出羽は羽州とも稱し、日本海方面の念珠ヶ關以北の廣漠なる土地の汎稱である。これらの地方は上代蝦夷地として久しく化外の地であつたが、屢々東征の軍を派遣して皇化に浴せしめた處である。

奧州は東山道の東北隅を占め、古帝都の地から遠く隔つて居たので、道奧と稱し、後轉化してむつと呼んだ。古史に日高見國とあるのもこの國の一部分にあたる。出羽はもと**いでは**と稱したが、後**い**を略して**では**と呼ぶに至つた。明治初年陸奧は磐城、岩代、陸前、陸中、陸奧の五國、出羽は羽前、羽後の二國に分たれた。これらの蝦夷地は上古わが大和民族が國土の經營を東北に進めるに從つて漸次勢力を伸した處で、その

進展拓殖のあとは古史に歴々徵すべきものが少くない。崇神天皇の時に北陸に派遣された大彥命の會津に入つたのが、この地方の古史に見えた初である。景行天皇の時には武內宿禰が東北諸國を巡察し、還つて日高見國に於ける東夷の情況を復命した。次いで日本武尊は東征して蝦夷を討伐し、成務天皇の時陸奧の地に九國を建て、應神天皇の時更に二國を增置して十一國となし、仁德天皇の時田道は蝦夷を征伐した。かくて上古に於て蝦夷に對するわが勢力は大體に於て阿賀、阿武隈兩河の流域まで發展した。然るに大化の改新には內地の整頓と共にこの方面にも一層の注意が拂はれ、前の諸國を停めて郡となし、陸奧國が置かれた。當時の陸奧國は今の磐城、岩代、陸前の地方で、それより北は尙化外の地であつた。

日本海方面に於ては、孝德天皇の大化三年始めて信濃川河口附近の渟足(今の新潟の一部)に蝦夷防禦の柵が築かれ、更に翌四年にはその北方磐船に柵が置かれた。次いで齊明天皇の四年に阿倍比羅夫が舟師を率ゐて齶田(羽後秋田地方)渟代(羽後能代地方)を征し、酋長を郡領に任じて自治せしめた。かくて奧羽拓殖の事業はこれより漸を逐うて進み、陸奧及越の蝦夷が相次いで內屬した。その後天武天皇の時に蝦夷の順化民たる俘囚の請によつて始めて田川郡が設けられた。更に元明天皇の和銅元年には出羽郡が設置せられ、城柵も磐より船北進して莊內の地に出羽柵が置かれた。しかし蝦夷は屢々良民を害したので、同二年に陸奧鎭東將軍と征越後將軍を遣はしてこれを征伐し、同五年に出羽國が建てられ、東國の移民をこれに配して開拓に從はしめた。同年陸奧の置賜、最上の二郡を割いて、出羽國に編入せしめた。元正天皇の養老二年には陸奧國の石城、標葉、行方、宇太、亘理、菊多の六郡を割いて石城國となし、また白河、石背、會津、安積、信夫の五郡を割いて石背國が置かれたが、久しからずして石城、石背の二國は廢して陸奧に併された。その後わが勢力の漸次北進すると共に、蝦夷再び反抗し、養老四年に陸奧按察使を殺した。そこで持節征夷將軍を

陸奥に、持節鎭狄將軍を出羽に遣はして討伐せしめた。次いて陸奥按察使をして出羽を管せしめて、陸奥と出羽を同一政令の下に置いた。聖武天皇の神龜元年陸奥の蝦夷が叛いてその大椽を殺したので、持節大將軍を遣してこれを征せしめ、これと同時に出羽方面は鎭狄將軍をして鎭せしめた。この時多賀城を築いて鎭守府を置いた。その遺蹟は今尙宮城郡多賀城村に遺つて居る。神龜四年には白河、玉造の軍團も置かれた。かくて漸次拓殖經營の功を奏して天平五年に至り出羽柵は北進して一躍秋田の高淸水岡（今の南秋田郡寺内村）に遷され、雄勝に郡家を建てゝ人民を移住せしめた。こゝに於て多賀と出羽柵の連絡を圖り、天平九年に鎭守將軍大野東人は陸奥の蝦夷を鎭撫し、賀美から出羽の雄勝まで道を開鑿した。

　淳仁天皇の時に至つて、奥羽兩國連鎖の要害として雄勝の城柵が完成せられた。その結果仙北地方には雄勝、平鹿の二郡が建てられ、次いで山本郡の建置を見るに至つた。されど反亂は尙屢々起り、光仁天皇の寶龜六年には、一旦秋田まで進出した鎭所が一時最上川河口附近に引き還すの止むなきに至つた。その後經略その功を奏し、同十年秋田城を回復したので、以後は國司の介を城に置いて治めしめた。

　兎も角東北拓殖の結果、中央の文化が次第にこの邊土にも及び、聖武天皇の天平年間、詔によつて國分寺及國分尼寺が陸奥、出羽兩國にも建立せられた。陸奥國の國分寺はその遺址今に仙臺の東郊宮城野に殘つて居る。多賀城址とこの國分寺址は陸奥國に於ける奈良時代の史蹟として最も著名なものである。

　かくの如くにして奥羽の拓殖は、奈良時代の末には陸奥方面では陸前の北部に及んだが、この地方の蝦夷が頑强であつたため、その進展に澁滯を來した。出羽方面では越後から海上を進み、沿岸の要地を占めて拓殖を遂げ、秋田にまで及んだ。しかもその勢力は未だ出羽の内部には普及しなかつた。

　平安時代に入りて、桓武天皇の時蝦夷征伐の事業が大規模に續行せられ、延暦二十年征夷大將軍坂上田

村麿は蝦夷の巣窟であつた陸中膽澤の地を平定し、翌年膽澤城を築き鎭守府は多賀からこの處に移された。
これより膽澤城は秋田城と共に邊要の鎭となつた。今岩手縣膽澤郡佐倉河村にその遺址を殘して居る。かくの如く坂上田村麿の功によつて陸奥の拓殖は長足の進歩をなした。嵯峨天皇の時に至り、文室綿麿その後を承けて蝦夷を討平した。次いで陽成天皇の元慶二年に至つて、出羽の俘囚が大亂を起し秋田城を攻略したが、藤原保則が俘囚の豪族淸原氏の援を得てこれを歸服せしめた。その後は淸原氏が俘囚の長として仙北地方に據つて一族强盛を極めて居た。かくて延喜年間に陸奥、出羽兩國は左の諸郡を管轄して居た。

陸奥國

白河　磐瀬　會津　耶麻　安積　安達　信夫
刈田　柴田　名取　菊多　磐城　標葉　行方
宇多　伊具　亘理　宮城　黒川　賀美　色麻
玉造　志田　栗原　磐井　江刺　膽澤　長岡
新田　小田　遠田　登米　桃生　氣仙　牡鹿
（以上三十五郡）

出羽國

最上　村山　置賜　雄勝　平鹿　秋田　山本
飽海　河邊　田川　出羽（以上十一郡）

　當時これらの諸郡にあつた神社のうち、朝廷の奉幣を受けて居た官社が、陸奥には百座、出羽には九座あつた。その神社は延喜式に記載されて居る。それらには今日尙官國幣社として、或は縣社、鄕社、村社として殘つて居るものもある。これら神社の分布を研究することは、當時に於ける行政の模樣を知る上に於ても必要なことである。

　陸奥の開拓は陸路常陸と下野から進めて行つたものである。その交通の關所の主なものは常陸からは勿來關で、下野からは白河關であつた。都から陸奥へ通ずる道は古來主としてこの二關を經由したもので、今もその關址が殘つて居る。平安時代の末葉、陸奥には旣に王化に浴した東夷の豪族安倍氏があり、頼時に至つて膽澤、和賀、江刺、稗貫、志波、岩手の六郡を横領

しその威勢が衣川以南に及んだ。後冷泉天皇の時その子貞任と共に陸奥を亂したので、天喜四年源頼義に命じてこれを討たしめられた。當時貞任などの據つた厨川の遺址と傳ふるものが盛岡附近に殘つて居る。この役に源頼義は出羽の俘囚の長清原武則の援助を得て安倍氏を平定することを得たが、討滅に至るまで前後九年を要した。これが前九年役である。武則はその功により鎭守府將軍に補せられ、頼時の領して居た六郡を併有し、傳へてその子武貞及孫眞衡に及んだが、眞衡が同族武衡、家衡と爭つて陸奥、出羽が亂れた。源義家は眞衡を助け、武衡、家衡を出羽の金澤柵に攻めて寛治元年これを平定した。それで陸奥、出羽に於ける清原氏の勢力が覆へされた。これが後三年役である。この役に義家は藤原清衡の援を得て功を奏したので、清衡は陸奥の六郡を領し且つ陸奥國押領使となり、その子基衡、孫秀衡相次いで益〻勢力を張り、安倍、清原二氏の後を承けて、陸奥に於ける大豪族となり、平泉に居館を構へ、中尊寺、毛越寺などを建て、王朝文化を東方の邊土に移して、所謂陸奥藤原氏三代の榮華を極めたのである。清衡の建てた中尊寺は今尙當時の金色堂及經藏を存し、その他基衡の創建にかゝる宏大なる毛越寺や秀衡が宇治の平等院に模して造つた無量光院などの遺址も存し、當時を偲ぶべきものが多い。福島縣の白水阿彌陀堂及宮城縣の高藏寺阿彌陀堂などは直接或は間接に藤原氏三代文化の影響によつて造られた寺塔と認められるものである。

源頼朝の鎌倉によるや、秀衡を憚り鄰好に努めたものであつたが、秀衡の子泰衡嗣ぐに及び文治五年自ら兵を帥ゐ大擧して白河關を越えて敵軍を阿津賀志山（厚樫山）の麓に破り敵將國衡を殺した。泰衡は味方の軍勢利なきを見て、多賀の國府及玉造などを棄てて、平泉に退き、居館に火を放ちて遁走したが、途中その家人に殺された。かくて頼朝は陸奥を平定し、葛西清重を奥州總奉行となして陸奥の家人などを管領せしめ、また伊澤家景を陸奥留守職とし衆庶の訴訟を聽かしめ、清重と共に陸奥、出羽を治めしめた。かくて鎭守府を廢し郡邑を割いて將士を賞した。こゝに於て建國以來永く蝦夷の居住地として特殊の地方であつた奥羽の兩國も統一の治が施され、完全に融合同化せられるに至つたのである。

政權武家に移つてから百五十年を經て建武中興に及び、北畠顯家は陸奥守に任ぜられ、義良親王を奉じて多賀城に來つて陸奥、出羽を鎭した。こゝに於て中絶されて居た鎭守府が復せられたのである。出羽では葉室光顯が國司に任ぜられた。間もなく足利尊氏が鎌倉に據つて叛いたので、顯家は義良親王を奉じ、陸奥、出羽の兵を帥ゐて西上し、尊氏を西國に走らせ、再び親王を奉じて東に歸り、多賀の國府にありて離合常なき東國の經營に努めた。延元二年兇徒が陸奥に蜂起したので、顯家は多賀の國府を棄てゝ靈山に籠り、翌年また兵を率ゐて西上したが、遂に和泉の石津で戰死した。よつて足利尊氏は大崎家兼を陸奥國の探題となし、斯波兼頼を出羽の按察使として最上（今の山形）に鎭せしめた。こゝに於て奥羽も南北兩朝の分立對抗の形勢を生じ、田村、葛西などは南朝に屬し、結城、相馬、南部などは北朝に屬して居たが、後遂に足利氏の治下に統一せられた。當時の史蹟として名高きは靈山で、この山に據つた顯家及弟顯信は父親房と共に山下の別格官幣社靈山神社に祀られて居る。宇津峰も南朝の史蹟として近時世人の注意を惹きつゝある。

應永年中には安東氏が陸奥より入つて秋田城を取りそこに據て秋田氏を稱した。永享の末、足利氏の勢力衰へ、奥羽の地統一なく、陸奥には蘆名、相馬、南部、葛西、大崎、田村、結城、大内、二本松、二階堂、岩城、石川の諸氏競ひ起り、出羽には最上、秋田、武藤、小野寺の諸氏が各地に割據するに至つた。天正年中には南部信直斯波氏の地を併せ、津輕爲信は弘前に據り、伊達政宗は二本松、二階堂の二氏を平げ、蘆名氏を滅し、石川、大内二氏を降し、悉くその地を收め、會津に移つて黑川城を築いた。また最上義光は小野寺氏の領邑を略し、且つ武藤氏を亡して莊内を併せたが、上杉氏越後より來つて莊内を奪つた。天正十八年豐臣

秀吉は政宗の會津、仙道の地を收めて蒲生氏郷に與へた。この時黒川を改めて若松と稱した。また葛西、大崎の故地を木村秀俊に授けたが、後政宗の米澤及伊達、信夫、刈田の三郡を氏郷に與へ、秀俊の地を奪つてこれを政宗に授けた。政宗は終に仙臺に居城を構へ、陸奥の二十一郡を領するに至り、氏郷は出羽、陸奥の中十四郡を領した。後蒲生氏は宇都宮に移され、會津の地は上杉景勝に與へられた。

關ケ原の役後、徳川氏が奥羽に配置した大名の主なるものを見るに、南部、津輕、相馬三氏の封地はもとのまゝで、伊達氏には白石を加へ、景勝の封を削つて米澤に移し、蒲生氏を再び會津に封じた。そして莊内及仙北地方は最上義光の領邑となし、佐竹義宣を秋田地方に封じて久保田城(今の秋田)に居らしめた。元和年中山形に鳥居忠政を封じて最上氏の後を襲がしめ、酒井忠勝をして鶴岡城に據つて莊内を領せしめ、六郷氏を本莊に、戸澤氏を新庄に、岩城氏を龜田に封じ、その後保科(松平)氏を會津に、織田氏を天童に封じた。

爾後奥羽諸大名の封土には多少の變遷があつたが、幕末慶應二年に於ける大名は左の通りである。

陸奥

守山	松平大學頭頼升	二萬石
會津(若松)	松平肥後守容保	二十八萬石
仙臺	松平(伊達)陸奥守慶邦	六十二萬五千六百石餘
一關	田村右京太夫邦榮	三萬石
盛岡	南部美濃守利剛	二十萬石
八戸	南部遠江守信順	二萬石
泉	本多能登守忠紀	二萬石
下手渡	立花出雲守種恭	一萬石
二本松	丹羽左京太夫長國	十萬七百石
弘前	津輕越中守承烈	十萬石
黒石	津輕式部少輔承叙	一萬石
棚倉	阿部美作守正靜	十萬石
湯長谷	内藤長壽麿政養	一萬五千石
磐城平(平)	安藤理三郎	三萬石
中村	相馬因幡守季胤	六萬石
福島	板倉甲斐守勝尙	三萬石
三春	秋田萬之助	五萬石

出羽

久保田(秋田)	佐竹右京太夫義堯	二十萬五千八百石餘
秋田新田	佐竹播磨守義諶	二萬石
龜田	岩城左京太夫隆邦	二萬石
米澤	上杉彈正大弼齊憲	十八萬石
米澤新田	上杉駿河守勝道	一萬石
鶴岡	酒井左衞門尉忠篤	十七萬石餘
松山(松嶺)	酒井紀伊守忠良	二萬五千石
上ノ山	松平伊豆守信庸	三萬石
山形	水野眞次郎忠篤	五萬石
新庄	戸澤中務大輔正實	六萬八千二百石
本莊	六郷兵庫頭政鑑	二萬二十一石餘
天童	織田左近將監信學	二萬石
長瀞	米津伊勢守政敏	一萬千石

奥羽各藩主居城の址の今日尙殘つて居るものも少くない。松平氏の會津若松城、阿部氏の白河小峰城、南部氏の盛岡城、丹羽氏の二本松城、相馬氏の中村城、伊達氏の仙臺青葉城、津輕氏の弘前城、佐竹氏の久保田城、水野氏の山形城、上杉氏の米澤城、酒井氏の鶴岡城などがその主なるもので、今尙舊規の一部を存して居る。

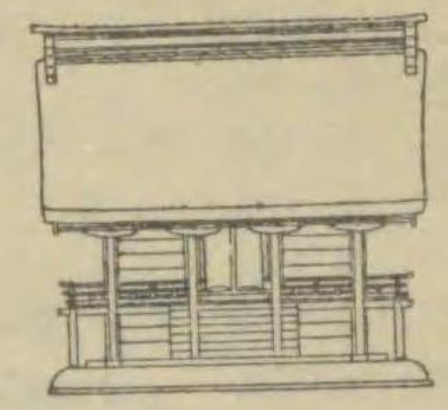
德川氏二百五十年間の制度は巧に大名を配置して天下の叛亂を防ぐことに成功したが、時勢の推移は漸く幕府と封建制度の存續を許さざるものあり、勤王の精神勃興し、米艦の渡來を機として尊王攘夷の叫かまびすしく、その間に德川幕府は倒れ、王政復古し明治維新となり、次いで廢藩置縣となつた。明治元年戊辰役には會津の松平容保、莊内の酒井忠篤などは久保田、本莊、新莊の三藩以外の奥羽越の諸藩と連合して官軍に抗し、大に擾亂を釀し各處に戰端を開いたが、會津の若松城陷り次いで莊内、盛岡など皆降つて平定された。この役に激戰のあつた處は白河及會津地方で、戰歿者の墳墓が多く存して居る。

神社

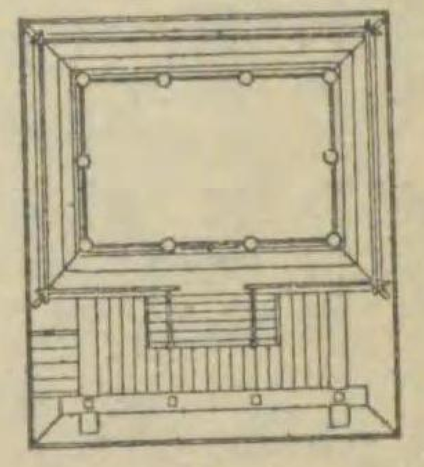
東北地方には約一萬八百の神社がある。山形縣の月

流造

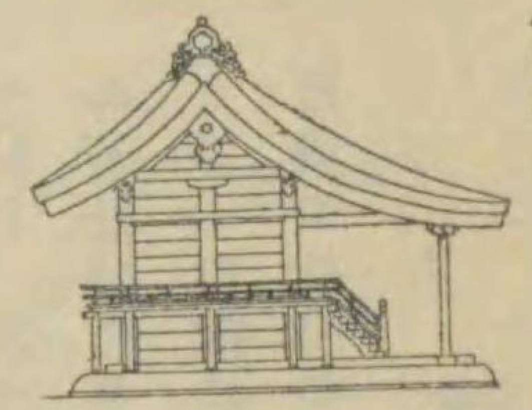
正面



平面

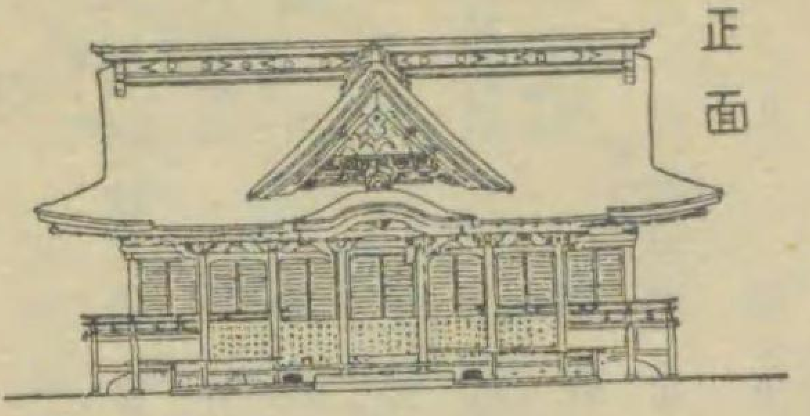


側面

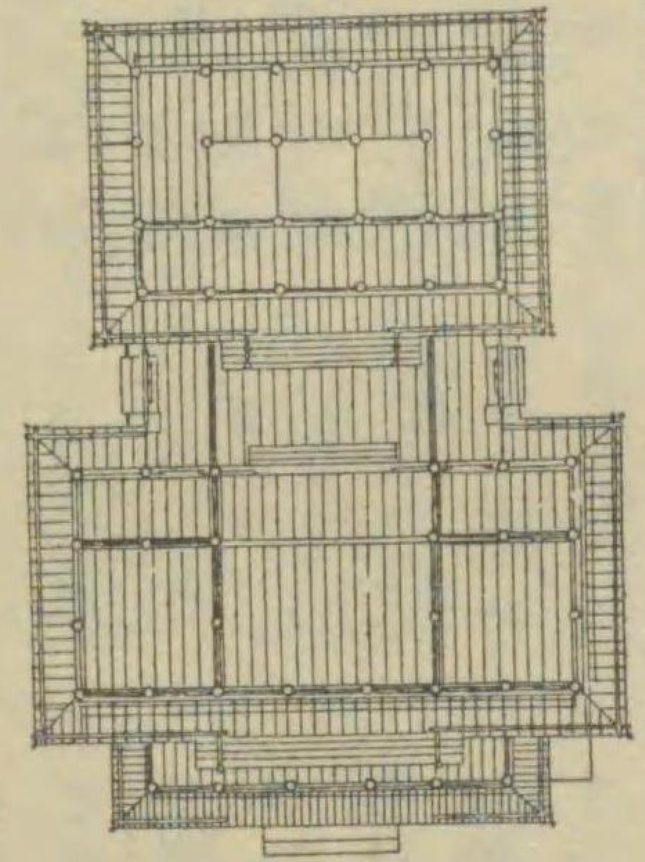


權現造

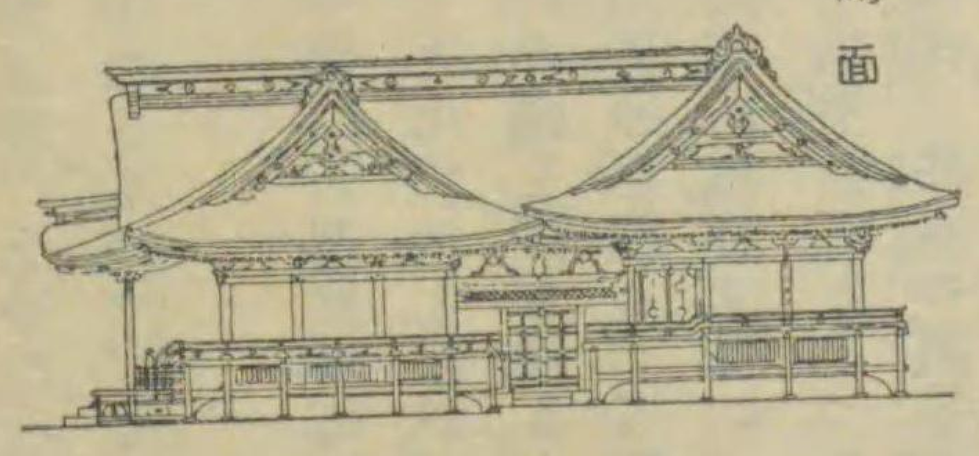
正面



平面



側面



山神社〔官幣大社〕、湯殿山神社〔國幣小社〕及羽黒山の出羽神社〔國幣小社〕は出羽三山の神としてその名最も著はれ、また鳥海山の大物忌神社〔國幣中社〕、青森縣の岩木山神社〔國幣小社〕なども名高い。岩手縣水澤の駒形神社〔國幣中社〕は牧馬を行ふ地方人に崇敬されて居る。宮城縣の鹽竈神社〔國幣中社〕は社殿の結構整然、境內の風光秀麗なるを以て聞え、遠近の參拜者四時に絶ゆることがない。その他福島縣の棚倉及八槻の兩都都古和氣神社〔國幣中社〕、會

津高田の伊佐須美神社〔國幣中社〕、福島縣の靈山神社〔別格官幣社〕及米澤の上杉神社〔別格官幣社〕、秋田附近の古四王神社〔國幣小社〕、宮城縣金華山の黄金山神社などは何れも著名な神社である。尚この地方には八幡神社や鹿島神社が甚だ多い。

神社の建築は古より清楚簡朴を旨として常に境內の風光と相俟つて神威を増して居る。その最も古い様式には大社造、神明造、住吉造、大鳥造などがあるが、後に春日造や流造が發達し、更にやゝ複雑な八幡造や日吉造となり、兩部神道の流行につれて鳥居、玉垣の外に樓門や廻廊などが出來、神社の境內に種々の堂塔が建てられ、遂には最も複雑なる權現造を見るに至り、內外の設備裝飾などが佛寺建築に接近して來た。

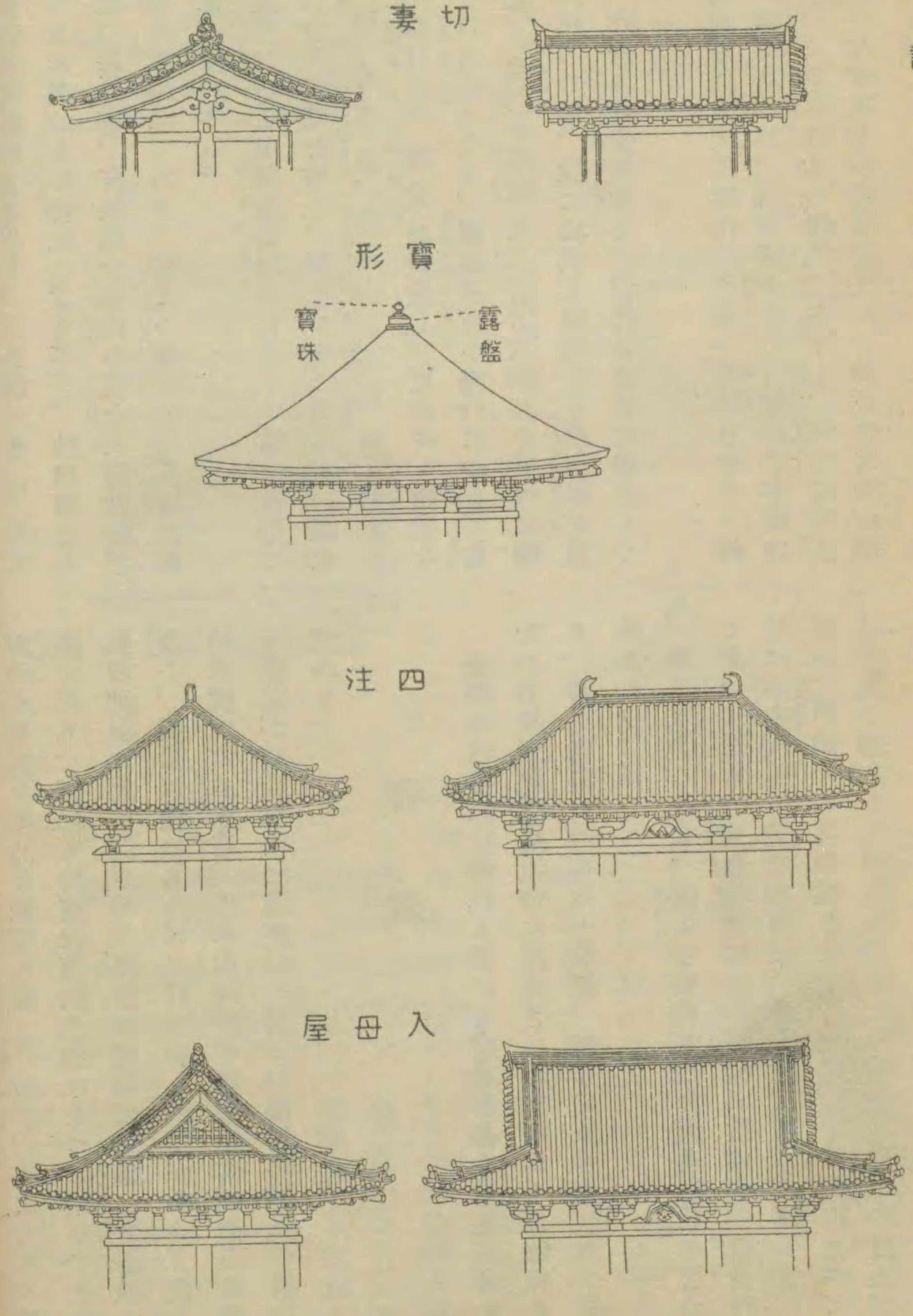
さて東北地方には江戸時代より前の社殿を有する神社は極めて稀であるが、山形縣水澤の八幡神社本殿は清楚な流造で室町時代の建築であり、大曲の古四王神社の本殿は室町末期の特徴を有し、仙臺の大崎八幡神社は華麗を極めた優秀な權現造で、桃山時代の遺構であり、何れも特別保護建造物になつて居る。その他の神社は悉く江戸時代以後の建築で、流造が最も多く、明治以後のものには往々神明造がある。出羽神社境內の五重塔、岩木山神社の拜殿などのやうに佛寺建築が神社境內に遺存して居るのは兩部神道の遺物である。

寺院

全國の古寺には神社と共に古建築を存するもの多くその中特別保護建造物に指定されたものが千百餘棟あり、神社建築が四百五十餘棟、佛寺建築が六百五十餘棟ある。

佛寺建築の樣式、伽藍の配置等は宗派及時代によつて異つて居る。飛鳥時代には百濟樣が行はれ、奈良時代には唐代風が盛であつた。平安時代初期には天台、眞言兩宗の山岳寺院を生じ、更に藤原時代に至つては貴族の邸宅をそのまゝ寺とした寢殿造風の建築が

屋根の正面及側面

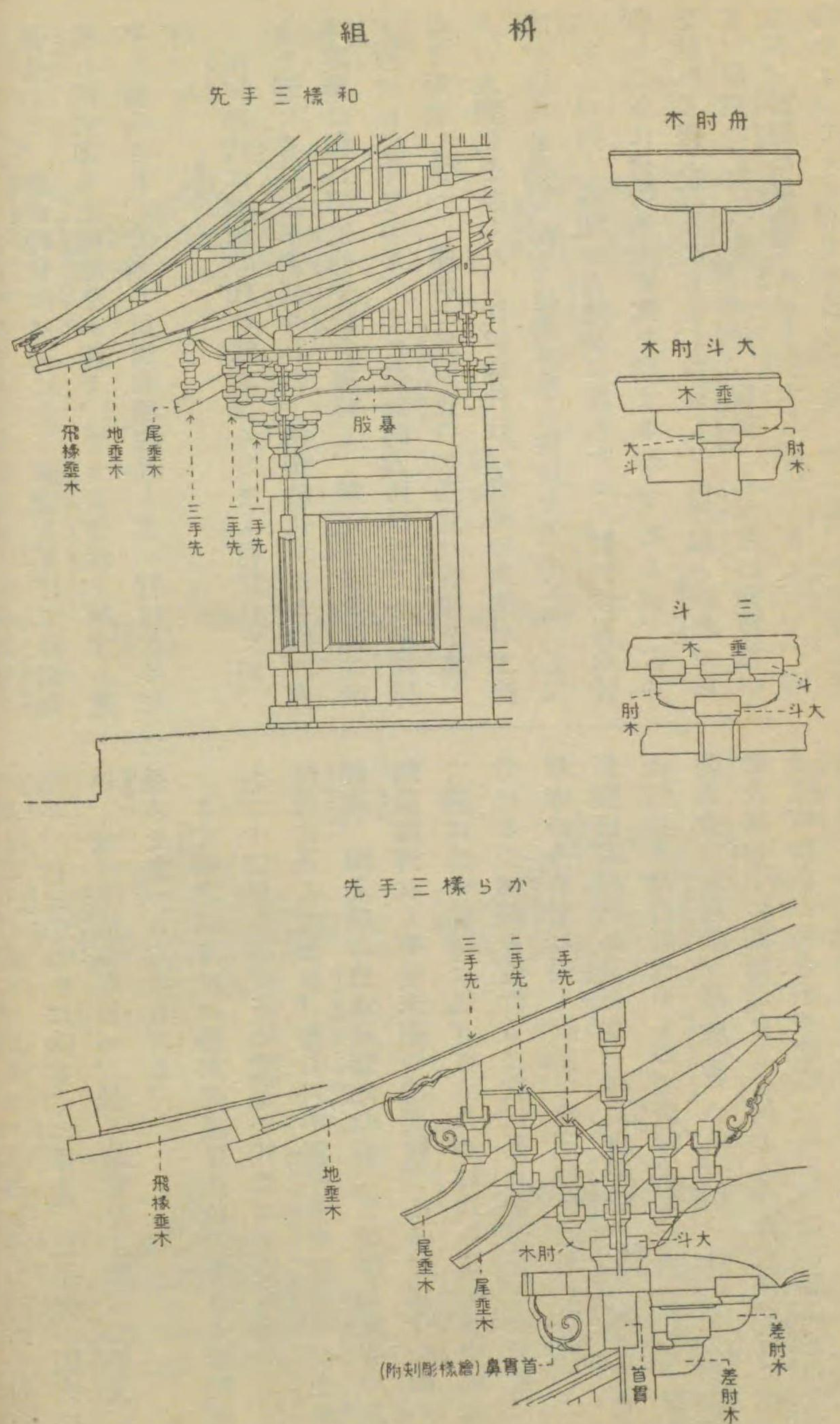


盛に行はれ、また阿彌陀堂式の優麗溫雅な和樣建築が發達した。鎌倉時代には新に宋の影響を受けて禪宗伽藍の樣式卽ち唐樣建築が起り、また天竺樣と稱する建築も輸入され、在來の所謂和樣建築と共に行はれるに至つた。

室町時代には前時代の樣式がそのまゝ行はれたが、また別に書院造が創成された。桃山時代には各宗の佛寺建築は概ね禪宗的手法を加味し、純正なる和樣は殆ど行はれなくなつた。また裝飾的方面に於て巧に精緻なる彫刻を加へ、隨所に極彩色の繪畫或は紋樣を施して一大變化を致した。江戸時代には建築の細部に工藝的の技巧を弄し、往々建築本來の性質を失ふに至つた。

かくの如く各種の古建築に現れたる一般的性質及特徵を知るには特別の研究を要するのであるが、古寺を訪れて何人の目にもよく留るものは屋根と枡組である。屋根の形は切妻、四注、寶形、入母屋の四種類がある。枡組の組織は枡形と肘木を配合したもので、時代によつてその形式手法に和樣、から樣、天竺樣などの別がある。最も單純なものは舟肘木で、大斗肘木、三斗、出三斗これに次ぎ、二手先、三手先と順次に進み、或は尾垂木を加へ、最も複雜なものは七手先に尾垂木を加へたものもある。

さて東北地方には特別保護建造物となれる寺院建築が二十三棟ある。その建築の時代は平安末期から江戸時代に及んで居る。卽ち岩手縣平泉中尊寺の金色堂及經藏、福島縣の白水阿彌陀堂竝に宮城縣高藏寺の阿彌陀堂は何れも平安末期の建築物である。現今全國に於て僅に二十餘棟に過ぎざるこの時代の建築物中東北地方にこの四棟を有するは實に異とすべきもので殊に中尊寺の金色堂は最も纎麗な建築美を發揮して居る。山形縣出羽神社の黃金堂、福島縣塔寺の立木觀音堂などは何れも鎌倉時代のもので唐樣建築に屬する。福島縣藤倉の地藏堂、同勝常の藥師堂、同堂島の阿彌陀堂及同田子の藥師堂などは何れも會津若松附近に存する室町時代の特色ある建築である。山形縣山寺の立石寺中堂、同出羽神社の五重塔、宮城縣松島の瑞巖寺、

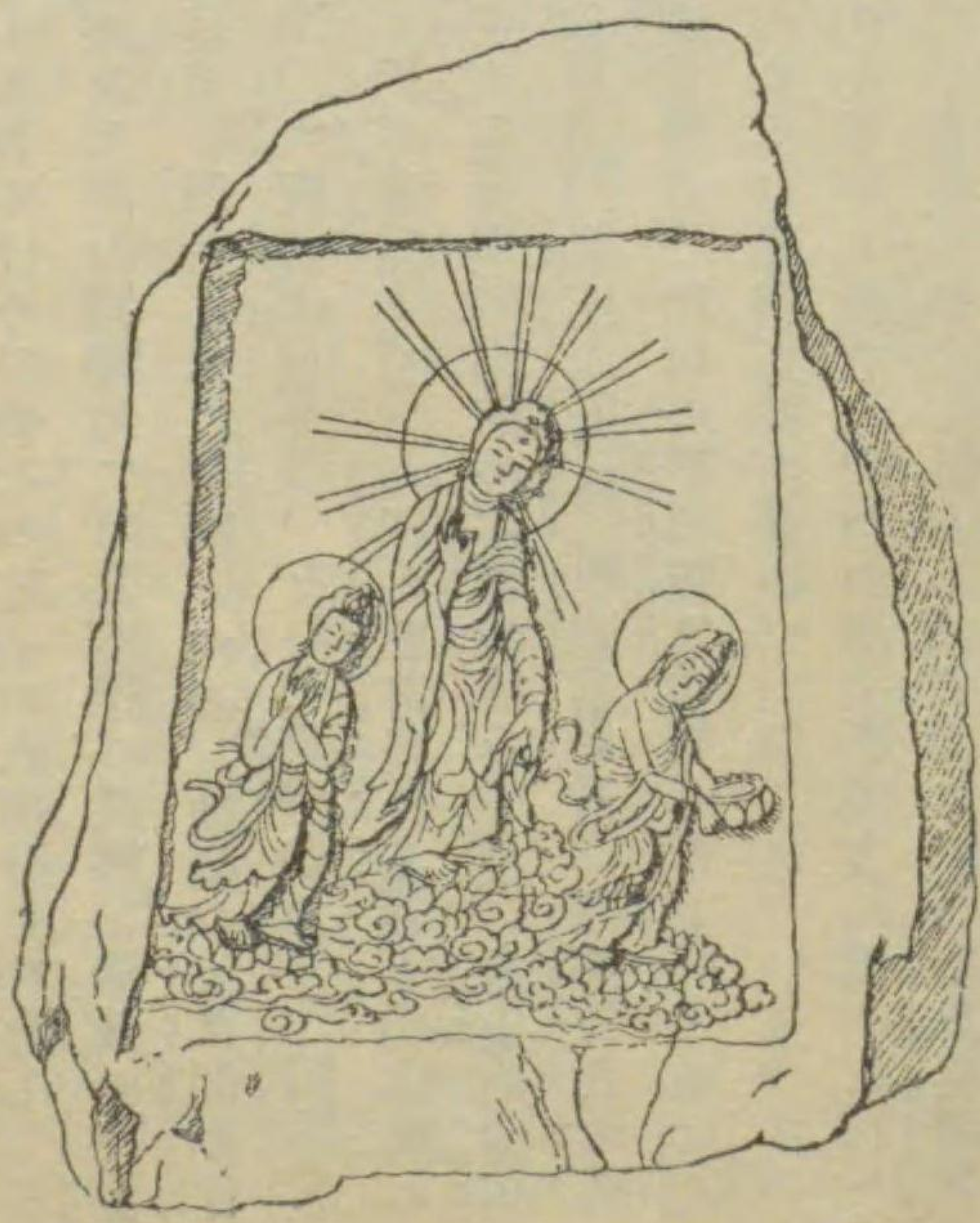


五大堂、及佛寺建築を轉用せる福島縣田村郡の王子神社などは何れも桃山時代の建築で、中にも瑞巖寺は仙臺の大崎八幡神社と共に東北地方に於ける雄渾華麗な桃山式建築の雙美と稱せられて居る。山形縣西村山郡の慈恩寺本堂、弘前の最勝院の五重塔などは何れも江戸時代初期の優秀な建築である。

佛像と佛畫

東北地方の古社寺に保存されて居る佛像、佛畫の中で國寶に指定されて居るものは總計約三十點あるが、その外にも貴重なものがある。これらは平安時代から江戸時代に及び、その作風は他の地方のものと比較して特に異る所はないが、多少の地方色を現し、古拙な手法を殘して居るものもある。

福島縣白水阿彌陀堂の阿彌陀三尊及二天、山形縣慈恩寺の阿彌陀、福島縣勝常寺の藥師、地藏、觀音、仙臺龍寶寺の釋迦、岩手縣中尊寺の一字金輪、同縣北成島毘舍門堂の傳吉祥天、同縣天台寺の觀音及吉祥天などは何れも平安時代の佛像で、國寶に指定されて居る。福島縣塔寺の立木觀音、岩手縣北成島毘舍門堂の毘舍門天は高さ六米(二丈)以上の巨像である。宮城縣築館雙林寺の藥師、高藏寺の阿彌陀及青森縣大鰐の阿彌陀佛、福島縣如來寺の阿彌陀三尊の畫像は前二者と共に鎌倉時代の作で、國寶になつて居る。また別に同時代のものに宮城縣船迫阿彌陀堂の鐵佛、福島縣八槻都



阿彌陀三尊供養碑

都古和氣神社の木造觀音などがある。福島縣大浦長隆寺の地藏立像は室町時代の優秀な木佛で、國寶になつて居る。石佛中最も有名なものは福島縣泉澤の磨崖佛で、山麓の巨大な岩石に多くの佛像が彫刻され、平安時代初期の雄大な彫法を示して居る。宮城縣富澤の磨崖佛は鎌倉時代の像で、造像銘記のある石佛として東北唯一である。郡山福島地方には自然石の面に阿彌陀像或はその種子を彫刻した供養碑が多い。種子は特に諸佛を標示するための梵字で、圖像或は名號によらずして佛を現はす場合に用ゐられ、供養碑などには阿彌陀、大日、觀音、勢至、地藏などの種子が現はれて居る。

要するに佛像、佛畫は社寺の古建築と共に日本文化史の研究に貴重なる資料を供給し、その東北地方に遺存するものはこの地方の藝術及宗教の變遷を徵すべきもので、その鑑賞は極めて興味あることである。

學術上の施設

東北地方には江戸時代前に學術上の施設として聞えて居たものが殆どない。舊幕時代中葉以降には二十餘の藩學が設立せられ、會津の日新館、仙臺の養賢堂、盛岡の作人館、米澤の興讓館は特に盛大であつた。その中養賢堂は今日尙その建築の大部分を殘存し、また仙臺及米澤の圖書館には舊藩學の遺書を珍藏して居る。舊藩の學者として名高いのは、仙臺の佐久間洞嵓(漢學者)、大槻磐水(蘭學者)、その子磐里(蘭學者)、磐溪(漢學者)、同平泉(漢學者)、水澤の高野長英(蘭學者)、盛岡の那珂通高(國學者)、弘前の津輕校尉(漢學者)、最上の會田安明(數學者)、新庄の安島直圓(數學者)、西馬音内の佐藤信淵(農學者)、秋田の平田篤胤(國學者)などで、中にも最後の二人は著書が甚だ多い。

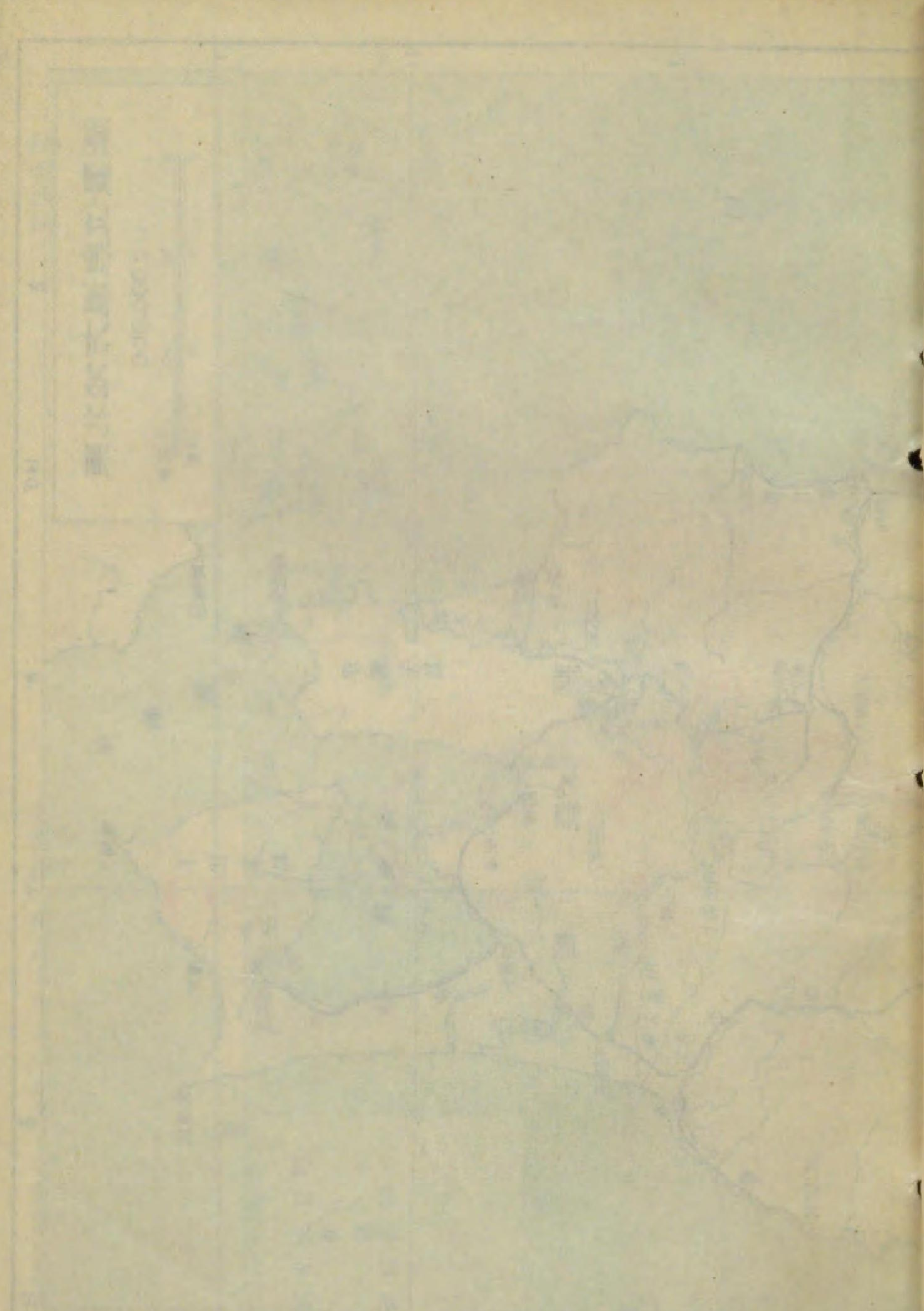
明治初年から敎育の機關が漸次各地方に設けられたが、英語敎授の魁をしたものは弘前にあつた東奧義塾である。現今にては仙臺の東北帝國大學は奧羽最高の學府として理學部、醫學部、工學部、法文學部を備へ、別に金屬材料研究所がこれに附設せられて居る。また青森縣淺虫にはその理學部に屬する臨海實驗所が設けられ、その水族館を一般公衆の觀覽に供する。

帝國大學の外に、仙臺、米澤に高等工業學校、福島に高等商業學校、秋田に鑛山專門學校、盛岡に高等農林學校、仙臺、山形、弘前に高等學校の設がある。以上の外、學術上の施設として特筆すべきものは岩手縣水澤の緯度觀測所である。これは國際共同事業の一をなし、地球の緯度變化を調査研究するもので、近時その共同觀測の中央局はドイツのポツダムからこゝに移された。

名勝と溫泉

東北地方は地質及地形が多樣であるため、海岸及山間に幾多の勝景を存して居る。日本三景の一たる松島は古來その最も有名なもので、常に遊覽者が絕えない。近年交通機關の發達に伴ひ、新しい名勝地が續々世人の注意を惹くやうになつて來た。中にも新八景に選ばれた十和田湖及奧入瀨の谿谷を始め、男鹿半島の西南岸、田澤湖及抱返り、山寺、笹川流、猊鼻溪、嚴美溪、金華山、猪苗代湖及磐梯山の如きは特に著名なものである。これらは多く山容水態岩相樹姿の妙趣に加ふるに季節天候に伴ふ風致の變化があり、全國屈指の秀景をなして居る。その他にも勝地が甚だ多い。今旅行者の便宜のため、觀賞の季節により名勝を分類して、交通線別にその主なものを示さう。

春季櫻花で名高い處は都市の公園に多く、またその他大河の堤防などにも存する。東北本線では郡山の開成山公園、仙臺の榴ケ岡公園があり、奧羽本線では赤湯の烏帽子山偕樂園、秋田の千秋公園、弘前の鷹揚公園、羽越本線では新發田に近い加治川堤、磐越西線では馬下附近の小山田があつて、四月下旬から五月上旬を觀櫻期とする。牡丹園は東北本線の須賀川、二本松附近の蛇鼻、岩沼に近い玉崎の三箇處にあり、五月下旬を觀賞期として居る。つゝじには東北本線白河から行く處に河内谷があり、磐越東線に車窓から眺められる夏井川の溪谷がある。何れも野生のものが長距離に亙り、五月下旬から六月上旬にかけて花が咲く。



夏季の避暑地には海岸または山間の勝地が選ばれる。その海岸にあるものは海水浴場或は溫泉で、山間では溫泉がこれに充てられる。海水浴場で避暑客を收容する施設のあるものは、東岸では常磐線の、勿來、小名濱、四ッ倉、久ノ濱、原釜、釣師濱、仙臺灣岸の菖蒲田、桂島、石卷、渡波があり、西岸では羽越本線の鼠ケ關、溫海、由良、湯野濱、象潟、琴ケ浦、道川、下濱がある。

溫泉は極めて多く、秋季には概ね紅葉の美觀を呈する。その主なるものは左の通りである。

東北本線
甲子　嶽　土湯　飯坂　湯野　小原
鎌先　遠刈田　青根　峩々　秋保　須川
花卷及その附近　蔦　淺虫　酸ケ湯

奥羽本線
信夫高湯　微溫湯　五色　新五色　滑川　白布高湯
小野川　赤湯　上ノ山　最上高湯　天童　東根
肘折　湯澤　稻住及その附近　大瀧　大湯
湯瀨　碇ケ關　大鰐　藏館　嶽

羽越本線
板留及その附近
村杉及その附近　月岡　湯澤及その附近　瀨波
溫海　湯野濱　湯田川

常磐線
湯本

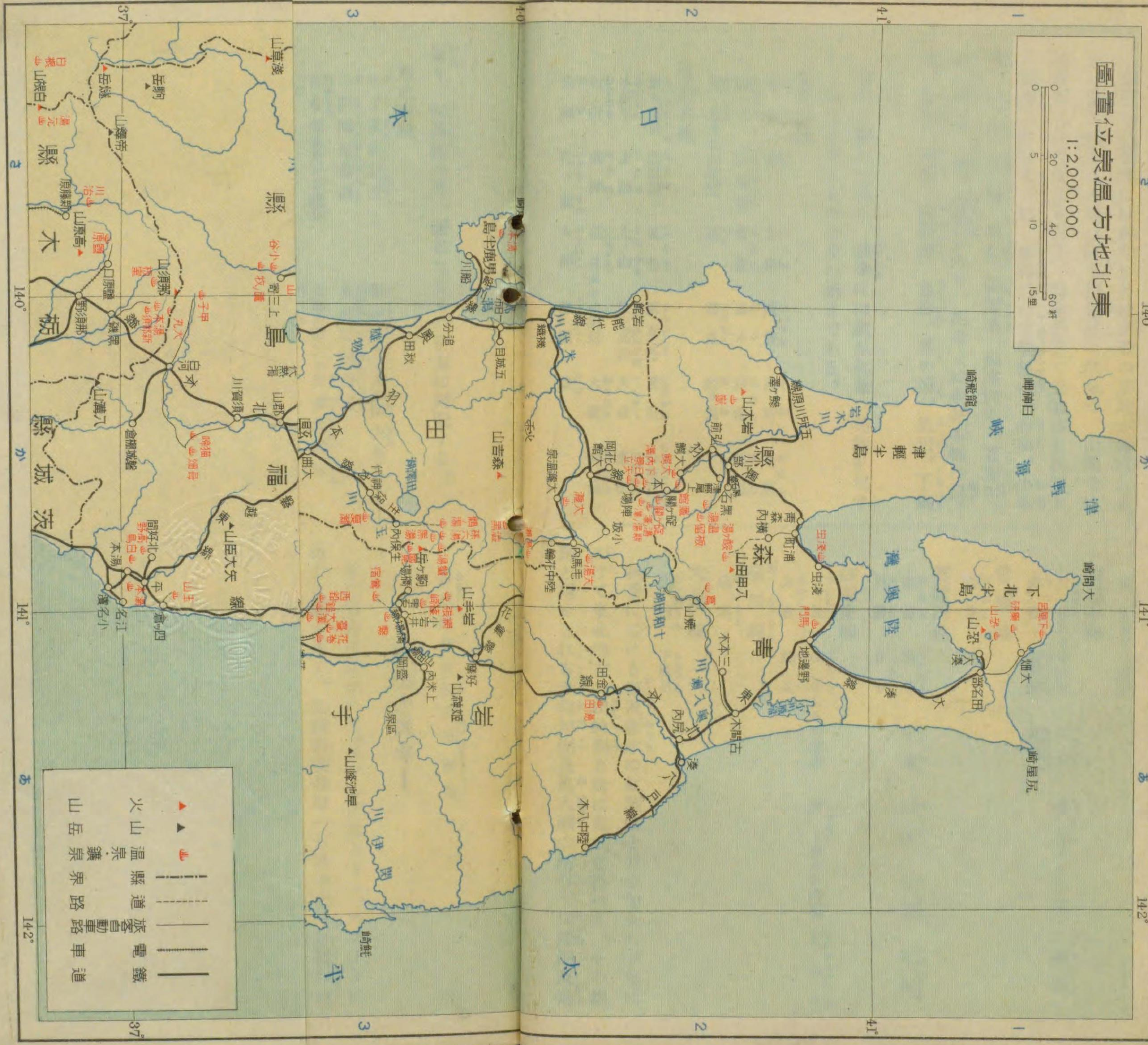
磐越西線
熱海　高玉　中ノ澤　沼尻　川上　東山
熱鹽　日中

陸羽東線
川渡　鳴子及その附近　吹上及その附近　中山平
赤倉　瀨見

横黑線
湯本

大湊線
恐山　下風呂

秋季に於ける楓及雜木の紅葉は十月中旬から下旬にかけて東北地方の山峽到る處に見るを得べく、その絕勝と稱せられる十和田湖及奥入瀨の溪谷、田澤湖及抱



ら雪溪の發達したものが多く、緯度の關係から海拔の

日本海
太平洋
青森縣
秋田縣
岩手縣
山形縣
宮城縣
新潟縣
福島縣
栃木縣
茨城縣
鐵道
電車
旅客自動車路
道路
縣界
温泉・鑛泉
山岳
火山

返り、猊鼻溪の外、著名なるものを左に列記する。

東北本線
- 甲子溫泉沿道　　飯坂より上流の摺上川
- 小原溫泉沿道　　青根溫泉沿道
- 花巻溫泉及その附近　　北福岡附近の馬淵川沿岸
- 蔦溫泉　　酸ケ湯附近

奧羽本線
- 板谷附近　　滑川、蛇湯溫泉附近
- 山寺附近　　釜淵附近

羽越本線
- 溫海附近

磐越東線
- 夏井川の峡谷

磐越西線
- 東山溫泉附近　　裏磐梯　　小花地
- 阿賀川の峡谷特に麒麟山

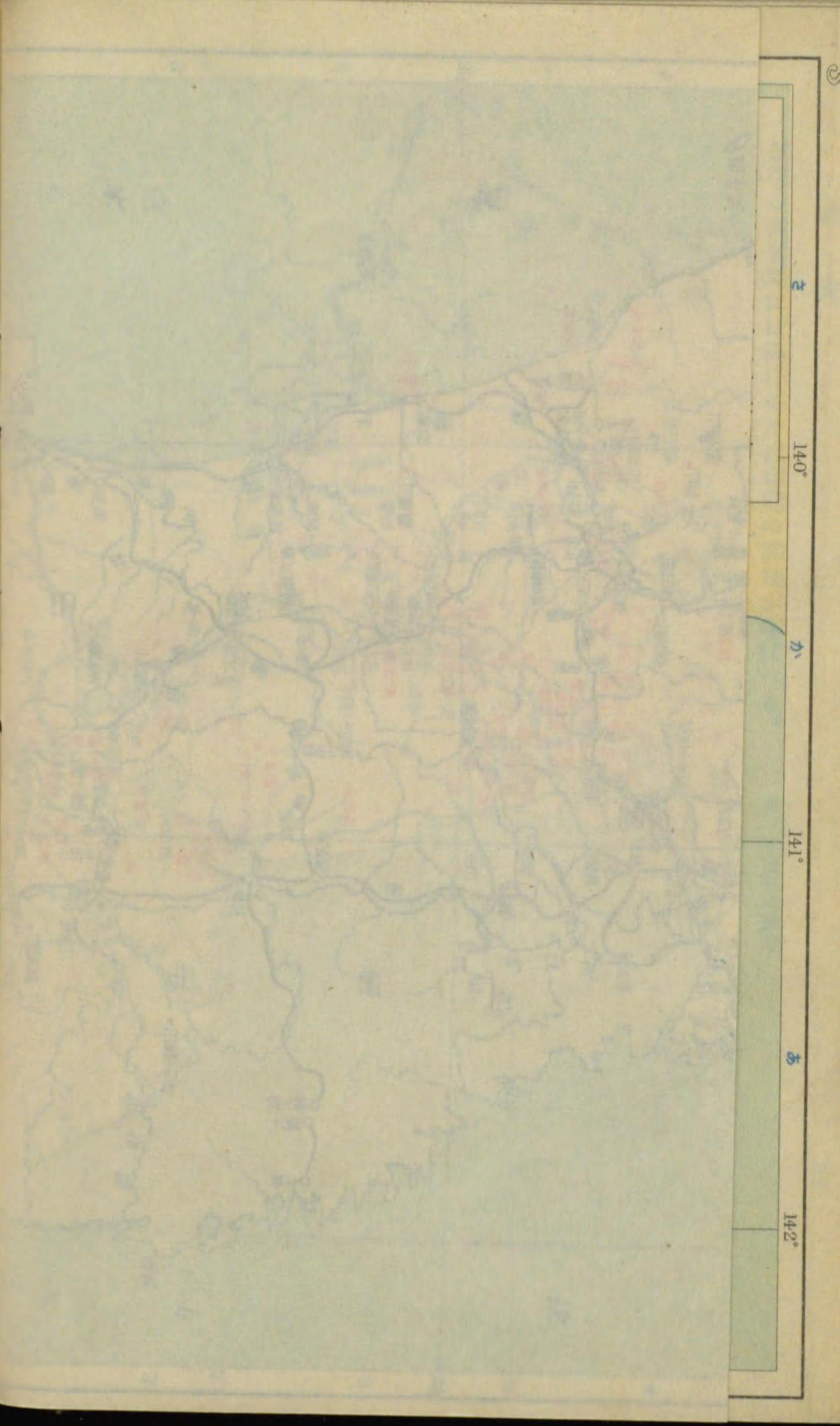
陸羽東線
- 小黒ケ崎　　花淵山　　中山平附近　　瀬見附近

陸羽西線
- 古口附近の最上川峡谷

登山とスキー

東北地方は登山にキャムピングにスキー、スケートに適する處が多く、比較的安易な一日乃至二三日行程の山旅に興味ある山岳が少くない。

古來この地方は信仰的の登山が甚だ盛んで、出羽三山を始め鳥海山、藏王山、岩木山、岩手山などには夏季白衣の行者が數萬に及ぶと云はれて居る。近來著しき登山趣味の勃興に伴ひ、登山の形式にも變遷を來し、深山や處女峯に踏み入るものも尠くない。この地方の山岳中その山容が秀麗で裾野がよく發達し、山姿の富士に似たものには出羽富士の鳥海山、南部富士の岩手山、津輕富士の岩木山などがあり、また群峯をなすものには吾妻火山群、朝日嶽、早池峯山及飯豐山などがあり、何れも高山性をなして居る。海拔は一、五〇〇米級より最高鳥海山の二、二三〇米に及び、降雪量の多い關係から雪溪の發達したものが多く、緯度の關係から海拔の



比較的低い割合に高山植物が豐富である。

その主なる山岳の分布を鐵道線路別に見れば、東北線で北行すると左窓には郡山附近で磐梯山、本宮を過ぎると、安達太良山、福島に近づいて吾妻火山群を望み、更に阿武隈山脈中の奇峰靈山を右に見、藏王の山姿を左に眺めて岩沼に出る。仙臺から北進すると左に船形山、栗駒岳を望み、一ノ關を過ぎて右方北上山脈の連嶺中に聳ゆる早池峰山を仰ぎ、盛岡附近から左窓に南部の片富士と稱せられる岩手山の姿が美しく映る。青森縣に入つては八甲田の群峯が左に聳え、また遠く陸奥灣を隔てゝ右に恐山を望む。

福島から奥羽線に入れば左窓に吾妻火山群の家形、一切經の諸峰から西吾妻山への山裾を廻る。米澤附近から遠く朝日岳の主峯を望み、更に北行して上ノ山附近から右窓に藏王山を眺めつゝ山形に入る。更に山形盆地を北に進むと、左窓に月山、鳥海山が眺められ、大曲附近で駒ヶ岳を右窓に見、秋田に入つては右に大平山を望み、八郎潟附近では湖面に映ずる男鹿半島の寒風山を眺める。津輕平野に出ては、左窓に岩木山、右窓に八甲田山を仰ぎつゝ青森に入る。

郡山から磐越西線で西行すると、猪苗代湖附近から右窓に遠く吾妻の群山を見、近く磐梯の秀峰を仰ぎ、更に進んで阿賀ノ川を下れば時々飯豐山を右方に望み新津に入る。新津から羽越線で北行すると、右窓連山のかなたに飯豐山が見え、鶴岡附近からは月山を右に見、これより酒田を經て秋田へ至る間、常に鳥海山の雄姿が飽かず眺められる。

登山期は主に夏季七、八の二月であるが、近來登山術の進歩に伴つて紅葉期或は積雪期を選ぶものもある。

スキー地としての東北の山地は、雪の質も積雪の量もこれに好適し、殊に到る處温泉が多く、隨所に根據地を求めることが出來る。中にも奥羽線五色温泉を中心とした吾妻山麓一帶、磐越西線川桁驛から入る沼尻、中ノ澤温泉附近、藏王山麓の諸温泉附近、奥羽線大鰐温泉附近は、わが國に於ける有數の好スキー地である。その他大小スキー地は枚擧に遑がない。これらの温泉は從來冬季は浴客少く冬眠の狀態であつたが、スキーの隆盛に伴つて近年著しい活氣を呈して居る。尙スケート場は雪の多い關係から理想的の處は少いが、仙臺の五色沼リンク、與平沼、盛岡及秋田などに適した處がある。

交通

東北地方に於ける陸上交通機關の中、最も主要なものは鐵道線路である。鐵道は明治二十年に關東地方から延びて始めてこの地方に入り、白河、福島を過ぎ仙臺、鹽釜に通じ、同二十四年には青森まで達した。現今この地方に敷設されて居る鐵道の大部分は國有に屬し、その延長は約二、九〇〇粁（一、八〇〇哩）に及び、地方鐵道及軌道は僅に約四八〇粁（三〇〇哩）に過ぎない。

國有鐵道の諸線中、長距離に達するものは南北に通ずる東北本線、常磐線、奥羽本線、羽越本線の四大幹線である。東北本線は東京から宇都宮、福島、仙臺、盛岡の諸市を經て、本州最北の都市たる青森に至るもので、その延長約七四〇粁（四六〇哩）、常磐線はその支線をなし、日暮里で本線から分れ、水戸、平を經て岩沼でまた本線に合する、その延長約三四〇粁（二一〇哩）。この兩線は單にこの地方の主要都市を結ぶのみならず、關東地方と北海道の連絡路をなすもので、實にわが國縱貫交通路の一部にあたり、直通列車を通ずること一日前者に八回、後者に四回。東京青森間急行によれば所要十七時間。奥羽本線は東北本線の福島から分岐し、米澤、山形、秋田、弘前の諸市を經て青森に達する、その延長約四八〇粁（三〇〇哩）、東京からこの線經由の青森行直通列車一日二回、所要二十二時間半。羽越本線は新潟縣の新津から起り、村上、鶴岡、酒田を經て秋田に達するもので、その延長二七〇粁（一七〇哩）、信越本線と奥羽本線を結び、阪神地方から裏日本を通つて青森に至る捷路の一部をなし、その間直通列車を通ずること一日四回、急行によれば神戸、青森間二十六時間。これを東海道本線經由の表日本の線路によるものに比すれば五時間の短縮を見るのである。

以上四大幹線の外、これらに連絡して東西に走る主要線路に、磐越東線、同西線、石巻線、陸羽東線、同西線及横黒線の六線がある。磐越東線は常磐線の平と東北本線の郡山を結び、延長約八〇粁(五〇哩)。磐越西線は郡山から會津若松を經て新津に達し、信越、羽越の兩線に連り、延長約一七〇粁(一一〇哩)。この西線は東京、新潟間の交通路の一部となつて居て、その間直通列車を通ずること一日二回、所要十二時間半。

石巻線は東北本線の小牛田と北上川河口の石巻を連ね、延長二八粁(一七哩)。陸羽東線は小牛田から鳴子溫泉を經て、奥羽本線の新庄に至り、延長九三粁(五八哩)。陸羽西線は更に新庄から西に向ひ、最上川に沿ひ羽越本線の余目に達し、延長五五粁(三四哩)。この三線は羽越本線の一部と共に北上、最上兩河口を連結するものである。

横黒線は東北本線の黒澤尻から奥羽山脈を横ぎり、奥羽本線の横手に至るもので、延長六〇粁(三七哩)、北上、雄物の二川の河谷を連ねて居る。

この他東北本線から分れるものに川俣線、鹽竈線、大船渡線、山田線、橋場線、花輪線、八戸線、大湊線があり奥羽本線から分岐するものに米坂線、長井線、左澤線、生保内線、船川線、能代線、五所川原線、黒石線がある。

これら諸鐵道線及地方鐵道などの連絡關係を示せば左の通である。

(線名)	(區間)	(線路延長粁—哩)
東北本線	東京—青森	七三九・二—四五九・四
白棚鐵道線	白河—磐城棚倉	二三・三—一四・五
磐越東線	郡山—平	八五・六—五三・二
磐越西線	郡山—新津	一七四・二—一〇八・二
耶麻軌道線	川桁—沼尻	一五・六—九・七
會津線	會津若松—會津柳津	三三・一—二〇・六
	西若松—上三寄	一〇・五—六・五
蒲原鐵道線	五泉—村松	四・二—二・六
川俣線	松川—岩代川俣	一二・二—七・六
福島電車軌道線	福島—飯坂温泉	九・五—五・九
同	福島—飯坂	一三・四—八・三
同	伊達(保原經由)梁川	一二・七—七・九
同	保原—掛田	六・四—四・〇
奥羽本線	福島—青森	四八六・四—三〇二・三
仙南溫泉軌道線	大河原—遠刈田	二六・七—一六・六
角田軌道線	槻木—角田	一二・四—七・七
常磐線	岩沼—日暮里	三四三・〇—二一三・二
増東軌道線	増田—閖上	五・八—三・六
秋保電氣軌道線	長町—湯元	一五・九—九・九
仙臺市營電車	仙臺驛前から市内各處	
仙臺鐵道線	通町—西四竈	三七・五—二三・三
宮城電氣軌道線	仙臺—石巻	五〇・五—三一・四
鹽竈線	岩切—鹽竈	六・九—四・三
松島電車線	松島—松島海岸	四・一—二・五
石巻線	小牛田—石巻	二八・〇—一七・四
金華山軌道線	石巻湊—女川	一三・五—八・四
陸羽東線	小牛田—新庄	九四・一—五八・五
仙臺鐵道線	中新田—加美中新田	三・二—二・〇
仙北鐵道線	瀬峰—築館	一二・六—七・八
同	瀬峰—登米	二八・六—一七・八
栗原軌道線	石越—岩ヶ崎	一六・六—一〇・三
大船渡線	一ノ關—折壁	五〇・二—三一・二
横黒線	黒澤尻—横手	六〇・三—三七・五
花巻温泉電氣鐵道線	花巻—花巻温泉	七・四—四・六
同	輕便花巻—西鉛温泉	一八・〇—一一・二
岩手輕便鐵道線	花巻—仙人峠	六五・五—四〇・七
釜石鑛山會社線	大橋—鈴子	一六・一—一〇・〇
橋場線	盛岡—橋場	二三・七—一四・七
山田線	盛岡—區界	三五・六—二二・一
花輪線	好摩—荒屋新町	三七・五—二三・三
八戸線	尻内—陸中八木	四二・一—二六・八
八戸線	八戸—湊	二・七—一・七
十和田鐵道線	古間木—三本木	一四・八—九・二
大湊線	野邊地—大湊	五八・四—三六・三
常磐線	日暮里—岩沼	三四三・〇—二一三・二
磐城海岸軌道線	泉—江名	一一・一—六・九
磐城炭鑛軌道線	湯本—小名濱	八・八—五・五
日本鐵道軌道線	湯本—平	六・〇—三・七
好間軌道線	平—北好間	四・三—二・七
磐越東線	平—郡山	八五・六—五三・二
奥羽本線	福島—青森	四八六・四—三〇二・三
米坂線	米澤—今泉	二三・〇—一四・三

高畠鐵道線	糠ノ目—二井宿	一〇・六—六・六
長井線	赤湯—荒砥	三〇・六—一九・〇
左澤線	北山形—左澤	二四・三—一五・一
三山電氣鐵道線	羽前高松—間澤	一一・四—七・一
谷地軌道線	神町—谷地	五・六—三・五
尾花澤鐵道線	大石田—尾花澤	二・六—一・六
陸羽東線	新庄—小牛田	九四・一—五八・五
陸羽西線	新庄—余目	四三・〇—二六・七
雄勝鐵道線	湯澤—西馬音内	八・八—五・五
横黑線	横手—黑澤尻	六〇・三—三七・五
横荘鐵道東線	横手—二井山	二六・一—一六・二
生保内線	大曲—生保内	三五・六—二二・一
羽越本線	秋田—新津	二七一・八—一六八・九
秋田電氣軌道線	新大工町—上酒田町	五・三—三・三
船川線	追分—船川	二六・五—一六・五
五城目軌道線	一日市—五城目	三・九—二・四
能代線	機織—岩館	二九・一—一八・一
秋田鐵道線	大館—陸中花輪	三七・二—二三・一
小坂鐵道線	大館—小坂	二二・七—一四・一
同	大館—花岡	四・八—三・〇
弘南鐵道線	弘前—津輕尾上	一一・一—六・九
五所川原線	川部—鰺ヶ澤	四三・四—二七・〇
黑石線	川部—黑石	六・六—四・一
羽越本線	新津—秋田	二七一・八—一六八・九
信越本線	新津—新潟	一七・一—一〇・六
同	新津—高崎	三一〇・五—一九三・〇
磐越西線	新津—郡山	一七四・一—一〇八・二
赤谷線	新發田—赤谷	一四・二—八・八
陸羽西線	余目—新庄	四三・〇—二六・七
横荘鐵道西線	羽後本荘—前郷	一一・七—七・三

鐵道に次ぐ陸上交通の機關は自動車で、これを旅客用貨物用に供した始は大正二年盛岡、宮古間一〇九粁(六七哩)の營業であつた。その後、十年を經て自動車運輸の價値が認められるやうになり、爾來次第に各地に行はれて居る。しかし積雪のため冬季は運轉を休止する地方が多い。現今旅客用自動車は各鐵道驛を起點とし、驛所在の市中及附近の町村、名勝、史蹟、溫泉など短距離の地に至るもの甚だ多く、またゝ前記の盛岡、宮古間を始め八戸、久慈間六四粁、古間木、十和田湖子ノ口間四八粁、田名部、大間間四五粁、青森、三厩間七一粁、五所川原、小泊間四五粁、鰺ヶ澤、岩崎間四五粁、長井、小國本間五〇粁の如き長距離に及ぶものもある。

道路は古昔その開鑿が進まず、江戸時代に入つてから諸大名の參覲に便するため奥州街道、濱街道、羽州街道などが開かれたが、何れも山地では車を通ずるに足るものがなく、大河には橋梁が設けられなかつた。しかるに明治維新後東京から各府縣廳その他に到達し、また各府縣廳相互を連ねる國道の制が定められ、地方官は銳意車道の開鑿に努めたので、今日鐵道幹線とほゞ竝走して居る陸羽街道、濱街道、羽州街道、西海岸街道その他の車馬道が通じ、爾來縣道の各都邑を連ね、特に自動車が利用されるやうになつて、一層鋪道架橋などが留意せられ、現今は陸上交通の便が大に進んで來た。

河川には北上、最上、雄物、米代などの水量豐かな大河があり、古來こゝに舟を泛べて、運輸の便に供したが、近時陸上の交通機關が發達したため、旅客の川舟を利用するものが甚だ稀になつて、河川は殆ど木材その他の貨物のみの運搬に役立つに過ぎなくなつた。

海上の交通は一般に振はず、殊に日本海方面は冬季になると風波が荒くて航行を絶つことが多い。江戸時代の中頃に仙臺米の江戸への輸送及荘内米の上方への運搬の海路が開け、ために石巻、酒田の兩港がその積出港となり、また北海道への交通のため松前に近い三厩や十三の港に和船の出入が多かつた。しかるに明治このかた吃水の深い汽船が行はれ、陸上の交通施設を考慮するやうになり、航路に變更を來し、北岸では青森、東岸では石巻の外に鹽釜、湊、西岸では船川、土崎が海運の中心となつた。殊に青森と鹽釜は重要な港市で、青森は北海道との連絡地點として獨自の位置を占め、大型の鐵道連絡船は一日三回旅客と貨車を積載して、函館に向ひ、その他室蘭、小樽、大泊、大湊、三厩などに通ふ汽船も發着する。鹽釜は東海岸最盛の港で、近海に往來する汽船が輻輳する、この附近に於ける航路と鐵道の連絡港及終點は左の通である。

（航路名）	（連絡港）	（終點）
石卷運輸造船會社線	鹽釜	金華山
松島灣汽船會社線	鹽釜	松島
三陸汽船會社線	鹽釜	宮古
同	鹽釜	高田
松島灣汽船會社線	松島	鹽釜
石卷運輸造船會社線	石卷	金華山
三陸汽船會社線	釜石	宮古
同	釜石	鹽釜

旅行日程案

松島、花卷廻覽　三日間

前夜　常磐線經由青森行列車で東京出發。

第一日　仙臺、鹽釜松島見物、松島海岸宿泊。

第二日　松島海岸から電車で松島驛に至り、盛岡方面行下り列車に乘り一ノ關で下車、乘合自動車で嚴美溪、達谷窟、平泉中尊寺見物、平泉から汽車に乘り花卷下車、電車で花卷溫泉に至り宿泊。

第三日　花卷溫泉附近見物、花卷驛に引返し、上野行列車に乘る。

翌朝　東京歸着。

松島、金華山廻覽　三日間

前夜　常磐線經由青森行列車で東京出發。

第一日　仙臺で下車、市中見物、汽車で松島驛に至り、電車で松島海岸に出で、五大堂、瑞巖寺など見物、モーターボートで松島灣內遊覽、鹽釜に至り鹽竈神社參拜、鹽釜宿泊。

第二日　汽船で鹽釜を發し金華山に上陸、黃金山神社參拜、宿泊。

第三日　金華山お山廻りの後汽船で鹽釜へ引返し、汽車または電車で仙臺に至り上野行列車に乘る。

翌朝　東京歸着。

會津廻覽　三日間

前夜　郡山廻り新潟行列車で東京出發。

第一日　會津若松で乘換へ、會津柳津下車、虛空藏に參詣。引返し會津柳津で乘車、會津若松で下車、乘合自動車で東山溫泉に至り宿泊。

第二日　飯盛山白虎隊墓、若松市中見物、會津若松から郡山行列車に乘り、翁島下車、長濱宿泊。

第三日　戸ノ口十六橋見物、長濱發汽船で猪苗代湖上遊覽、上戸に着、郡山行列車に乘り、郡山で上野行列車に乘換。

翌朝　東京歸着。

會津、溫海、鳴子廻覽　五日間

前夜　郡山廻り新潟行列車で東京出發。

第一日　翁島下車、猪苗代湖畔長濱、戸ノ口見物の上、汽車で會津若松に至り下車、若松城址、飯盛山白虎隊墓巡覽、東山溫泉宿泊。

第二日　會津若松で新潟行列車に乘り、阿賀ノ川の溪谷を過ぎ、新潟下車、市中見物の上、村上行列車に乘り、村上下車、瀨波溫泉宿泊。

第三日　村上で酒田方面行の列車に乘り、桑川下車、船で笹川流遊覽、越後寒川で汽車に乘繼ぎ、溫海下車、溫海溫泉宿泊。

第四日　溫海から汽車で酒田に行き、市中見物の上、新庄行列車に乘り、新庄で小牛田行列車に乘換へ、鳴子または川渡で下車、宿泊。

第五日　鳴子附近遊覽の上、小牛田行列車に乘り、小牛田で乘換へ、上野行列車に乘る。

翌朝　東京歸着。

十和田湖廻覽（其一）　三日間

前夜　東北本線青森行列車で東京出發。

第一日　古間木で下車、十和田鐵道または乘合自動車により三本木に至り、更に乘合自動車で奧入瀨川の溪谷を溯り、十和田湖畔の子ノ口に至る、それより船で湖上遊覽、湖畔宿泊。

第二日　湖畔遊覽、生出（和井內ホテル所在地）から乘合自動車で大湯溫泉に至り宿泊。

第三日　大湯溫泉出發、乘合自動車で毛馬內に至り、秋田鐵道で大館に出で上野行列車に乘換。

翌朝　東京歸着。

十和田湖廻覽（其二）　三日間

前夜　秋田廻り青森行列車で東京出。

第一日　大館で秋田鐵道に乘換へ、毛馬內下車、乘合自動車で大湯溫泉に至り宿泊。

第二日　大湯溫泉から乘合自動車で十和田湖畔の生出（和井內ホテル所在地）に至る、それより船で湖上遊覽、子ノ口で下船、更に乘合自動車で奧入瀨川の溪谷を下り、燒山から徒歩蔦溫泉に至り宿泊。

第三日　燒山に引返し、乘合自動車で三本木に出で、十和田鐵道ま

たは乗合自動車で古間木に至り、上野行列車に乘る。

翌　朝　東京歸着。

田澤湖廻覽　二日間

前　夜　秋田廻り青森行で東京出發。大曲で生保內行に乘換、神代下車、抱返り、夏瀨溫泉見物、八木澤口を經て生保內に出で、乘合自動車で田澤湖畔の白濱に至り宿泊。

第二日　田澤湖上舟遊、生保內發車、大曲で、上野行列車に乘換。

翌　朝　東京歸着。

男鹿半島廻覽　二日間

前　夜　秋田廻り青森行列車で東京出發。

第一日　秋田で乘換、船川下車、遊覽船で半島の景勝を探り船川より秋田に引返し宿泊。

第二日　秋田見物、上野行列車に乘る。

翌　朝　東京歸着。

この遊覽は風波のために果し難いことが多いから、海上の靜穩な六月頃を選ぶがよい。

東北地方廻覽（其一―東北本線沿道を主とするもの）　九日間

第一日　福島方面行の列車で東京出發、白河下車、白河城址、南湖公園、白河關址見物、次に白河で汽車に乘繼ぎ福島下車、信夫山公園文字摺石見物、飯坂溫泉に至り宿泊。

第二日　電車で伊達に至り仙臺方面行の列車に乘り、仙臺下車、市內見物、汽車または電車で鹽釜に行き、鹽竈神社參拜、モーターボートで松島灣遊覽、松島海岸宿泊。

第三日　電車で松島驛に出て、盛岡方面行の列車に乘り一ノ關下車、乘合自動車で、嚴美溪、達谷窟、中尊寺金色堂見物、平泉から列車に乘繼、花卷下車、電車で花卷溫泉に至り宿泊。

第四日　花卷溫泉附近見物の上、花卷驛から汽車に乘換、盛岡下車、市內見物、宿泊。

第五日　青森行列車で出發、古間木下車、十和田鐵道または乘合自動車で三本木に至り、更に乘合自動車で奧入瀨川の溪流を見て十和田湖畔の子ノ口に至り、モーターボートにより湖上遊覽、湖畔宿泊。

第六日　古間木に引返し、青森行列車に乘り野邊地乘換、田名部下車、乘合自動車で、恐山溫泉宿泊。

第七日　恐山見物、田名部を經て野邊地へ引返し、更に青森行列車に乘り、淺虫下車、宿泊。

第八日　淺虫から汽車で青森に至り、秋田方面行列車に乘換へ、秋田下車、宿泊。

第九日　秋田市中見物、上野行列車に乘る。

翌　朝　東京歸着。

東北地方廻覽（其二―奧羽本線沿道を主とするもの）　七日間

前　夜　秋田廻り青森行列車で東京出發。

第一日　米澤及山形で下車、市內見物の上、乘合自動車で、山寺に參詣、山形に引返し宿泊。

第二日　秋田方面行列車に乘り、大曲乘換、生保內で下車、乘合自動車で田澤湖畔宿泊。

第三日　生保內に出で列車で大曲に引返し、更に秋田方面行に乘繼ぎ秋田下車、宿泊。

第四日　秋田市中見物の上青森行列車に乘り、大館で秋田鐵道に乘換、毛馬內下車、乘合自動車で大湯溫泉に至り宿泊。

第五日　乘合自動車で十和田湖畔の生出に至り、モーターボートで湖上遊覽、子ノ口から乘合自動車で燒山に至り、徒步、蔦溫泉宿泊。

第六日　燒山に引返し、乘合自動車で三本木に出で、それより十和田鐵道または乘合自動車で古間木に至り、仙臺方面行の列車に乘り、花卷下車、電車で花卷溫泉に至り宿泊。

第七日　花卷溫泉附近見物、花卷驛に引返し上野行列車に乘る。

翌　朝　東京歸着。

東北地方廻覽（其三―磐越西線、羽越本線沿道を主とするもの）　七日間

前　夜　郡山經由新潟行列車で東京出發。

第一日　會津若松下車、若松城址・飯盛山白虎隊墓見物、東山溫泉宿泊。

第二日　會津若松で新潟行列車に乘り、新潟下車、市中見物村上行列車に乘り村上下車、瀨波溫泉宿泊。

第三日　村上から酒田方面行列車に乘り、桑川下車、船で笹川流遊覽、越後寒川で汽車に乘繼ぎ、溫海下車、溫海溫泉宿泊。

第四日　溫海乘車、大山下車、善寶寺、湯野濱溫泉見物、更に汽車で鶴岡を經て酒田に至り宿泊。

第五日　酒田乘車、秋田に下車して、市中見物更に汽車に乘り大鰐下車宿泊。

第六日　大鰐乘車、弘前下車、市中見物、青森を經て淺虫に至り宿泊。

第七日　浅虫を發し上野行列車に乘る。

翌　朝　東京歸着。

磐梯山登山、會津若松、東山溫泉廻覽　二日間

前　夜　郡山廻り新潟行列車で東京出發。

第一日　猪苗代下車、磐梯山登山、引返し、猪苗代乘車、會津若松下車、乘合自動車で東山溫泉に至り宿泊。

第二日　飯盛山白虎隊墓、若松城址見物、會津若松で郡山行列車に乘り、郡山で上野行列車に乘換。

翌　日　東京歸着。

吾妻山登山　三日間

第一日　山形方面行列車で東京出發、庭坂下車、信夫高湯宿泊。

第二日　吾妻山登山、微溫湯に引返し宿泊。

第三日　庭坂に下り、上野行列車に乘り東京歸着。

靈山登山　三日間

第一日　福島方面行の列車で東京出發、福島下車、電車で掛田に至り宿泊。

第二日　掛田から靈山神社を經て靈山登山、掛田に引返し、電車で飯坂溫泉に至り宿泊。

第三日　飯坂から電車で福島または伊達に出て、上野行列車に乘り、東京歸着。

藏王山登山、山寺廻覽　四日間

前　夜　東北線青森行列車で東京出發。

第一日　白石または大河原下車、自動車で遠刈田に至り宿泊、或は更に青根溫泉、峩々溫泉に至り宿泊。（大河原、遠刈田間は仙南溫泉軌道の便もある。）

第二日　藏王山登山、最上高湯に下り宿泊。

第三日　自動車で出發、山形、山寺見物、山形または上ノ山に引返し宿泊。

第四日　上野行列車で東京歸着。

岩手山登山　三日間

前　夜　青森行列車で東京出發。

第一日　瀧澤下車、柳澤宿泊。

第二日　岩手山登山、網張溫泉に下り宿泊。

第三日　小岩井に出で盛岡行列車に乘り、盛岡乘換上野行列車に乘る。

翌　朝　東京歸着。

八甲田山越　四日間

前　夜　青森行列車で東京出發。

第一日　古間木で下車、十和田鐵道または乘合自動車で三本木に至り、更に乘合自動車で燒山まで行く。それから徒歩蔦溫泉宿泊。

第二日　八甲田山の大岳に登山、酸ケ湯に下り宿泊。

第三日　酸ケ湯から横内に至り、乘合自動車で青森に出で、汽車に乘り、淺虫下車、宿泊。

第四日　上野行列車に乘る。

翌　朝　東京歸着。

出羽三山登山　四日間

前　夜　秋田廻り青森行列車で東京出發。

第一日　新庄で酒田行列車に乘換、狩川下車、乘合自動車で手向に至り、羽黒山の出羽神社に參拜、冷淸水または合淸水宿泊。

第二日　月山、湯殿山を經て、志津に下り宿泊。

第三日　間澤に至り三山電車で羽前高松に出で、山形行列車で山形乘換、上ノ山または赤湯下車、宿泊。

第四日　上野行列車で東京歸着。

鳥海山登山　三日間

前　夜　秋田廻り青森行列車で東京出發。

第一日　新庄で酒田行列車に、酒田で秋田行列車に乘換、遊佐下車、蕨岡に至り宿泊。

第二日　鳥海山登山、小瀧口より下山、象潟で秋田行列車に乘り、秋田下車、宿泊。

第三日　秋田見物、上野行列車に乘る。

翌　朝　東京歸着。

岩木山登山　三日間

前　夜　秋田廻り青森行列車で東京出發。

第一日　弘前で下車、宿泊。

第二日　弘前から百澤を經て岩木山登山、嶽溫泉に下り宿泊。

第三日　弘前に引返し、上野行列車に乘る。

翌　朝　東京歸着。

附　記

東北地方は地積が廣大であるから、この地方の旅行は自然長距離に亘り易く、往復のために費用を要する

ことが比較的多い。しかし一般の氣風が簡素質朴であるため、宿料その他が概ね低廉である。

國有鐵道の旅客運賃は全國內地を通じて一定の率が行はれ、三等についての規定は一哩につき

50哩未滿	二錢五厘
50—100哩	二錢一厘
100—200哩	一錢七厘
200—300哩	一錢四厘
300—400哩	一錢二厘
400—500哩	一錢一厘
500哩以上	一錢

の割合で算出し、最少限を五錢とし、錢未滿を切上げる。二等運賃は三等の二倍、一等運賃は三等の三倍である。粁で云へば

50粁	八十錢
100粁	一圓五十三錢
200粁	二圓七十一錢
300粁	三圓七十八錢
400粁	四圓六十九錢
500粁	五圓五十四錢
600粁	六圓二十八錢
700粁	六圓九十九錢
800粁	七圓六十七錢
900粁	八圓三十錢
1,000粁	八圓九十一錢

地方鐵道の旅客運賃は國有鐵道のそれより高く約二倍までに上る。乘合自動車の運賃は普通一里につき二十錢乃至六十錢、一粁につき五錢乃至十五錢、他の乘物と競爭のある處は特に安い。汽船賃は二等一浬(マイル)につき五錢乃至十錢。

宿料は普通一泊二圓五十錢乃至三圓五十錢。但し郡山、福島、仙臺、盛岡、青森、米澤、山形、秋田、弘前、鶴岡、酒田の都市、飯坂、湯野、鳴子、花卷、淺虫、赤湯、上ノ山、大湯、大鰐、瀨波、溫海、湯濱などの溫泉場、松島海岸、十和田湖畔などの名勝地にある一等の旅館ではそれ以上に及ぶものもある。また溫泉では多く自炊制が行はれ、湯治客は經濟的に滯在することが出來る。

この地方に於ける列車中寢臺車を連結して居るものは左の通りである。

常磐線廻り	上野青森間	二〇一列車	一、二等寢臺
同		二〇二列車	一、二等寢臺
東北本線廻り	上野青森間	一〇三列車	二等寢臺
同		一〇四列車	二等寢臺
奥羽本線廻り	上野青森間	四〇一列車	二等寢臺
同		四〇二列車	二等寢臺
磐越西線廻り	上野新潟間	九〇一列車	二等寢臺
同		九〇二列車	二等寢臺
羽越本線廻り	神戸青森間	五〇三列車	二等寢臺
同		五〇四列車	二等寢臺
同		五〇五列車	二等寢臺
同		五〇六列車	二等寢臺

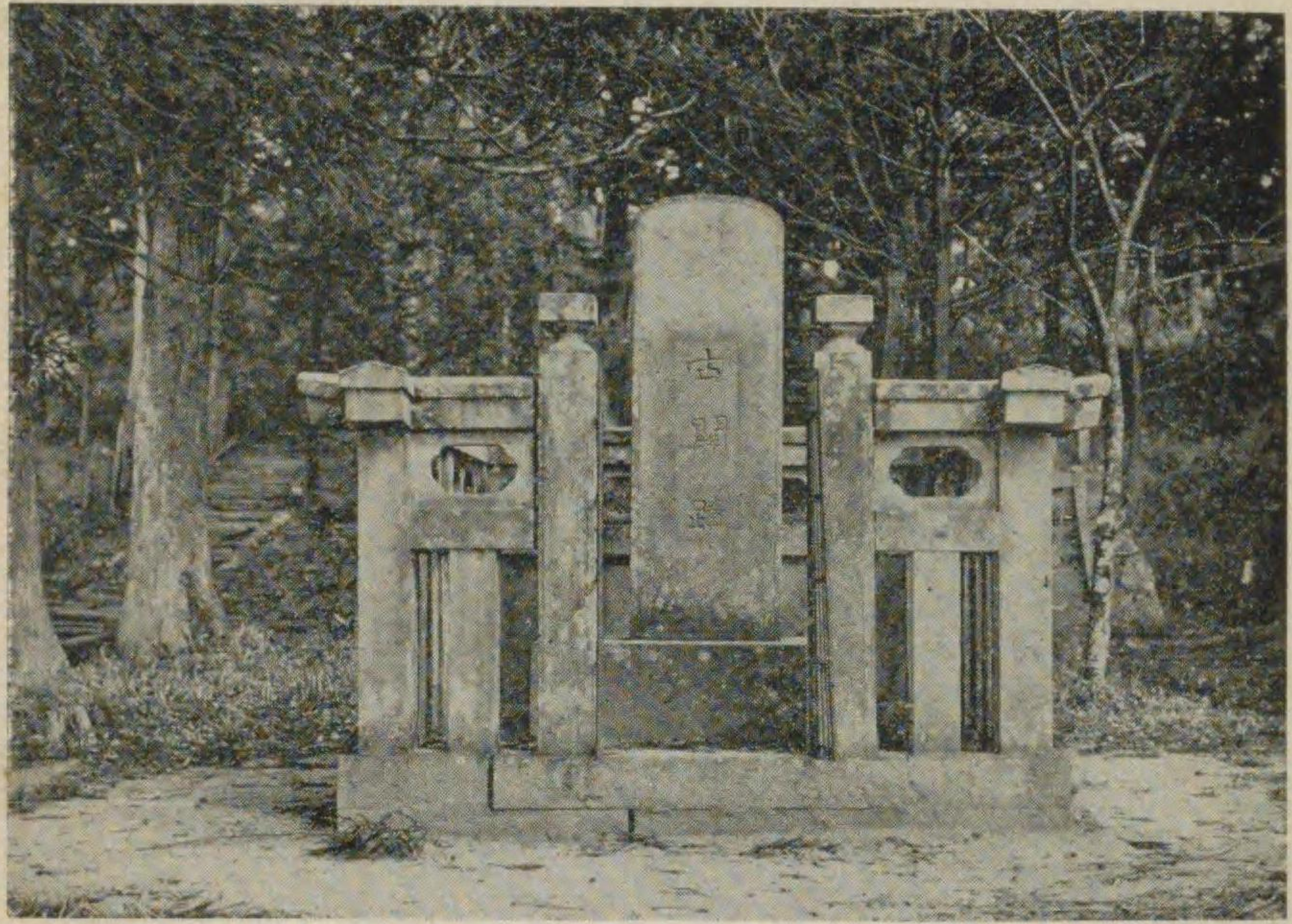
また食堂車は左の諸列車に連結してある。

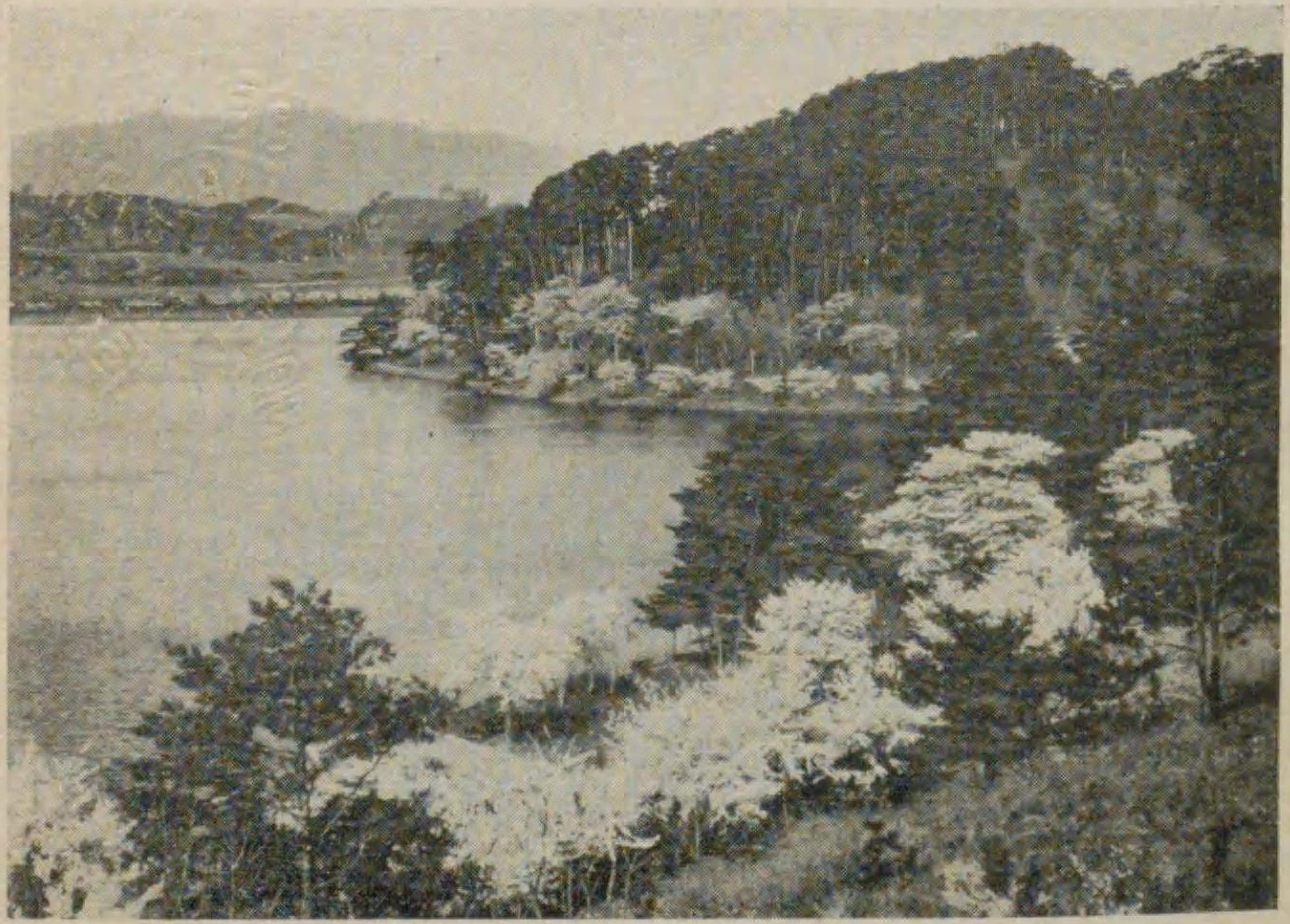
常磐線廻り	上野青森間	二〇一列車	洋食
同		二〇二列車	洋食
東北本線廻り	上野青森間	一〇一列車	和食
同		一〇二列車	和食
同		一〇三列車	和食
同		一〇四列車	和食
奥羽本線廻り	上野青森間	四〇一列車	和食
同		四〇二列車	和食
羽越本線廻り	神戸青森間	五〇五列車	和食
同		五〇六列車	和食

この他青森、函館間の連絡汽船內には食堂の設があり和洋料理を調進し、福島、青森兩驛の構內には食堂がある。

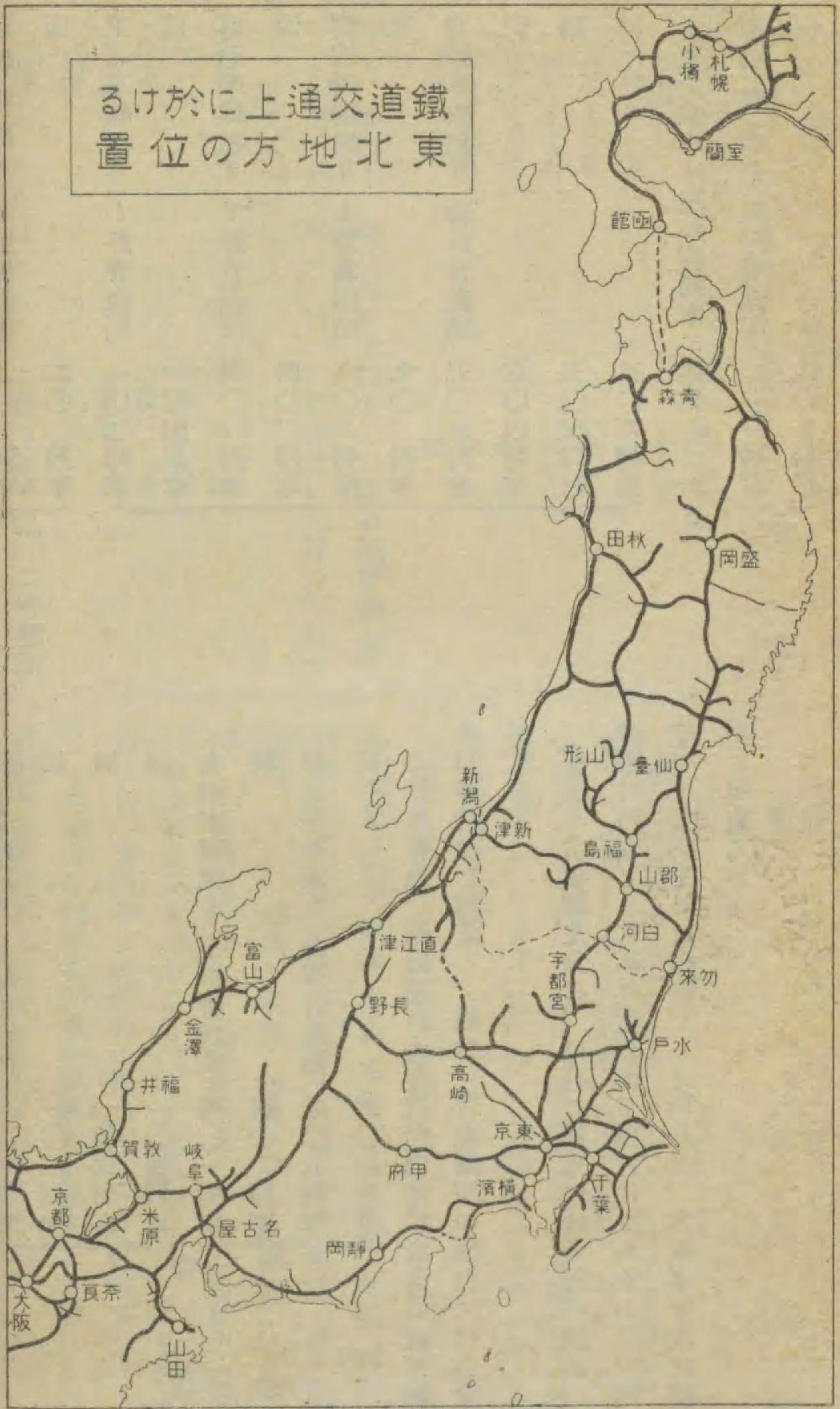
省線の主要驛及急行、直行の列車には各種の藥品、繃帶材料などを收めた救急函を備付けてあるから、汽車中で發病または怪我をした場合は、客扱車掌或は驛員に申出るがよい。

白河關址



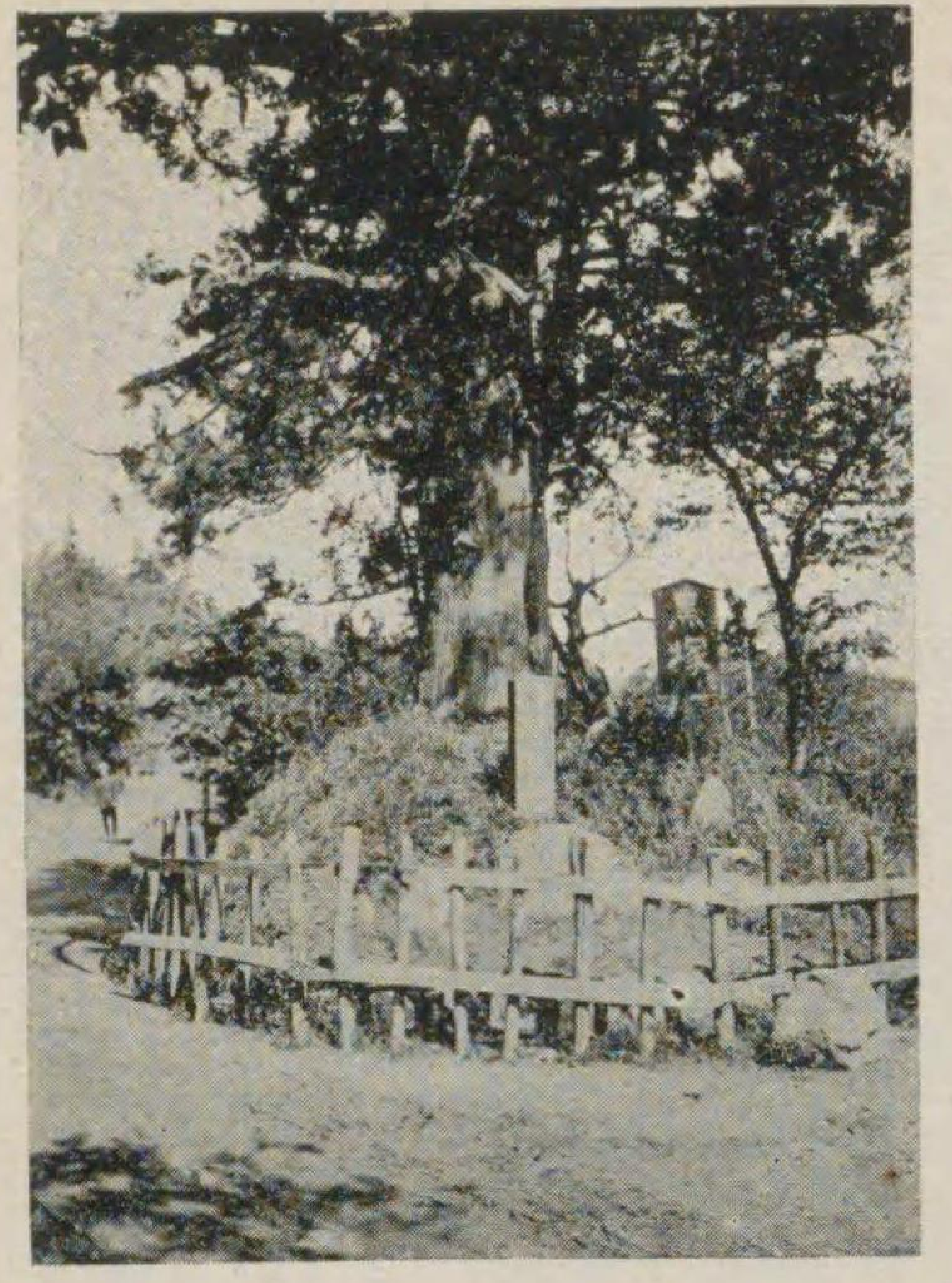


南湖公園

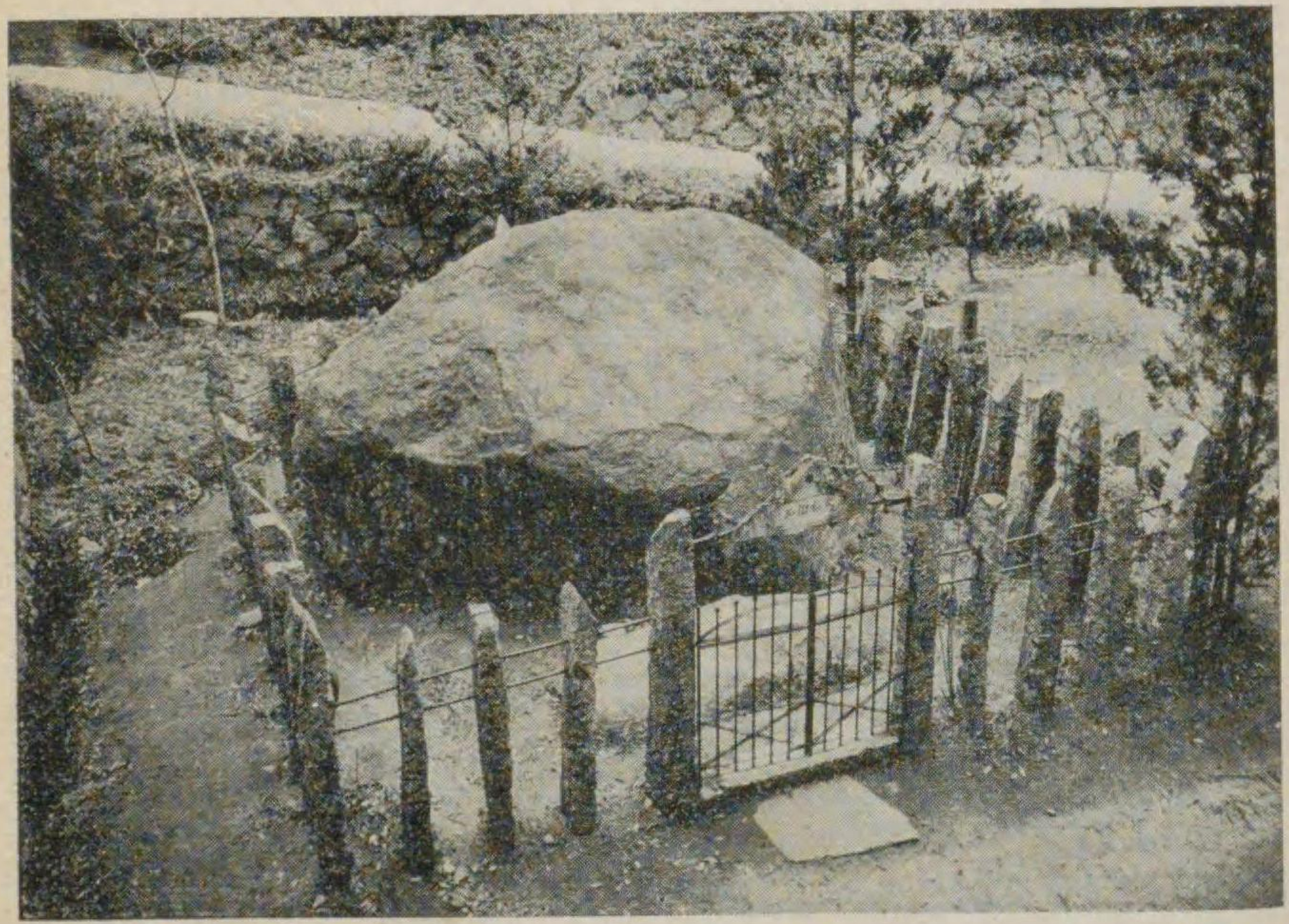


鐵道交通上に於ける
東北地方の位置
小樽
札幌
室蘭
函館
青森
秋田
盛岡
山形
仙臺
新潟
新津
福島
郡山
白河
直江津
富山
長野
宇都宮
勿來
水戸
金澤
高崎
福井
東京
敦賀
岐阜
甲府
横濱
千葉
京都
米原
名古屋
靜岡
大阪
奈良
山田

甲子溫泉かりがね橋

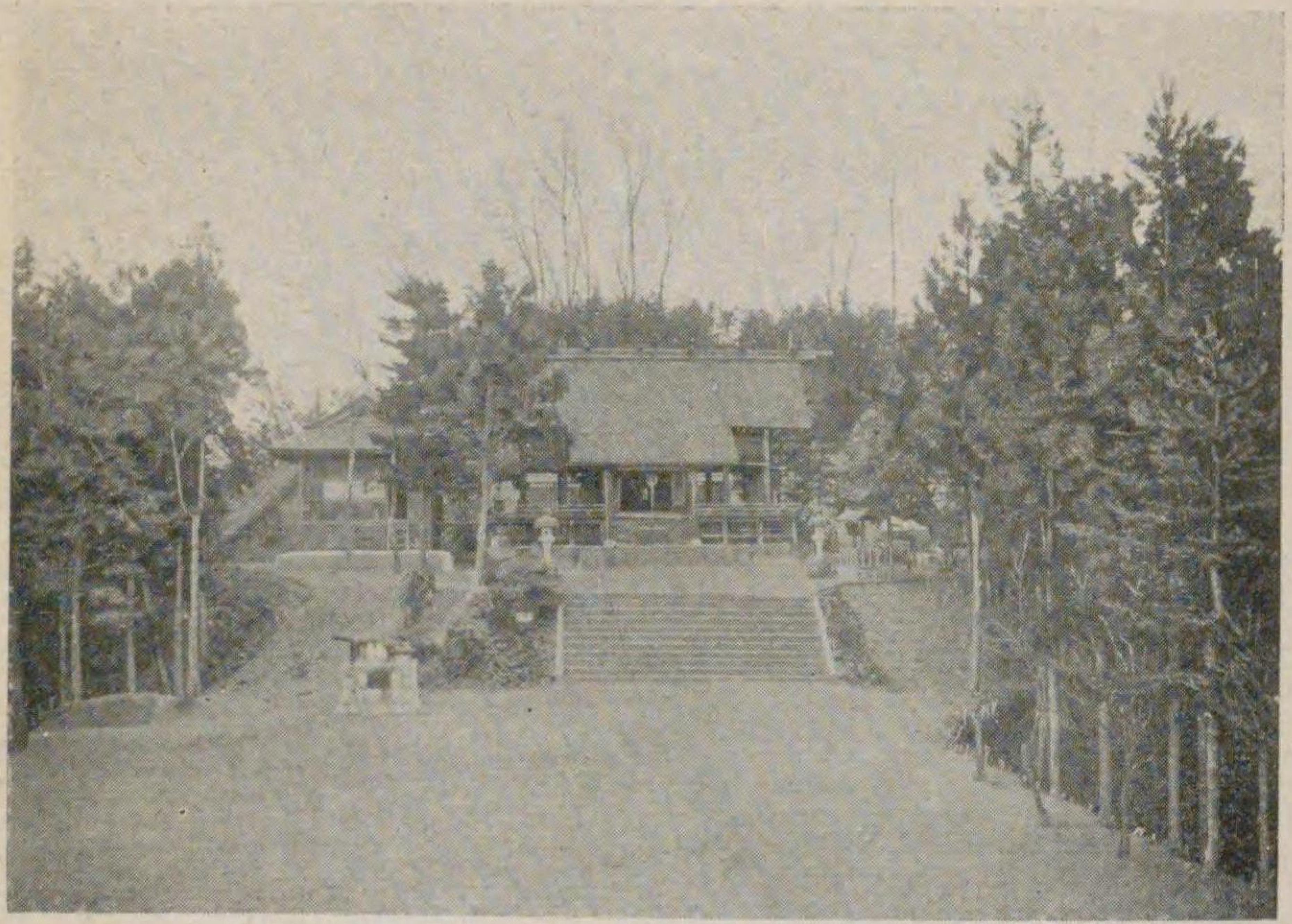


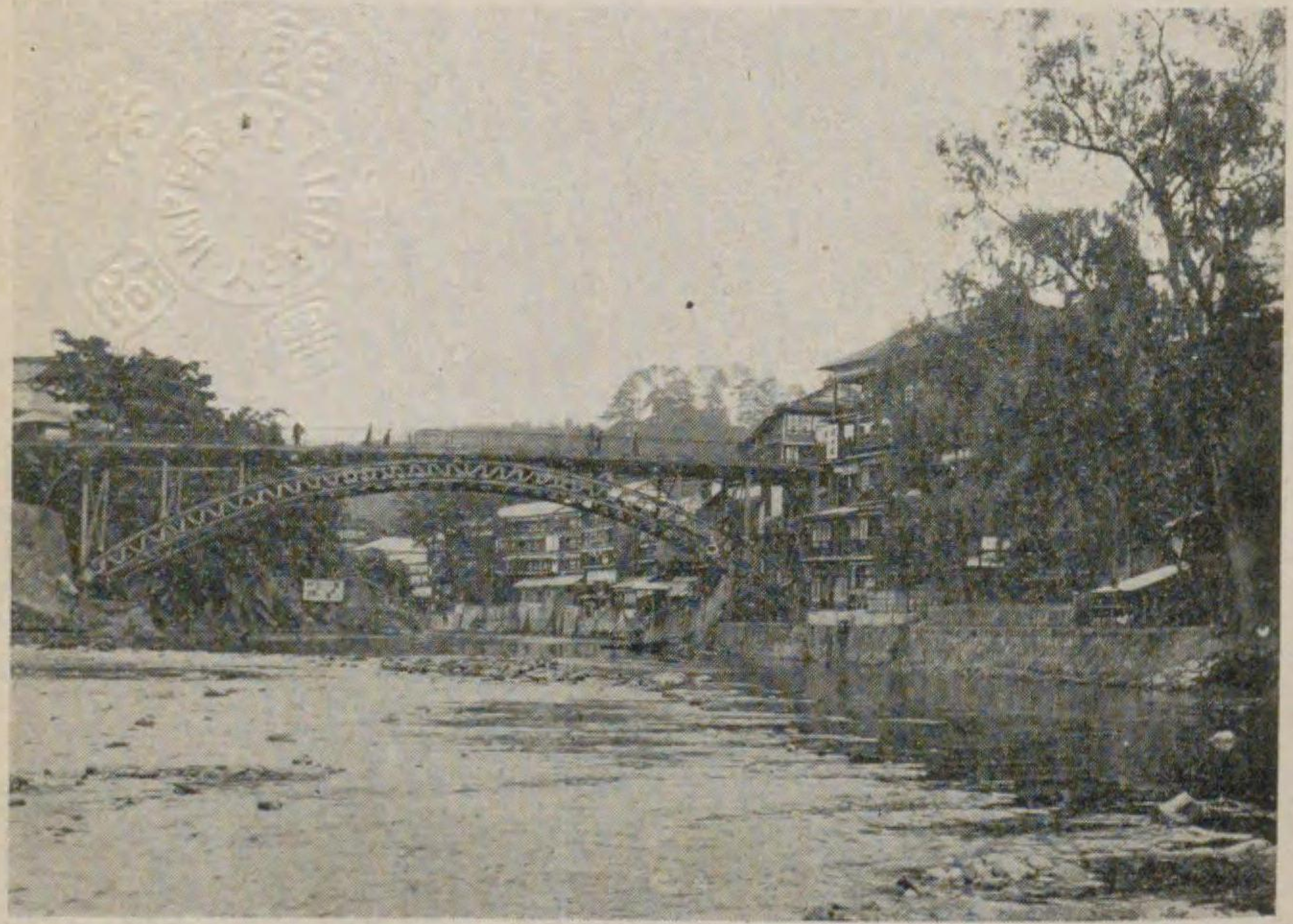
安達原黒塚



文字摺石

靈山神社





飯坂湯野溫泉

案内編

白河　福島間

【東京から白河まで】東京上野から出發し、荒川を渡つて埼玉縣に入り鑄物で名高い川口町を過ぎると左右には稻田が見える、このあたりから左窓には富士の秀峰が丹澤群山の上に見え、右窓には筑波山が平野を越えて眺められる。浦和を過ぎると麥畑が展開する。高崎線の分岐する大宮を出て右手に近く見える森は官幣大社氷川神社のある處。左には秩父の山々が見え、その中特に高い雲取山の右に武甲山が眺められる。蓮田からは武州鐵道線が分岐して岩槻へ通ずる。このあたりから左窓の展望が廣くなり、秩父の山々から妙義、淺間、榛名、赤城の諸火山まで見える。久喜では東武電車線が交叉する。これからは麥畑の間に桑畑が混つて來て、養蠶地帶に入つたことが認められる。栗橋で利根川の大鐵橋（長さ四八三米）を渡れば茨城縣の一部を掠め、古河を過ぎ、栃木縣に入る。

小山では兩毛線と水戸線が左と右に分れる。このあたりから線路に沿うた畑に夏は大きな匏が見える。また右窓に映る筑波山の頂に、男體、女體の双峰が鮮かに仰がれる。左窓には日光火山群の諸峯が宇都宮に近づくにつれてよく見え出す。中にも海拔二四八六米の男體山は圓みある圓錐形をなして特に著しく聳え、その左に白根山、右に大眞名子、女貌、赤薙の諸山が竝ぶ。

宇都宮で日光線が分岐する。岡本を過ぎると鬼怒川の扇狀地に入り、延長六三九米の鐵橋で本流を渡る。橋上で左窓に高原火山が映る。有名な鬼怒川發電所はこの上流にあつて、東京市その他へ電力を供給して居る。寶積寺からは烏山線が分れる。蒲須坂を過ぎると始めて丘陵の間に入り、矢板を經て箒川を渡ると那須野に出る。箒川の上流に沿ひ、高原火山の東北麓に鹽原の温泉がある。西那須野からは鹽原

電車が分岐して鹽原口に通ずる。汽車の那須野を過ぐる間、常に左窓に那須火山がよく映じて、噴出する瓦斯が微かに見える。右窓外には八溝山脈が低平な山背を示して次第に北方に高まり八溝山に及ぶ。かくて線路は漸次山峽に向ふ。黑磯は那須諸溫泉への下車驛で、この驛を出て那珂川を渡れば那須野は盡き、線路は次第に勾配を增し、黑田原を過ぎてからは左右に山が迫つて來て、自ら關門の形勢をなす間を那須岳から下る黑川の谷に沿うて上る。下野豐原を過ぎ、黑川を渡れば列車は東北地方の福島縣に入り、やがて分水嶺にあるトンネル（海拔四〇一米）を拔けて阿武隈川の流域に出て、白坂から北に下つて白河に着く。

白河附近

白河驛（一圖さ5）福島縣西白河郡白河町

上野から一八六粁二―一一五哩七　急行約四時間

福島から八四粁二―五二哩三　急行約二時間

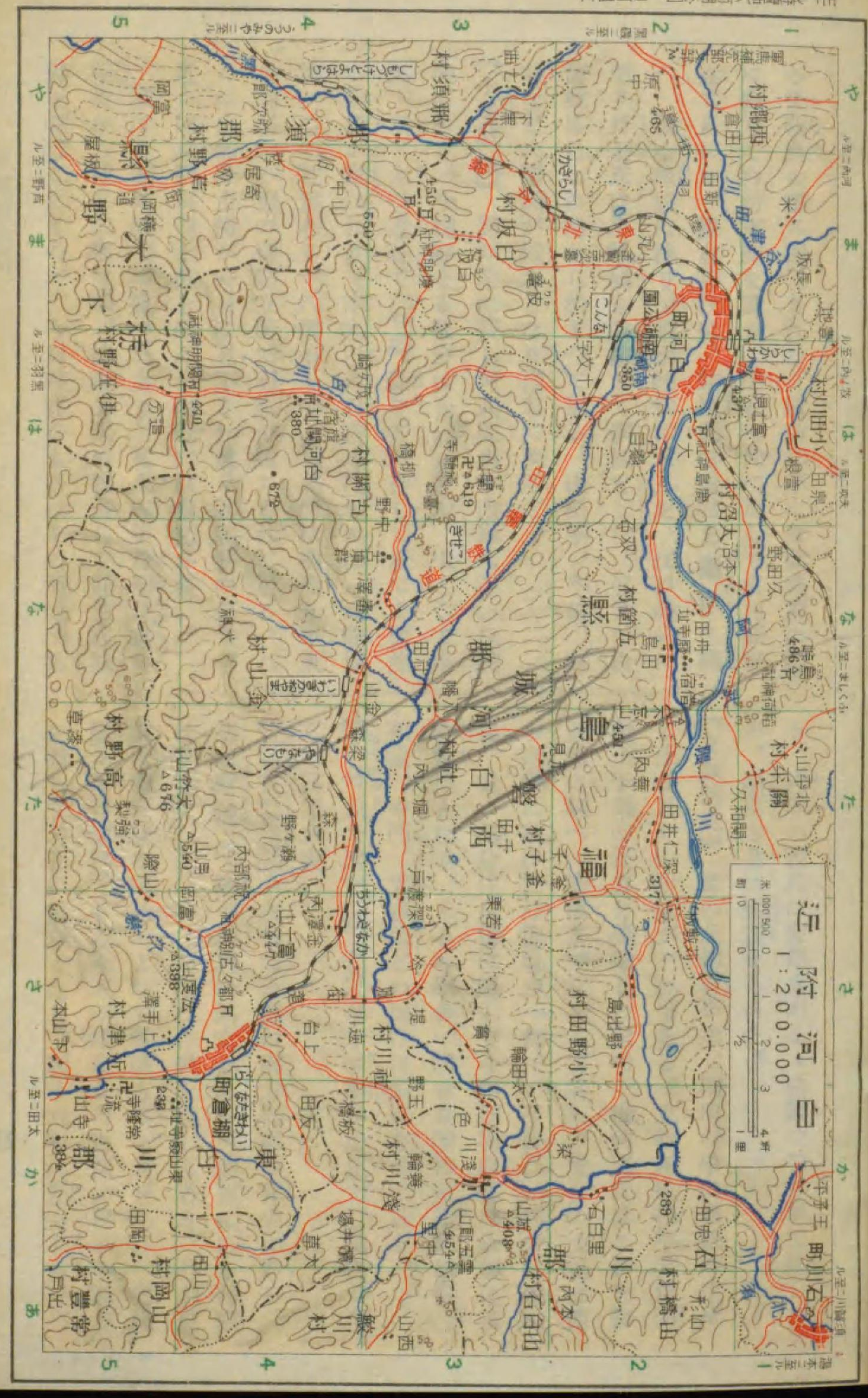
▽**白棚鐵道線**（一圖さ5）白河磐城棚倉間　二三粁三―一四哩五

▽**乘合自動車**　棚倉行　石川行　淺川行　矢吹行　牧ノ內行

馬立（甲子溫泉途中）行

▽**旅館**　白河ホテル

【白河町】（四圖）　東北地方の南隅、阿武隈川の上流に位し、陸羽街道上重要の地點を占めて居る。人口約二萬、福島縣南部の物資集散地で、製絲、釀酒の工業が行はれる。有名な白河の馬市は江戶時代の初期から行はれて居たが、寬政年間藩主松平定信が大に保護を加へてから出場の頭數が著しく增加し、爾來幕末まで町民は每年馬市の際の收入で半年以上の生計を支へて居たと稱する程に盛であつた。今では年二回、春は三月十二日から十七日まで、秋は九月廿九日から十月三日までの間、町營の馬市場で行はれ、特にその秋の市には出馬の數は一萬頭に近く、白河驛からの馬の發送數は一年一萬五千頭に及ぶ。また東京方面で需要される白河石は附近の西鄕村や五箇村から出し、年產約二萬噸に及び、白河驛は石材輸送の點で、東北第一位を占めて居る。この地方は古昔白河國と呼ばれ、大化改新



の後陸奥の郡に編入された。神龜二年には陸奥國の請に應じて白河軍團を置き、平安時代に及んで白河莊が立てられた。鎌倉時代に、結城氏は居城を搦山に構へ、後小峰城に移り、戰國時代に及んだ。江戸時代に至り丹羽氏は小峰城を改修して鎭城とした。近世の白河城市はこの時から始まつて居る。後松平、本田、阿部などの諸氏が城主となり幕末に及んだ。

【小峰城址】驛の北に接し阿武隈川の南岸に近い丘陵地にある。今殘存せる部分は方約三〇〇米、主として本丸、二ノ丸の遺址で、石垣、濠などが存して居て主要部の規模が窺はれる。本丸の入口清水門址には「小峰城址」の石柱があり、八幡臺と呼ぶ最高所は明治九年東北御巡幸の際の御野立所で石標が建てられて居る。こは白河の市街が一目に見下され遠く那須岳の全景、近く阿武隈川の上流を眺め、附近には櫻樹が多い。

城はもと結城氏の據つた處で、寛永五年丹羽長重が棚倉から轉じて來た際、規模を改め擴張して近世式城郭を經營したもので、今日殘存のものはその遺址である。戊辰の役には會津兵がこゝに據つて官軍に抗したが、陷落と共に廢毀せられた。

【立教館址】驛の北約二〇〇米、稻田の中に老松の生ぜる土壘及その附近がそれである。立教館は松平定信が藩士子弟の教育を奬勵した處で、後阿部氏はこれを修道館と稱へ、廢藩まで存在して居た。現存の土壘は館の西側に設けた弓砲場の一部で、その高い部分は砲術場、低い部分は弓場に屬し、今兩道場内部は全部民家の敷地となり、もとの學舍、講堂を始め槍劍柔道場、苑池、中門、文庫などの地は田圃になつて居る。

【友月山公園】驛の南八五〇米にある小丘で、櫻樹が多く、展望が廣い。

【丹羽長重廟】友月山公園の南方松杉の林中にある。墓は寶篋印塔で表裏に銘文がある。前面にある拜殿は華麗で、江戸時代初期の作風を現して居る。丹羽長重は關原役の戰功によつて常陸古渡に封ぜられ、爾後屢々加封轉移して寛永五年棚倉より白河に移り十萬石を領して東北の重鎭となり、同十四年に逝去した。

【戊辰戰役戰死者の碑】 白河町には戊辰戰役戰死者の碑が非常に多い。官軍の戰死者を葬つた墓地として、有名なのは元町の長壽院である。明治九年東北御巡幸の際陪從した岩倉具視、木戸孝允、大久保利通などはここにその靈を弔ひ石燈籠を獻じた。また向寺町の國道と茨城街道の岐路の處に仙臺藩士戊辰戰歿之碑（北白川能久親王御筆）と題する石碑がある。その他單に戊辰戰死者或は供養塔と題するものは小峰城址、關川寺、常宣寺その他町内到る處にある。

【鹿島神社】（四圖は2） 驛の東約二粁、大沼村鹿島にある。延喜式内白川神社で、江戸時代には小峰城の鎭守總社であつた。本殿及拜殿は明治四十三年炎上し、今の建物はその後のものである。東隣に草葺の觀音堂と彌勒堂がある。もとの別當最勝寺の址である。觀音堂には梵鐘があつて、その銘に「奥州白河莊竹原郷鹿王山最勝寺鹿島宮鐘」とあり、天文十三年に藤原義綱の寄進したものである。

【搦城址（白河古城）】 驛の東南約三粁、自動車の便あり、大沼村搦目部落西端の丘陵附近を搦城址と傳へて居る。この城は結城氏の居城で、正應二年に成り、吉野時代には宗廣がこれに據つて皇室に盡し義良親王を迎へ奉つたことがあつた。後永祿年間に至り小峰氏が結城氏を侵し新に小峰城を營んだ結果、遂に廢滅に歸した。今その丘陵の斷崖をなす岩壁には松平定信筆の「感忠銘」と題する巨大な磨崖碑がある、これは結城宗廣の忠節を頌したものである。

【南湖公園】（四圖は2） 驛の南三粁、白棚鐵道南湖驛前、寛政年間藩主松平定信が開鑿せしめて、田園灌漑の利を計ると共に衆人清遊の地としたもので、指定の史蹟名勝地である。その由來を記した碑が湖畔月待山のほとりに立つて居る。碑文は藩儒廣瀬典の草したものである。湖水の周圍約一粁半、湖の中央に辯才天を祀れる小島がある、湖畔には赤松櫻楓などの樹木があつて湖面に映じ、西方遙に那須岳を望み東方近く關山を望んで風景がよい。文化年中十六景十七勝を選んで諸國名流の士に詩歌を徴し、これを纏めて一石に刻したものが湖畔に立ち、また勝地毎にそれぞれの歌碑が立つて居る。

湖畔の北隅には縣社南湖神社があり松平定信を祀る。境内に定信に由緣ある羅月庵と稱する古雅な茶室が保存されて居る。

【境明神社】 白坂驛の南約四粁、白坂村明神にある、陸羽街道に南面し、古の下野、陸奥の國境の兩側に相竝んで祀られて居るので境明神と稱し、南は下野の人、北は陸奥の人が祭つたもので、兩社を合して二所明神と稱へて居る。江戸時代には奥羽越三國の諸大名が江戸往還の途次に必ず參拜したものである。

【關山滿願寺】 白棚鐵道關山口驛の南四粁、古關村關山の頂上にある。良馬を得んとする者の祈願所となり、馬の繪馬が多く獻納されて居る。境内には集古十種所載の下馬の石碑がある。

【白河關址】（四圖は5） 白河驛の南一〇粁、白棚鐵道古關驛の西南七粁、古關村旗宿部落の南端に近い小丘で、阿武隈川の支流白川の谷頭にある。丘の登り口には松平定信の建てた「古關蹟」と題する碑がある。丘上には方約100米の空濠を繞らして内側に土壘が築かれて居る。これが關の警固の館址である。この關は初め菊多卽ち勿來剗と竝び稱せられ、蝦夷防備の要地として早く上古より設置せられ、平安初期まで嚴然として存したが、今の遺蹟は恐らく安倍賴時が奥州を領して衣川に據つた時に、この關を以て警固とした頃からのものであらう。文治五年源賴朝が藤原泰衡討伐の兵を進めた時、梶原景季が「秋風に草木の露を拂はせて君が越ゆれば關守もなし」と詠じたやうに賴朝の兵は一戰も交へずしてこの關を通過することが出來た。その後關の停廢の時期は明かでない。尙關址壘濠の北隣には丘の南の畑地から移された白河神社がある。更にこの丘は石器時代の遺蹟であつて、土器の殘片や石器などが往々發見され、神社にもその二三を藏して居る。

旗宿から南行約四粁、漸く迫つた山峽に入つて峠に達すると、「從是北白川領」と記した石標が立ち、路傍山祠の石階を昇れば杉木立に圍まれた小祠があつて、

關東と奧州の境の神が祀られて居る。これより坂路を南に下ると追分の部落がある。

【一町佛】 白河關址の東北半粁、古關村旗宿部落の中央にある、先の丸細くなつた自然石に阿彌陀の種子を一字陰刻したものである。藤原清衡が白河關から外ケ濱まで一町毎に建てた卒塔婆の一つであると傳へられて居る。

【借宿廢寺址】（四圖な2） 白河驛の東八粁、五箇村借宿西南端の臺地上にあり、小堂の附近に土壇があり、二三の礎石が遺存し、夥しく古瓦の殘片が散亂して居る。古瓦の紋樣や礎石などによつて奈良時代頃に營まれた寺院の址であることが察せられる。

【石川町】（四圖あ1） 白河驛の東二三粁、須賀川驛からは東南二〇粁、共に自動車の便がある。町は阿武隈川の支流北須川に沿ひ水郡線の經過する豫定地にあたる。地方物資の集散地で、春の馬市が賑ふ。この地は鎌倉時代石川莊の地頭總領職が治めた所で、後石川昭光がこゝに城を築き三蘆城と呼んだが、天正十八年行いて伊達氏に屬した。戊辰の役には官軍の參謀板垣退助が兵を入れてこの地を守つたこともある。町の西端の山上、鄕社石都々古別神社の北方三蘆城址と稱する處がある。また町の西北にある長泉寺に石川氏の墓がある。

【石川山】 石川町にあり、わが國著名の特殊鑛物產地である。母岩はペグマタイトで、その中に石川石、サマルスキー石、ゼノタイム、モナザイト、コルンブ石の如き放射能を有する鑛物を產しその中地名を冠せる石川石は殊に放射能が著大である。また別に黑水晶、綠柱石、電氣石、柘榴石なども出る。

【母畑鑛泉】 石川町の東北約四粁、白河驛から東二七粁、須賀川驛から東南二四粁、共に自動車の便がある。小丘陵に圍まれ、北須川の流に臨む、旅館は元湯、八幡屋、下之湯、自炊制を主とする。鑛泉は片麻岩中から湧出する弱アルカリ性硫黃泉で、ラヂウムエマナチオンの含有量東北地方諸鑛泉中稀に見る多量を示す。温度攝氏一四度、火力を加へて居る。リウマチス、神經諸病、皮膚病、特に創傷、火傷によく効くと云ふ。

【軍馬補充部白河支部】（四圖や2） 白河驛の西二粁、西鄕村にある。阿武隈川の支流谷津田川に沿ふ原野を利用して軍馬を育成する所で、二歲駒を馬市で購入して五歲までこゝで飼ひ後軍隊へ配付する。

【河內】 白河驛の西北一六粁にある。阿武隈川支流の深い谷で、斷崖が聳えて急流瀑布があり、つゝじ、紅葉の勝地である。

【甲子溫泉】（三圖か5） 白河驛の西二六粁、西鄕村の山間、阿武隈川の上流、甲子山の麓にある。白河から馬立まで約二二粁の間自動車の便があり、道は絕えず茶臼岳を主峯とせる那須火山群とその右に續く甲子の旭岳を仰ぎて、光景雄大である。旅館は甲子旅館一軒千餘人の收容力あり、自炊制を主とする。現時の建物は松平定信（樂翁）當時のもので、その別莊、賓客を招じた勝花亭、樂翁筆谷文晁畫の甲子山大黑天の碑など當時を追想せしむるものも殘つて居る。溫泉は阿武隈の本流及白水川の沿岸花崗岩中に湧出し、泉質は各泉多少の相違はあるが、概ね弱鹽類泉に屬し、溫度攝氏四九度、胃腸病、神經諸病などに効くと云ふ。海拔九〇〇米、閑靜な避暑溫泉場である。附近には所謂甲子の八十八瀑の勝あり、中に大熊の雄瀧、雌瀧、一里瀧などが有名である。溫泉場から登路一二粁で旭岳に登られる。この地一帶秋季紅葉の美は樂翁の「關の秋風」によつて夙に知られて居る。

白棚鐵道線

白河　磐城棚倉間　二三粁三—一四哩五

【棚倉町】（四圖さ4） 磐城棚倉驛の所在地。久慈川縱谷の谷頭に位し、木炭、木材、葉煙草、こんにやくの集散地。將來水郡線の經過する豫定地である。

【棚倉城址】 磐城棚倉驛の南約一粁、棚倉市街の西端にある。今は本丸址のみ保存されて公園となり、土壘濠竝に城門の礎石などが遺存して居る。城は寬永元年に丹羽長重の築いたもので、丹羽氏白河に轉封後は內藤、太田、松本、小笠原、井上、松平の諸大名を經て、慶應二年阿部氏が白河から移つたが、

明治維新と共に廢城となつた。

【都々古別神社】〔國幣中社〕（二圖さ5、四圖さ4）　磐城棚倉驛の西南約一粁、棚倉町馬場にある。町の北端にある參道を西へ進むと丘上に亭々たる杉森がある。石段を上つて鳥居をくゞり、更にまた石段を登り隨身門を入ると本殿及拜殿が神々しく玉垣に圍まれて立ち竝んで居る。本殿及拜殿は寛永二年丹羽長重の建築にかゝり、祭神は味耜高彦根命で、相殿に日本武尊を祀る。

寶物中主なるもの

一　金銅餝太刀（國寶）　二口

一　星兜の鉢　一箇　室町時代

一　大鎧殘缺　緋縅革小札　一括　鎌倉時代

毎年一回十月頃曝涼の序に三日乃至十日間陳列縦覽に供して居る。本殿の裏の丘上に建武五年の銘文のある供養碑がある。

【水口東山廢寺址】（四圖か4）　磐城棚倉驛の東南約二粁、近津村水口にある。堂宇の殘礎十七個遺存し、古瓦の破片が四邊に散亂して居る。礎石、古瓦の紋様などに徴すると平安初期以前に營まれた山寺の址と察せられる。

【都都古別神社】〔國幣中社〕　磐城棚倉驛の南約四粁近津村八槻にある。本殿　隨身門は丹塗、拜殿は白木造で、江戸時代の建築、祭神は味耜高彦根命で、日本武尊を配祀して居る。延喜式内都都古別神社である。毎年舊正月六日に御田植祭、また舊十一月朔から五日の間古例祭と稱する神事が行はれる。御田植祭には餅で作つた鍬を用ゐ、拜殿の前で種蒔から收穫までの所作をする。古例祭には籾を入れた苞を奉納する。

もとの別當を大善院と稱し、文明年中道興法親王が來泊せられたことがある。明治維新の際廢せられて、その寶物が當社に移された。その重なるものは

一　木製朱塗圓盆　福德二年の銘がある。

一　銅御供鉢　五箇

銘　敬白奉造立近津宮御鉢

聖趣後律師長榮敬白
奥䓁高野郡西鄕八槻近津宮
奉造立御鉢
大檀那沙彌道久
（略）
應永十八年大才辛卯十月十五日

一　十一面觀音　立像　木彫高七二糎（二尺四寸）　一軀
臺座に天福二年の墨書銘がある

一　金銅十一面觀音　坐像　一軀　室町時代

一　金銅觀音　立像　一軀　室町時代

一　古文書　永享年間の結城氏寄進狀をはじめ多數ある

白河を出て阿武隈川を渡り、川に沿うて下り、右窓に鹿島神社の森を見て川から離れ、河畔の耕地を右窓に眺めて久田野（四粁五 二哩八）を過ぎ、松樹の繁る丘陵の間を走つて泉崎（四粁五 二哩八）に出る、道すがら右窓には屹立せる烏峠の頂に稻荷神社の森が見える。これより臺地上の新開地の間を進む。遠く右方には老年期の阿武隈高原が横はつて左方の壯年期の險しい奥羽山脈と好對照を示して居るのが見られる。阿武隈川はこの兩者の間の幅廣き谷の中央を流れ、街道や鐵道はこれに沿うて居る。矢吹（六粁 三哩七）を過ぎると左窓に陸羽街道が線路に平行して通じ、赤松の竝木が長く續く間にある鏡石（五粁五 三哩四）を經、釋迦堂川を渡り、須賀川（六粁一 三哩八）に着く。

須賀川驛（一圖さ5）　福島縣岩瀨郡須賀川町
白河から二六粁五―一六哩五

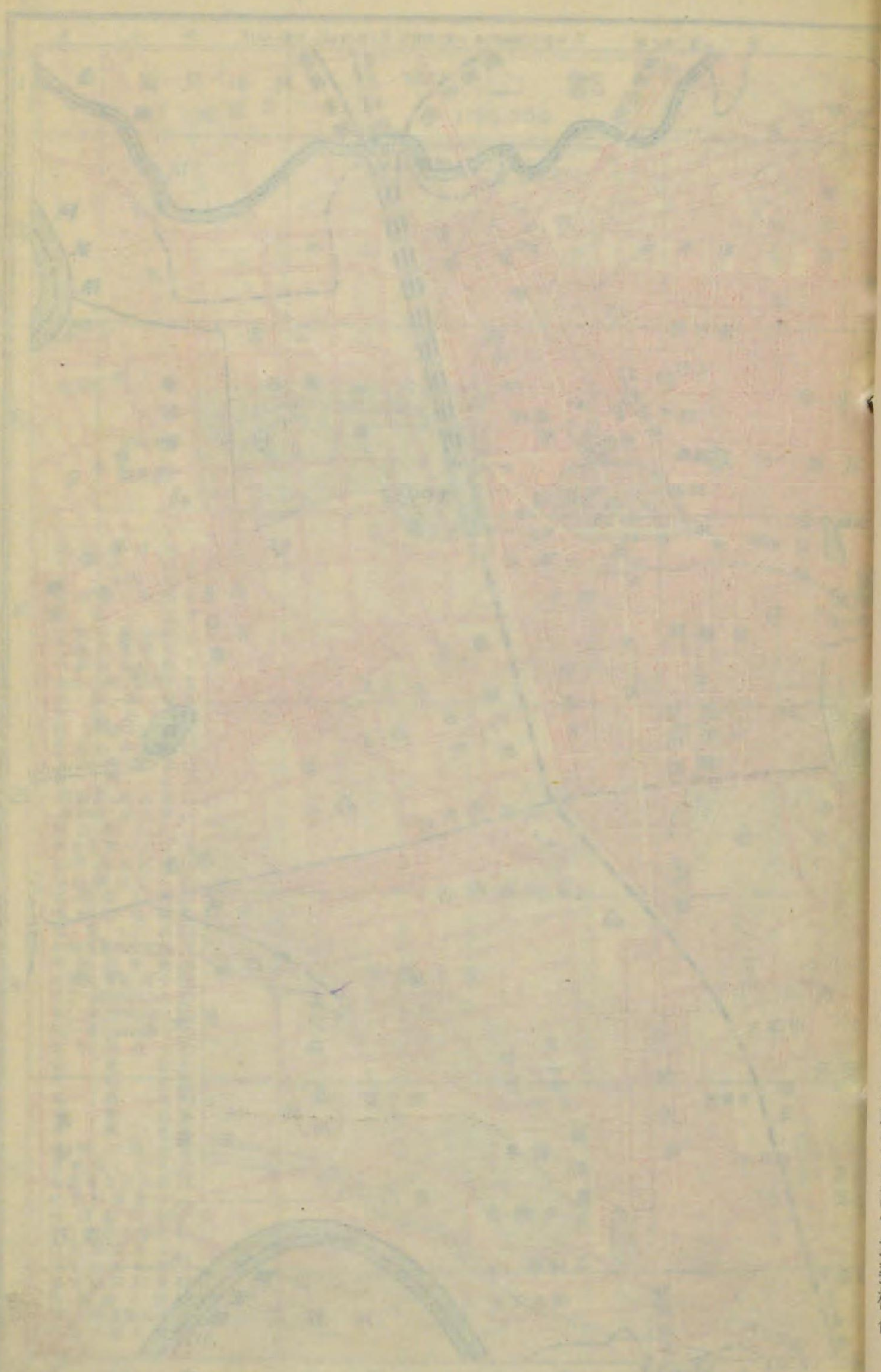
▽乘合自動車　石川行　田母神行　矢吹行　仁井田行　白方村行

▽旅館　八木屋　虎屋

【須賀川町】　臺地の上に發達した街道町で、人口約一萬七千、煙草、清酒、生絲の産地である。天正以前には二階堂氏この地を領して城を構へた。城の外濠と稱する遺址が今神炊館神社の境内に殘つて居る。戊辰の役には東軍の據つた處である。町の東方に愛宕山公園があり、頂上に應長元年の古碑がある。

【岩瀨森】　驛の東約半粁、古來歌の名所として知られて居る。森の中には鎌足神社がある。

道の奥の安積のことを人問はゞ　いかゞ岩瀨の森は答へん



【長祿寺】〔曹洞宗〕　驛の南約半粁、二階堂爲氏の創建、偕月窓の開基と傳へて居る。境内に二階堂氏の墓及亞歐堂田善の墓がある。田善は須賀川の人、松平定信に命ぜられて長崎に遊び西洋畫法と銅版術を學びてその名大いに著はれ、文政五年に歿した。

【牡丹園】（二圖さ5）　驛の東南四粁、古木が多く、二百年以上に及ぶ老株もある。見頃は五月二十日前後。

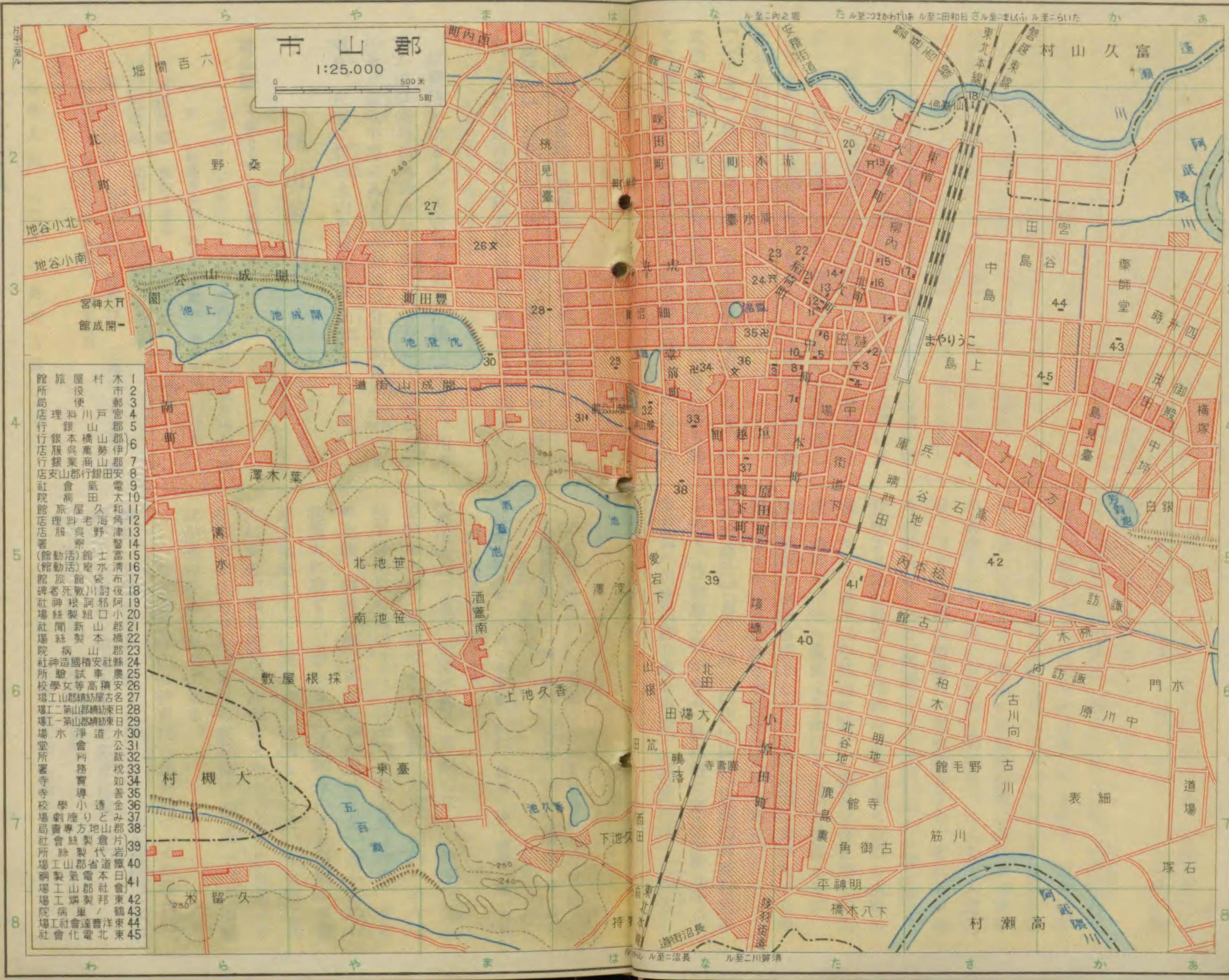
【岩屋大佛と横穴群】　驛の東南四粁、濱田村和田にあり、自動車の便がある、阿武隈川の北畔に連る丘陵の岩壁に多數の横穴古墳がある。後世更にこの岩壁や横穴を利用して、石窟を造り十二軀の佛像が半肉彫にされて居る。その最大なるものは高さ三米半、他は高さ約一米、何れも坐像である。面相などはかなり磨滅して居るが、鎌倉末期の作風を存し、この地方に於て稀に見る石窟佛である。

【乙字瀧】　驛の東南六粁、石川街道の瀧山にある。阿武隈の本流が角閃安山岩の岩脈に遮られて急に落ち越える處にあたる。南岸に近く乙字形に屈曲した部分が流勢最も烈しい。瀧の上流には發電所に河水を導くために河を横切つて築いた堰堤がある、それを河水が乘り越える處、更に瀧をなして居る。

【宇津峰城址（雲水峯）】　驛の東約一二粁、田母神行自動車で途中谷田川村鈴ヶ内下車、川を渡り、西南に向ひ小徑を約二粁進めば鳥居に至り、それより急坂を攀ぢて頂上に達する。頂上には周圍約五〇米に及ぶ方形の土壘を存し、内に石祠が三社ある。こゝを千人溜と呼ぶ。その附近に塹濠の一部が遺存する。それらが即ち城砦の址である。興國元年北畠顯信がこの城に據り、常陸より逃れ給ひし宇津峰宮を奉じ屢々賊軍の攻略に堪へたが、正平二年城遂に陷り、顯信は宮を奉じて出羽に逃れた。その後同七年再びこの城を回復したが、翌年賊軍の攻むる所となつてまた奥羽に去つた。この間前後十四年に亘れる吉野朝の史蹟である。

【桙衝神社】〔縣社〕　驛の西約一四粁、岩瀬郡桙衝村宮本にあり、自動車の便がある、社は俗に鹿島明神と呼ぶ。龜井山の山腹景勝の地を占め、延喜式内社で武甕槌命

市内ノ主ナル遊覽地ハ開成山公園



を祀る。西南隣に長樂寺と云ふ草葺の古寺がある。

【長沼町】須賀川町の西一六粁、蠶林業の一中心である、須賀川長沼間は國有鐵道豫定線になつて居る。

須賀川を出ると、右窓阿武隈川に接して走る。川の向ふには鈍角三角形をなす蓬田岳の左に宇津峰が仰がれる。安積平野に入り、水郡線の分岐點笹川（六粁六 四哩一）を過ぎ、左窓に磐梯火山を望み郡山（五粁 三哩一）に入る。

郡山附近

郡山驛（一圖さ5）福島縣郡山市

上野から二二四粁三ー一三九哩四　急行五時間普通約六時間、福島から四六粁ー二八哩六　普通一時二〇分間

▽磐越西線　郡山ー新津　一七四粁ー一〇八哩二

▽磐越東線　郡山ー平　八五粁六ー五三哩二

▽乗合自動車　麓山公園行　開成山行　三春行　本宮行　熱海高玉行　守山岩作行　河内行　多田野行

一日平均

乘車人員　二、三三三人　降車人員　二、三〇一人

發送貨物噸數　一三三噸　到着貨物噸數　三七一噸

主要發送貨物　米　鹽　綿絲　木材類　煙草　肥料類　繭　鐵及砂利　淸酒

到着貨物噸數　石炭　木材類　砂利　煙草　鹽　綿類　繭　大豆粕　鐵及鋼製品類　石材

【郡山市】（五圖）安積平野の東部に位し、陸羽街道の要點を占め、街道町として發達した處、明治の初年安積平野開墾の業成りて、農產物の集散地となり、更に東北線、磐越西線、同東線等の開通を見、商品需給の範圍大に廣まり、加ふるに安積疏水による發電の事業が工業地としての新生命を附與したので、今は商工業大に榮え、福島縣第一の都市となり、人口約四萬三千を算するに至つた、市內の繁華區は柳內で、大町通は商業の中心をなして居る。

この地は鎌倉時代に伊東氏の居た處で、その後伊達、蒲生、加藤の諸氏の領する所となり、寛永年間に二本松城主丹羽氏の領地となつて幕末に及んだ。

▽旅館　〔驛前〕木村屋　布袋館　〔市內〕太田屋　和久屋　旭館ホテル

▽料理店　宮戸川　角海老
▽娯樂場　富士館　淸水座　大正座　みどり座
▽官公廳その他　市役所（細沼町）　地方專賣局（堤下町）　農事試驗場（神明町）　商業會議所（堂前町）　公會堂（麓山町）
▽病院　太田病院（中町）　壽泉堂病院（饂田）　郡山病院（淸水臺）
▽銀行　郡山銀行（中町）　郡山商業銀行（本町）　郡山橋本銀行（大町）　安田銀行郡山支店（中町）
▽工場　東邦製燐工場（高南）　仙臺鐵道局工場（小原田町）　日東紡績工場（麓山町）　片倉製糸岩代製糸所（原田）　名古屋紡績郡山工場（長者町）　小口組製糸所（田中）　橋本製糸所（淸水臺）　地方專賣局（大堤）
▽土産物　安積豆（砂糖豆）　花いかだ（煎餅）　花かつみ（手巾）

【廻覽巡路】　驛―麓山公園―公會堂―開成山公園―安積神社―大町―北町―柳内―驛

【安積國造神社】〔縣社〕　驛の西方約半粁、市内稻荷町にあり、國造比止禰命を祀る。祠前に儒者安積艮齋誕生の碑及艮齋撰文の八幡社碑がある。尙境内に嘉元三年の銘ある阿彌陀三尊の石塔婆がある。

【如寶寺】〔新義眞言宗〕　驛の西約半粁、市内堂前にあり、開成山に至る縣道に面し、眺望のよい丘陵の上にある。本堂及觀音堂は共に明治年間の再建であるが、境内には多くの古碑が保存されて居る。

一　笠塔婆　正面大日如來坐像半肉彫、銘「右志者爲慈父也。願主慶造立、承元二年大才戊辰八月十一日」、背面梵字九會曼荼羅陰刻、

一　建治二年供養塔婆　梵字阿彌陀佛眞言、銘「建治二年丙子三月六日、夫以□□三世諸佛内證功德得道群類拔苦滑□禮離三惡□□仍當悲母三七日所立如件孝子敬白」

一　御釜堂の碑　三尊佛の安坐せる蓮華を持てる坐像及數軀の人物半肉彫、上半缺失。もと建保七年の銘が刻されて居た。

一　耶蘇教徒の墓碑　元祿七年の建碑で、名の上方に十字がある。

【麓山公園（共樂園址）】　驛の西約一粁、元二本松藩主遊樂の苑地であつた。

【開成山公園】（二圖さ5）驛の西三粁市内桑野町にあり、園内に上池、開成池があり、池堤に櫻樹が多く、花の名所として有名である。四月二十日前後が花盛りで、

その花時と秋季に盛大な競馬が行はれる、堤上からは安積平野を越えて西北に安達太良、磐梯の火山を望み、東方一帶には阿武隈高原を見る。池畔にある開成山大神宮〔縣社〕は明治九年安積郡大槻原野開拓事業完成の際奉祀した神社である。

【明治天皇行在所】　開成山公園上池の西方にあり、明治七年に竣工した洋風の三層樓で、開成館と稱せらる。明治九年及同十四年東北御巡幸の途次行在所となつた處で、御座所の間は今に舊態のまゝ保存せられて居る。

【夜討川戰死者伊藤重信墓碑】　驛の北約半粁、東北本線磐越西線分岐點にあり、俗に仙臺佛と呼ぶ。碑面に伊藤肥前傳贊墓碑と題し、碑背に仙臺藩主伊達綱村の文を刻す。元祿五年に立てたものである。伊藤重信は伊達政宗の臣で、天正十六年伊達氏が佐竹氏とこゝで戰つた時、奮鬪力戰して政宗を救ひ、遂に討死したのである。

【阿邪訶根神社曼陀羅塔婆】　驛の北約一粁、市内大重町にあり、種子曼陀羅を刻したもので、拜殿の前方にある。碑面の損傷は甚だしいが、塔婆の形式及曼陀羅などによりほゞ鎌倉時代のものと察せられる。碑の傍に俗に一町佛と云ふ石塔婆がある。阿彌陀三尊佛を半肉彫にして居る。

【圓壽寺の供養碑】　驛の南二粁半、市内小原田町にあり、俗に一町佛と云ふ。上部缺失、殘存部も縱に二斷されて居る。阿彌陀三尊佛の來迎圖と人家が半肉彫で現はされて居る。平安時代に流行した來迎佛の樣式を傳へて居るが鎌倉時代のものであらう。尙本堂には安積郡内から發掘された石器土器の類が陳列されて居る。外に大工町郡山裁縫女學校構内（今泉氏邸内）にも阿彌陀三尊來迎の圖を半肉彫にした供養碑がある。その時代は鎌倉末期であらう。

【富岡村阿彌陀三尊來迎佛供養碑】　驛の西南約一五粁、安積郡三和村里にあり、途中富岡まで乘合自動車の便がある。一本杉の下にある石造の小堂に安置された阿彌陀三尊來迎佛の半肉彫供養碑である。碑の緣に「文永二年八月□□第一番右志者爲過去悲母往生佛國也」の

銘がある。

【和泉荘司供養碑】笹川驛の西北約一粁半、安積郡永盛村荒井寶光寺境内にあり、銘によると藤原祐重が弘安六年考和泉荘司供養のために建てたものである。祐重の名は吾妻鏡に出て居る。

【本栖寺石塔婆】郡山驛の北約三粁、安積郡富久山村福原にあり、境内に古い石塔婆が二ある、一は本堂の南側、墓地の入口にあつて、半肉彫の結跏趺坐の佛像である、俗に「かさかさ佛」或は一町佛とも云ふ。他の一は本堂の前にある。阿彌陀三尊來迎佛が半肉彫にしてある、共に鎌倉末期のものである。

磐越東線

郡山 平間　八五粁六―五三哩二

東北本線の郡山から阿武隈高原を越えて、常磐線の平に通ずる。郡山から東北に向ひ、東北本線を左に見て、稻田、桑圃の間を過ぎ、阿武隈川を渡り、丘陵地に入り、舞木（五粁八 三哩六）を經て三春（六粁一 三哩八）に至る。

三春驛（一圖さ5）福島縣石城郡御木澤村

郡山から一一粁九―七哩四　平から七三粁九―四五哩九

▽乘合自動車　郡山行

▽旅館　川北　山中ホテル

▽土産物　子育駒（玩具）

【三春町】丘陵間の溪谷を占め、秋田の舊城下で、藺、煙草、馬の集散地である。舊藩時代に三春領内の山地に馬の飼育を奬勵した結果、足掻が輕快で性質の從順な騎乘用の良馬が多く出て、各藩から需要せられた。それで三春駒の名が世に高くなつた。但しその産地の中心は常葉町である。

【三春城址】驛の東南約三粁、市街の東部に屹立する丘上にあり、丘腹に設けられたる秋田氏の居館址には小學校の校舍が建ち、城址もまた運動場となつて居て舊規の徵すべきものが少い。室町時代に三春田村氏の築いたもので、寛永五年松下重綱がこの地に封を受けた際改築を加へ、正保二年秋田氏入部以來明治維新までその居城であつた。

【三春田村氏墓】驛の東南約一粁半、町内福聚寺本堂後方の山腹にあり、田村氏の祖田村莊司輝定及永正以來領主たりし義顯、隆顯、清顯の墓があり、輝定の墓は五輪塔の空輪のみで、義顯の墓は石像、隆顯、清顯の兩墓は角形の石柱、皆江戸時代の再建である。

【秋田氏廟】驛の東南約一粁、町内荒町高乾院境内にあり、廟は本堂の右山腹にある、秋田俊季以下累代の墓所で初三代は方形の墳丘、その他は石塔である、靈屋供養塔等を設く。

【瀧櫻】（二圖さ5）驛の南六粁、中郷村瀧にあり、紅枝垂櫻で四百年來の古木、幹の高さ約九米、根本の周圍約一〇米、指定の天然記念物である。

【舞木の石塔婆】舞木驛の東約半粁、鐵道線路の南側、丘陵の麓にある。碑面の上部に**アン**の種子を刻し、その下に「右志者爲過去慈父幽靈出離生死往生極樂也弘安七年（大才甲申）正月廿五日（孝子敬白）」の銘文がある。

三春を出て間もなく三春町の市街を眺め溪谷を辿つてトンネルを拔けると、船引の盆地に出で、右窓には美しい片曾根山（海拔七〇六米）を見、船引（一一粁二 七哩）に著く。これより大瀧根川を渡り磐城常葉（三粁七 二哩三）大越（四粁三 二哩七）を過ぎ、神俣の盆地に入り、左窓に瀧根の石灰石採石場を眺め、神俣（七粁七 四哩八）に着く。これより夏井川の支流に沿うて峽谷を下り、左窓に矢大臣山を望み、盆地のやゝ開けた處に出で、小野新町（六粁五 四哩一）に至る。

【常葉町】船引驛の東七粁、三春駒の市場として名高い、町に明治年間に於ける産馬の功勞者松本大平の碑がある。

【大瀧根山】山頂は海拔一、一九二米、阿武隈高原の最高地點である。神俣驛の東北六粁、山上は平坦で展望が廣く、登山路は三春駒放牧地の間に通じ、頂上に近く白つゝじの叢林がある。

【仙臺平のカルスト】神俣驛から東北四粁、丘上に十餘のドリーネを存し、鬼穴及瀧根不動洞の二石灰

洞がある。後者は昭和二年の發見にかゝり、洞内には數多の美麗なる鍾乳石、石筍、石幕があり、また瀑布、甌穴などもある。

【王子神社(堂山神社)】 大越驛の西約四粁半、七郷村門澤にあり、社殿は五間四面、單層、屋根四注造茅葺、内部は中央に仕切を設けて内外兩陣に分ち、内陣の奥に神殿を置く。構造樣式は唐樣に和樣を加味した簡單な架構であるが、木割が雄大で桃山時代の風格を存し、特別保護建造物に指定されて居る。社地は元門澤部落の北約半粁の處にあつたが、明治初年今の地にあつた堂山寺を廢して、堂宇をその儘社殿としたもので、また堂山神社とも云つて居る。

【東堂山觀音】 小野新町驛の西北五粁、馬匹繁殖に靈驗があるとて飼馬を牽いて參詣するものが多い。

【平伏沼】 小野新町驛東一六粁、川内にある。こゝに産する森青蛙は全國に珍らしいもので、六月中旬になると樹上で産卵する、その頃數多の卵嚢が樹枝から垂下して奇觀を呈する。

(小野新町、平間の記事は九九頁)

郡山を出て北に向ひ陸羽街道に沿つて進み、日和田 五粁六 三哩五 を經て左に安達太良山を望み五百川を渡り、本宮 八粁四 五哩二 に著く。

本宮驛(一圖さ5) 福島縣安達郡本宮町

郡山から一四粁一—八哩七　福島から三二粁—一九哩九

▽乘合自動車　熱海行　長屋(白岩村)行　三春行

【安積山】 日和田驛の北約一粁、安積郡山野井村日和田にあり、陸羽街道の東側に赤松のまばらに生えた一圓丘である、この丘を古來有名な安積山と傳へ、山腹に

あさか山影さへ見ゆる山の井の
あさき心をわれおもはなくに

と云ふ萬葉集の古歌を刻した歌碑が立つて居る。

【蛇の鼻牡丹園】 本宮驛の西方約二粁半。

【安達太㠔神社】(縣社) 本宮驛の東北約一粁、本宮町の北端にあり、甑神社とも云ふ。延喜式内安積郡の名神大社宇奈己呂和氣神社はこの神社ならんと云ふ。

【田中稻荷供養碑】 本宮驛の南約二粁、仁井田村田中稻荷社の境内にあり、阿彌陀の種子を現はした觀應二年の石塔婆である。また、仁井田村五百川遠藤氏の宅地内にも阿彌陀の種子を刻した石塔婆がある。その形狀雄大、碑面また甚だ美はしく「右志者爲合力諸人成佛乃至法界衆生平等利益也文和四年乙未八月十三日敬白」の銘文がある。

本宮から東北に進み丘陵の間を過ぎ鐵道線路に最も近づく安達太良山を左窓外に眺めつゝ二本松 九粁七 六哩 に著く。

二本松驛(一圖さ5) 福島縣安達郡二本松町

郡山から二三粁七—一四哩七　福島から二二粁四—一三哩九

▽乘合自動車　小濱行　針道行　二本柳行　下田行　百目木行　杉田行

【二本松町】 丹羽氏の舊城下で、丘陵を中央に挾んだ双子町をなし、人口約九千。

▽旅館　大和屋　小倉屋

【二本松神社】(縣社) 驛前から北方國道に出ると直に鳥居に達する。社殿は丘上の森林中にあり、文化二年の建築で、伊邪那美命と品陀和氣命を祀る。畠山、丹羽兩氏の崇敬を受け、江戸時代には二本松領の總鎭守であつた。

【二本松城址】 驛の西北約一粁、城山の麓に石垣が整然として遺つて居る。この城は寛永二十年丹羽光重の居城となり子孫相繼いで明治維新に至つた。城址に明治六年創業の製絲工場の址があり、その一隅には丹羽氏の庭園が殘つて居る。山の頂には畠山氏の居城の址がある。城址の東方に「戒石銘」と稱する巨岩がある。その面に「爾俸爾祿民膏民脂、下民易虐上天難欺、寛永己巳之年春三月」と刻してある。これは儒者岩井田希夷が訓誡として掲示したものと云ふ。

【安達原黑塚】 驛の東方約三粁、安達郡大平村にあり、自動車の便がある。阿武隈川の東岸路傍杉の大木の下に木柵をめぐらした丸塚があり、これが安達原黑塚として傳へられて居るもので、平兼盛が「みちのく

の安達が原の黒塚に鬼こもれりと云ふはまことか」と詠んだ歌によつて謠曲の安達原が脚色され、更に歌舞伎の安達原が作られて有名になつた。黒塚の東に觀世寺があり、境内白眞弓觀音堂の横手に巨岩の重なつて巖窟の如くなつた處がある。この窟は鬼女の住んだ所と傳へられて居る。

【嶽温泉】（三圖か5）驛の西八粁、安達郡嶽下村にあり、地は安達太良山の中腹海拔七九〇米、温泉は鐵山の麓から約八粁も引湯をして居るので冬は微温くなる。硫黄泉で皮膚病、リウマチス、婦人病によく、特に子供の育ちに特効があると云ふので、子供連れの浴客が多い。旅館は佐藤屋、同別館、安達屋、扇屋、水戸屋、外數軒、佐藤屋別館にのみ内湯がある。自炊制を主とする。

【安達太良山】海拔一、七〇〇米、沼尻山などとも稱せられ、二本松の西方に屹立する火山で、明治三十三年一大爆裂をなし、泥土岩片を飛ばし、熱灰を噴出したが、今尙その餘勢止まず火口には熱水を湛へ硫煙高く噴騰して居る。頂上には徑五〇〇米の舊火口を存し、その底に沼平と稱する部分あり。新爆裂火口はその中に存し長徑三〇〇米に及ぶ。

登山は東は嶽温泉、西は沼尻温泉よりするのが便利である。

嶽温泉から西北に向ひ湯道に沿ひ、檜や落葉松の植林の緩かな登りを約五粁行くとやゝ大きな谷に入る。その急斜面を登りきると廣々とした芝生と落葉松の植林に出る。そこを登ること約二粁で燒石の地帶となる、更に一粁ばかりで頂上に達する。頂は尖峰をなした狹い處である。

この登路は概して平易で婦女子でも登山することが出來る。嶽温泉から頂上まで八粁餘凡そ四時間かゝる。

山頂よりは北方に近く吾妻富士、一切經、東吾妻などの群峰を見、遙かに西北に飯豊山を望む。東は阿武隈川の平野が脚下に瞰下され、東北には藏王山が雲表にその雄姿を現はして居る。西には磐梯山が間近に迫り、その麓に檜原、小野川、秋元の諸湖が小山の間に隱見し、遠く越後山脈の山々が霞の中に浮んで居る。

スキー地としての安達太良山は冬季積雪多く西麓沼尻温泉附近は全國有數の好スキー場なればこの方面よりスキー登山者漸く多く、船明神岳を經て登山し頂上から嶽温泉へ滑降する。嶽温泉側は沼尻側に比し積雪はやゝ少いが、スロープは長大な緩傾斜で痛快な滑降が味へる。また逆に嶽温泉から登山し尾根を迂廻して北に向ひ白絲瀧から一直線に沼尻温泉へ降り、或は直接中ノ澤方面へ滑降するも興味の多き冬旅である。

二本松を出ると間もなく阿武隈川に近づき、安達原黒塚を右窓に見る。やがて川に遠ざかり、鐵道は尙北進し安達（四粁二 二哩六）を經て松川を渡り松川（五粁 三哩一）に着く。

松川驛（一圖さ5）福島縣信夫郡松川村

郡山から三二粁八―二〇哩四　福島から一三粁二―八哩二

▽川俣線　松川―岩代川俣　一二粁二―七哩六

▽乘合自動車　福島行

川俣線

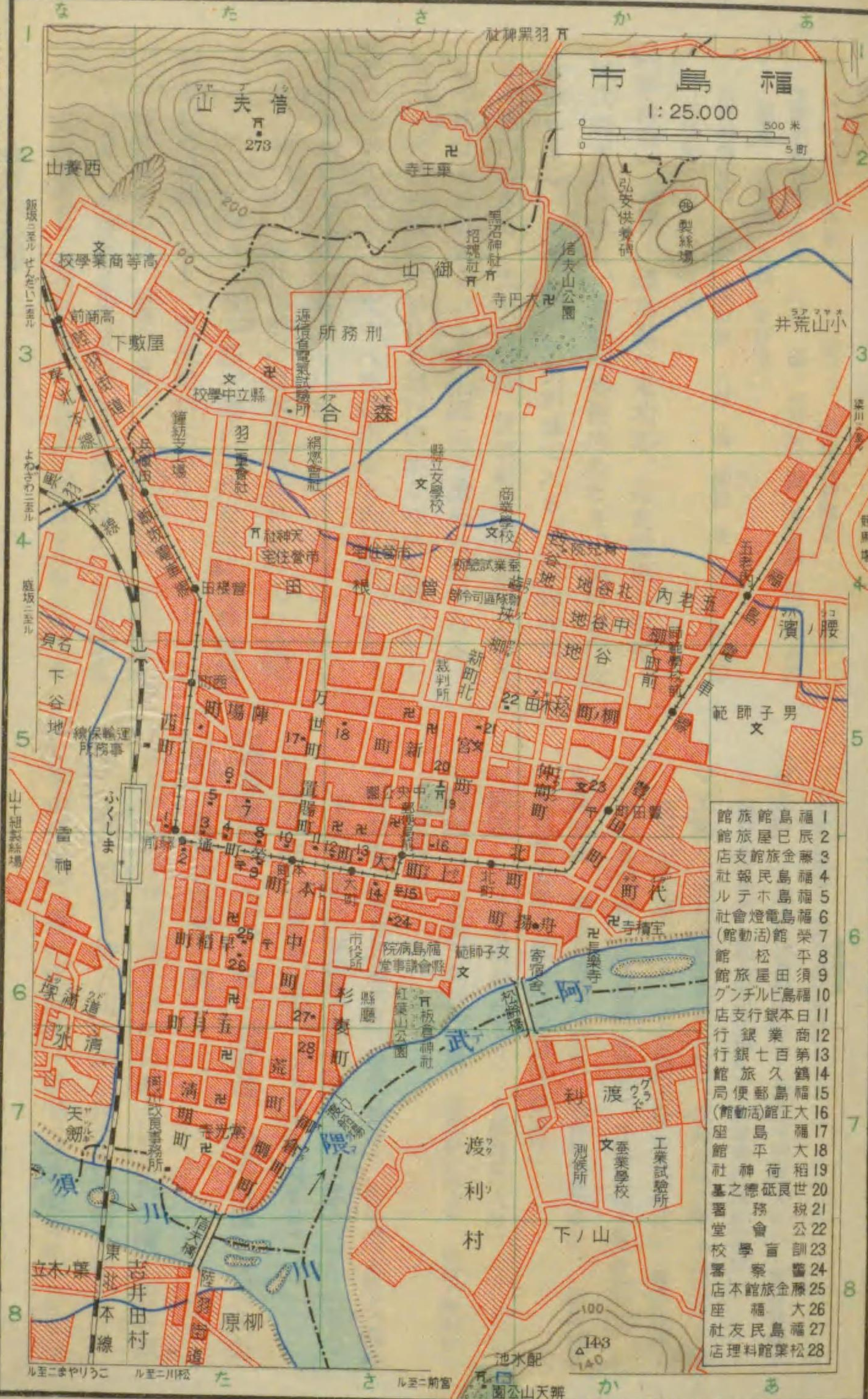
松川　岩代川俣間　一二粁二―七哩六

松川から東に進み深い峽谷を作る阿武隈川を渡り、飯野（六粁三 三哩九）を經て岩代川俣（六粁 三哩七）に著く。この線は將來東に延びて常磐線の浪江に連絡する豫定。

【川俣町】岩代川俣驛から東方一粁、自動車の便がある。町は廣瀨川の谷頭に位し、人口約八千、輸出羽二重の著名な產地で、別に羽二重、節絹をも產する。絹布整練會社、輸出絹織物檢査所があり、絹織物の年產價額約五百五十五萬圓に及ぶ。旅館、岩城屋、川俣ホテル。

【仙海碑】岩代川俣驛の東北一粁半、川俣町市街の東北端、石柵に圍まれた馬頭觀音の碑石の傍にあり、「建武元甲戌十一五日仙海」の銘文がある。仙海は北畠顯家の軍に從つて奮戰した修驗僧であると云ふ。同じ柵内にまた阿彌陀の種子を刻した嘉曆二年の石塔婆がある。

松川から丘陵を下り金谷川（四粁三 二哩七）を過ぎ福島盆地に下り、左窓に吾妻山の火山群を見つゝ稻田の間を北走



市内第一ノ遊覽地ハ信夫山公園

して福島$^{八粁八}_{五哩五}$に着く。松川福島間の上り列車には補助機關車を附する。

金谷川驛（一圖さ5）　福島縣信夫郡金谷川村
郡山から三七粁二—二三哩一

【伊達稙宗墓】　驛の西北約四粁、平田村小倉陽林寺の境内にある。稙宗は大森城初代の城主で永祿八年に歿した。また本堂の裏に稙宗の子實元の碑がある。

【土湯(つちゆ)溫泉】（三圖か5）　驛の西一二粁、自動車の便がある、福島からは西南一八粁、途中地藏原(じぞうはら)まで自動車が通ずる。それから三粁半徒歩。こゝは吾妻火山南麓海拔四五〇米に位し、吾妻(あづま)、鬼面(きめん)の峻嶺の迫る高地で、荒川の溪流に臨み、附近には男沼(おぬま)、女沼(めぬま)、思(おもい)ノ瀧などがあり、栂(とが)ノ森に登れば福島盆地一帶が眼下に展開され、吾妻富士、一切經山から藏王(ざおう)火山群が指點され、眺望雄大である。溫泉は凝灰岩中に湧出して居る。泉質、上の湯、川上溫泉は單純泉、中の湯、不動の湯は鹽類泉、下の湯は炭酸泉で、ラヂウムを含有する。上の湯はリウマチス、創傷、中の湯、不動の湯は中風、婦人病、下の湯は神經諸病、川上溫泉は神經諸病、胎毒から生ずる瘡に効くと云ふ。旅館　木村屋、富士屋、蔦(つた)屋、井桁(いげた)屋、扇屋、山根屋、いずみ屋、錦瀧(きんたき)、外數軒、赤瀧は別區をなし、やゝ離れて不動の湯、川上溫泉がある。凡べて自炊制を主とする。

福島驛（一圖さ5）　福島縣福島市
上野から二七〇粁—一六八哩　急行六時間　普通七時間半
仙臺から七九粁二—四九哩二　三時間弱

▽奧羽本線　福島—山形—秋田—青森間　四八六粁四—三〇二哩三

▽電車　福島電車〔東線〕　福島驛前—飯坂
〔西線〕　福島驛前—長岡(伊達驛行接續)—飯坂(湯野)福島驛前—長岡—保原(ほばら)(掛田行接續)—梁川(やながわ)

▽乘合自動車　飯坂溫泉行　湯野原溫泉行　梁川行　松川行　土湯(つちゆ)行(地藏原(じぞうはら)まで)　高湯行(姥(うば)堂まで)

▽旅館　〔驛前〕　辰巳屋　藤金支店　福島館　平松館
〔市内〕　福島ホテル　藤金本店

一日平均
乘車人員　二、四三〇人　降車人員　二、四〇八人

發送貨物噸數　三三噸　到着貨物噸數　三四噸

主要發送貨物　砂利　石材　繭　木材類　鹽　藥品類　硝子類及其製品　果物類　生絲　生野菜

主要到着貨物　石炭　木材類　石材　繭　砂利　米　木炭　大豆粕　砂糖類　セメント類

【福島市】（六圖）福島縣の東北部、福島盆地の中部、阿武隈河岸に位し、交通の要衝にあたり、福島縣行政金融の中心。生絲、繭の取引が盛である。人口約四萬四千、市内の本町、大町、榮町、置賜町は商店街である。この地はもと信夫（しのぶ）といひ信夫國造の治めた處である。治承、文治の頃には杉目太郎（すぎのめ）行信がこの地を領したと傳へられて居る、天文十八年會津蒲生氏の領となり、木村重次が大森城からこゝに移り、その後福島と呼ぶやうになつた。慶長年間には本莊繁長が上杉氏の城代としてこゝに居り、後本多、堀内二氏を經て元祿以後板倉氏の城地となり、明治維新に至る。

▽官公廳その他　縣廳（杉妻町）　市役所（同上）　商業會議所（榮町）　聯隊區司令部（腰濱）　地方裁判所（同上）　工業試驗場（市外渡利村）　測候所（同上）　高等商業學校（市外淸水村）　公會堂（腰濱）　圖書館（榮町）

▽銀行　日本銀行支店（本町）　第百七銀行（大町）　福島縣農工銀行（置賜町）　福島銀行（西町）　安田銀行支店（本町）

▽工場　共同生絲荷造所（大町）　福島生絲工場（小山荒井）　福島羽二重工場（森合）　日本紡績工場（市外杉妻村）　鐘淵紡績工場（下釜）　山十組製絲場（太田町）　日本絹撚工場（森合）

▽新聞社　福島新聞社（杉妻町）　福島民報社（榮町）　福島每日新聞社（大町）　福島民友新聞社（杉妻町）

▽病院　公立福島病院（杉妻町）　大原病院（大町）

▽料理店　松葉館（紅葉山公園）　偕樂軒（同上）　中常（仲間町）　三松（宮町）

▽娯樂場　福島座（萬世町）　榮館（榮町）　大正館（上野）　福島劇場（置場町）　新開座（宮町）　大福座（早稻町）

▽土產物　果物（梨、櫻桃）　信夫文字摺（絹手巾）

【廻覽巡路】（一）驛―榮町通―中央公園―信夫（しのぶ）山公園―紅葉山公園―驛。

（二）驛―榮町通―中央公園―信夫山公園―岩谷觀音―文字摺石（もじずりいし）―辨天山公園―紅葉山公園―驛。

【紅葉（もみじ）山公園】驛の東南約一粁半、阿武隈河畔にあり、

福島城址の一部で藩祖を祀れる縣社板倉神社がある。
倘板倉家の墓地は清明町の常光寺にある。

【信夫山】驛の北約一粁半、市の北方に屹立し、海拔二七三米、石英粗面岩より成る。驛前から福島電車で約二十分間、岩谷觀音前で下車、西方に進めば直ちに山の東麓に達する。こゝに岩谷觀音があり、江戸時代に彫刻された三十三觀音その他の磨崖佛がある。こゝから山麓に沿うて約一粁西に進み、信夫山公園に登ると、北隅に延喜式內の黑沼神社及招魂社がある。園內からは福島市街を一眸の中に收め、吾妻の火山、阿武隈の流を望んで風景がよい。これより更に北へ登ると寺山の東面に藥王寺があり、その東北谷山の絕頂に羽黑神社がある。この社は信夫伊達二郡の總社と稱され、今尙多くの參拜者がある。谷山の東南山腹の糟魂の叢中に鎌倉時代の供養碑がある。

【辨天山公園】驛の東南二粁半、阿武隈川の岸にあつて信夫山と相對し、展望が廣い。園內には櫻樹が多く、また市の上水道貯水池がある。

【競馬場】驛の東北約三粁、五月と九月には盛大な競馬が行はれる。

【黑岩虛空藏】驛の東南約四粁、杉妻村にあり、阿武隈川畔の斷崖に臨み景趣に富んで居る。八月二十日の緣日が賑ふ。

【文字摺石】驛の東北約六粁、岡山村山口にあり、福島電車岩谷觀音前の東方約二粁半、小丘の麓を一段低く切り下げた所に大なる花崗岩があり、周圍に柵が廻らしてある。これが古來有名な文字摺石である。こゝから丘を登ると觀音堂の前に源　融（河原左大臣）の詠んだ

みちのくのしのぶもぢずり誰故に
　亂れそめにしわれならなくに

の歌碑が建つて居る。源融は貞觀六年中納言に拜し陸奧出羽按察使を兼ねた人である。文字摺石はこの歌によつて名高くなつた。また丘の上には多寶塔が建つて居る。

【安洞院裏古墳群】文字摺觀音堂の北一粁、岡山村寺前安洞院の裏山にあり、そのうちは石室が露はれて居るのもある。

【陽泉寺】（曹洞宗）驛の西約七粁、鳥川村寺東日吉神社の東南にあり、堂內に應安の銘ある木彫の釋迦坐像が安置されて居る。寺後の墓地に三基の供養碑がある。何れも大形で殊に一基は委態の流麗な三尊來迎佛を薄肉彫で現はし、兩側に「右志者爲悲母也平氏女敬白、正嘉二年大歲戊午九月十八日」の銘がある。一基は石面に地藏を薄肉彫にしたもので、他の一基には乾元元年五月十七日の銘がある。

【大森城址】驛の西南四粁、大森村城山にあり、この城は天文年間伊達稙宗が築いたもので、後蒲生氏の臣木村重次が福島に移る前その居城であつた。今公園となり大森城址の碑が立つて居る。この山の東麓椿館に正嘉二年の供養碑、東麓の北館に文永十年の供養碑がある。また城山の北方にある墓地にも鎌倉時代の供養碑が三基ある。更に城山の西南に廻り、平田村大字山田字城裏口に出ると一小丘の麓に西面して文永八年の銘文ある立派な供養碑がある。

【飯坂、湯野溫泉】（三圖か5）福島驛北二粁、伊達驛から西三粁半、共に電車、自動車を通ずる。飯坂と湯野は摺上川の清流を隔て、浴樓軒を列ねて相對し、一の溫泉鄉を成して居る。飯坂には鯖湖湯、透達湯を中心とする湯澤と、十綱橋畔の波來湯筋、瀧野湯筋、赤川筋と別に郊外に天王寺溫泉があり、湯野は十綱橋畔一帶の外に摺上川の上流約二粁に穴原溫泉の一區がある。

溫泉は大納言師氏の歌に

世と共になげかしき身をみちのくの
　さばこの御湯といはせてしがな

と詠んで居るのを見ると、九百年前既に歌枕の一つとされて居たものである。この溫泉鄉の一特色は瀧野湯筋及湯野の旅館が摺上川の川岸から上へ上へと寸地を求めて建て列ねられて居ることで、清流に影を映じて一の畫景を形成して居る。これを對岸から望むと皆四層、五層の高樓であるが、前から見れば普通の平屋または二階建となつて居る。それで內部の構造も四階か

ら三階、三階から二階へと下りるやうに出來て居る。

この飯坂、湯野を通ずる十綱橋は今は昔の釣橋の面影はなくなつたが、夏の夕の情景は京の四條橋附近の雜沓に似て居る。

穴原と天王寺は川を挾んで相對し、小倉山の翠を負うて風光美しく、夏季こゝに涼を求めるものが少くない。こゝから上流六粁ばかり、白兎、瀧野のあたりは摺上川の風光特に勝色を呈して居る。温泉は多く鹽類泉に屬し、中には硫黃泉、單純泉もある、胃腸病、皮膚病、婦人病などに効くと云ふ。

旅館は飯坂、湯野を合せて現在五十餘軒あり、その主なるものは（瀧野湯筋）花水館、角屋、枡屋、（赤川筋）泉州閣、金瀧、赤川屋、飯坂ホテル、（湯野）龜屋、稻荷屋、佐藤屋、湯野屋、泉屋、橋本屋、新松葉屋、（穴原）、泉屋、古川屋、（天王寺）おきなや、立花屋、（湯澤）中村屋、油屋、堀江屋、（波來湯筋）田丸屋、花屋、蔦屋、平野屋。

【天王寺供養碑】十綱橋の北方約一粁半、天王寺温泉附近にあり、寺の境內藥師堂の後に鎌倉時代の供養碑が三基ある。寺の裏山から嘗て承安元年の銘文ある銅製經筒が發見せされ、それと共に發掘された甕が三個遺つて居る。

【大鳥城址】十綱橋の西方約一粁半、館山にあり、今鷗公園となれる丸山々上の平地で、信夫莊司佐藤基治の築いた大鳥城の址と傳へて居る。附近からは古瓦の殘片が發見される。

【醫王寺】〔新義眞言宗〕福島電車西線醫王寺前停留場の西方約半粁、平野村鯖野にあり、佐藤氏の菩提所で境內藥師堂後方に佐藤基治夫妻及同繼信、忠信の墓と傳ふるものがある。またその附近に正和二年の供養碑が二基ある。基治は藤原秀衡に從ひこの地方を領し信夫の莊司と稱した。繼信、忠信は基治の子、共に源義經に仕へた勇士である。

寶物　紺紙金泥寫經殘簡（平安時代）飛雀菊花紋鏡（鎌倉時代）笈（室町時代）古瓦（大鳥城址發見）

【西根神社】十綱橋の東約半粁、湯野村にあり、明治十八年の創建で、古河重吉を祀る。重吉は元和、寬永の頃、信夫、安達二郡の代官で當時摺上川の水を引いて下堰と上堰との開鑿を計り、元和四年に工を起し、寬永二年に完成した。爾來今に至つて上堰は桑折方面、下堰は瀨ノ上方面の耕地に灌漑の便を與へて居る。寬永二年及正德三年にその德を頌して穴原に碑を建てた。それらの碑は今、西根神社の境內に移されて居る。

【源朝定母供養碑】瀨ノ上驛の東北約一粁、餘目村屋敷畑にあり、上部に阿彌陀佛の種子を刻し、その下に

右奉爲過去先妣聖靈、遄捨五障苦域之身、速届九品淨刹之土乃至六趣有情、□衆生含識、離苦得脫、□圓種智而已、于時弘安元曆戊寅夷則上旬之候、寫永代□□□誌之、左衞門尉源朝定敬白

とある。今、俗にこの碑を緣切石と呼ぶ。

【金秀寺笠塔婆】伊達驛の東約一粁、長岡村廣前寺の入口、鐘樓の傍にある。七角の柱形で上部に笠形の屋根があり、柱の上部各面に薄肉彫の佛像が一體宛ある。正面には寬正甲申四月八日の年號が刻まれて居る。

【梁川城址】伊達郡梁川町鶴ケ岡にあり、福島及伊達から電車及自動車の便がある。今、梁川小學校のある所を本丸址と傳へ、その周圍には斷續的に塹濠が幾重にも廻らされた跡が殘りその規模の壯大であつたことが察せられる。文治五年伊達朝宗の築く所と傳へられ、世々伊達氏の居城であつたが、後慶長三年以來上杉氏の臣須田氏が居り、寬文四年須田氏の米澤へ移つた後は廢城となつた。

【靈山神社】〔別格官幣社〕（二圖さ5、七圖な2）伊達郡靈山村大石にあり、福島から電車で掛田に至り（この間二〇粁）更に徒歩東北五粁、または電車で梁川に至り（この間二一粁）、更に徒歩東南六粁で到達する。途中鳥居に二個の礎石があり、靈山の山上にあつた日枝神社の二の鳥居址と傳へられて居る。更に倉波の靈山寺門前に元德三年の銘ある供養碑があり、寺の東南一粁の日枝神社境內に廣瀨典撰文の靈山碑がある。それより更に東南一粁を進めば靈山神社に達する。神社は靈山城の支城と傳へらるゝ古屋館の山上にあり、明治十四年の創建で北畠親房、同顯家、同顯信及同守親を祀る。

寶庫には明治十二年附近の鈴子館から發掘した鎌倉時代の青銅製經筒及短刀數本、同村内廣畑から發掘した石器などがある。

【靈山】（七圖） 阿武隈高原の北部に位し、片麻岩より成り、玄武岩質の火山集塊岩がその頂上を掩ひ、甚だしく風化浸蝕を受けて所謂奇岩怪石を戴いて居る。海拔八二〇米、貞觀年中慈覺大師がこの山を開いて靈山寺を建立したと傳へて居る。建武中興の際、北畠顯家は陸奥守に任ぜられ、義良親王を奉じて多賀の國府に下向して奥羽の鎭撫にあたつたが、足利尊氏の叛くに及び、凶徒蜂起して國府に止まること能はず、延元二年伊達行朝竝に靈山寺の僧徒を賴んでこの山に移り居館を構へて居た。

登山には福島から電車で掛田または梁川に至り、それより靈山神社を經由するものを表參道とする。掛田から神社まで約五粁、梁川から神社まで約六粁、また見入石からも登る。東方相馬郡方面からは中村町より中村街道により東玉野に至り、玉野を經て登る。靈山神社から表參道を南へ下り祓川の溪谷に沿ひ登ると約六粁で靈山の山頂に達する。途中、左右に田中坊、小坂坊、瀧本坊、竹ノ坊などの遺址と傳ふる所を見、一ノ鳥居址に達すると礎石が六個殘つて居る。山上には昔、靈山寺建立の時勸請された日枝神社の遺址があり、こゝに日枝の小祠がある。背後に三上參次博士撰文の靈山銅碑が立つて居る。その小祠より更に東へ進むと靈山寺の址と推測せられて居る所があり、多くの礎石が遺つて居る。また小祠から南方に進めば國司館址と傳ふる遺址がある。こゝに靈山城の碑があり、「顯家公本丸跡」と題する標柱が建つて居る。

福島　仙臺間

福島を出て、左に分れる奥羽本線を見送り、信夫山の麓を過ぎ、松川を渡り、瀨の上（六粁一　三哩八）に至る。このあたりから右窓に遠く頂の平らな阿武隈高原が眺められる。更に摺上川を渡れば伊達（三粁一　一哩九）に着く。電車はこゝから湯野飯坂溫泉その他に通ずる。史上に名高い靈山はこの驛を出てから、福島盆地を隔てゝ右方に眺められる。阿武隈高原の次第に右の方に高まつて行つて、最も高くなつた處がそれで、その右は斷崖をなして居るので認め易い。桑畑の間を過ぎて、桑折（四粁二　二哩六）に着く。

桑折驛（一圖さ5） 福島縣伊達郡半田村
福島から一三粁四―八哩三

【桑折鑛泉】 驛附近、旅館 金茂。

【無能寺】〔淨土宗〕 驛の南約半粁、桑折町上町にあり、慶長年間艮然の開基である。山門を入ると御蔭廼松と稱し大傘を開いたやうな名木がある。本堂裏に無能上人の墓がある。上人は石川郡須釜村の人で、淨土宗の名僧である。享保四年に歿した。

【赤館址（西山城址）】 驛の西約一粁、高館山の頂上に本丸址、西丸址と稱する平坦なる處があり、赤館址と傳へて居る。伊達氏の遠祖朝宗入道念西の創建にかゝり、後伊達行朝の據つた處である。

【伊達朝宗墓】 驛の西南約二粁、睦合村下萬正寺にあり、五輪塔で地輪に滿勝寺殿淨光念西大居士、文政四年辛巳十月造立とある。その後方に朝宗のもとの墓と傳ふる小塚がある。朝宗は始め中村常陸介と稱し文治五年源賴朝奥州征伐の時軍功ありて伊達郡を賜はり、それより伊達氏を稱した。

【半田鑛山】 驛の北方約二粁。石英粗面岩、凝灰岩などの間に存する裂罅充塡鑛床で金銀を産する。この鑛山は江戸時代の初期に隆盛を極め、當時佐渡、生野と共にわが國の三大鑛山と稱せられた。明治年間よりは五代氏が經營して居る。

桑折を出て左窓に半圓形の窪みを示せる半田山を仰ぎつゝ東北に進む。このあたりは櫻桃の栽培が盛んで

・六月の頃その實の熟して居るのが美しく眺められる。その中心は藤田 三粁二 二哩 である。

藤田驛（一圖さ5）　福島縣伊達郡藤田町
福島から一六粁六—一〇哩三

【半澤果樹園】　驛の東方四粁、大木戸にある。明治三十年頃に始めたもので、このあたりの櫻桃栽培の起源をなすものである。

【偖智瑄亡親供養碑】　驛の東北約二粁、藤田町石母田龍雲寺境内本堂の西側にあり、柱形の碑で、碑面の上部に種子があり、その下に元偖寧一山筆の銘文がある。

竊以妙體本無相、假相以度生、眞理亦絕言、憑言以顯道、繇茲先佛後佛出興無息、牛滿權實鑑機揆時、世尊昔起道樹、乍首鹿苑路逢于二商王說法度彼、緈摺伽棃安地上、一卓金錫覆鉢盂、乃象妙體留爲益未來、今此塔婆以是爲規本、見之者永離苦趣、造之者必生樂邦、與當于尊親一百諱辰、譖於鐫鑿建造志願、必冀感通以靡忒、妄盡以證眞、嵓德治三年十一月廿日、智瑄謹誌、一山一寧書

【阿津加志山（厚樫山）】　驛の東北約三粁、山腹から南方國見部落方面へかけて二重濠の跡あり、深さ約四米、幅約六米の二つの濠が竝行して居る。これは文治五年藤原國衙が源頼朝の軍を防がんために築いたものである。頼朝の将畠山重忠、和田義盛などが奮戦してこれを破り、國衙は敗走して後殺された。

驛を出ると間もなく勾配が高まり、厚樫山腹を廻る間、右窓に福島盆地を見下し、車窓展望美を發揮する。漸く大木戸の山峡に入つて峠路を切下げた鞍部を乗り越して宮城縣に入り、漸く下つて越河 九粁五 五哩九 を經、右に馬牛沼、齋川の部落を見て、耕地の間を過ぎ白石 八粁二 五哩一 に着く。

白石驛（一圖さ4）　宮城縣刈田郡白石町
福島から三四粁三—二一哩三　仙臺から四四粁九—二七哩九

▽乘合自動車　鎌先温泉行　小原温泉行　遠刈田温泉行
齋川行　七ケ宿行

▽旅館　岡崎ホテル

【白石町】　阿武隈川の支流、白石川に臨む。もと片倉氏の城下であつた。養蠶業の一中心をなし、饂麵の特産がある。

【白石城址】　白石町市街の西端、驛の西約一粁、白石川の南岸に近く孤立した小丘にある。本丸址、門址その他土壘などを殘存するのみで、各城壁に石垣を用ゐないのが特徵である。もと白石氏の據つた處と傳へ、慶長七年伊達氏の臣片倉景綱がこの城を賜つて以來子孫相繼いで明治維新に及んだ。明治戊辰役には奧羽越二十三藩の諸藩士こゝに會合して官軍の來攻を拒ぐべき盟約を結んだ。城地は今益岡公園となつて居る。

【大鷹澤の球狀閃綠岩產地】　驛の東南約五粁、大鷹澤村大町にある。球狀綠閃岩は綠閃岩の一種で、灰白色の粗粒より成る閃綠岩構造の間に斜長石、角閃石の共心竝に放射構造を呈する球狀の部分が處々に斑點をなし、その各球狀部の大さ徑五糎乃至八糎に及ぶ。風化したものは岩面に菊花の如き模樣を呈する。この地方では菊面石と稱し、神體として祀つて居るものがある。全國稀有の岩石で指定の天然記念物である。

【小原溫泉】（三圖か5）　驛の西南約八粁半、自動車の便あり、白石川の淸流に臨み、景色がよい。鹽類泉で、神經諸病、婦人病、特に眼病に効くと云ふ。旅館は新湯に枕流閣、古湯に桂屋、泉屋、近年上の湯及鎌倉溫泉場が新に開かれた。

【材木岩】　小原溫泉の西八粁、白石川の岸にあり、自動車の便がある。岩石は青黝色で石英の斑晶の著しい石英粗面岩である、それが三角乃至六角、長さ二米餘の見事な柱狀節理を呈し、高くそゝり立ち、延長三,〇〇〇米の間の河岸を形成して居る。材木岩と河流を隔てゝ相對する岸に虎岩と稱する奇岩がある、これは粒狀安山岩の風化作用のため變朽したもので岩面に褐黝色の斑紋があり虎の皮に似て居る。この岩の扁桃狀の空隙に白色の沸石及石英が晶簇をなして居る。沸石は輝沸石であることが多く、小原の泡沸石として鑛物學者の間に知られて居るものはこれである。この附近はまた紫水晶の產地として名高く、角礫岩質の石英粗面岩が多少風化されて黃褐色になつたものゝ空隙中に赭土と相伴つて紫水晶が發見される。

【鎌先溫泉】（三圖か4）　驛の西約八粁、自動車の便あり、翠巒四周、閑寂の一境である。弱鹽類泉で、腺病、神經痛、リウマチス、特に創傷に効驗ありと云ふ。旅館は一條、木村屋、最上屋、鈴木屋、自炊制もある。

【苅田嶺神社】(鄕社) 刈田郡宮村にあり、驛の北七粁大河原驛の西九粁、共に自動車の便がある。嶺ノ神社とも稱し、また白鳥明神とも呼ぶ、社殿は江戸時代の造營である。もと西北なる刈田岳に鎭座して居たが後現地に移されたと傳へ、延喜式名神大社であつた。伊達氏が屢々社殿の造營にあたり稙宗を始め晴宗、輝宗、政宗などの棟札を存し、殊に政宗の棟札は黑漆地朱漆書である。

白石を後にして白石川に沿うて下ると、河中の磧に「小野訓導殉職處」と題する碑が見える。河畔のトンネルを過ぎ北白川八粁五五哩三を經て大河原四粁七二哩九に至る。

大河原驛(一圖さ4) 宮城縣柴田郡大河原町
福島から四七粁五—二九哩五　仙臺から三一粁七—一九哩七

▽仙南溫泉軌道線　大河原遠刈田間　二六粁七—一六哩六

▽乘合自動車　遠刈田　靑根行　船岡行　角田行

【大高山神社】(鄕社) 驛の西方約四粁、金ケ瀨村平、大山にあり、自動車の便がある。白鳥大明神或は大鷹大明神と稱し、日本武尊及橘豐日尊を祀る。古來この地方には白鵠を崇拝すること深く今尙白鵠を描いた繪馬がかゝつて居る。

寶物　靑銅鰐口

銘　奉懸大鷹宮御寶前鰐口一口
右志趣者天長地久御願圓滿殊當社
地頭沙彌禪意御芳緣御子息增長
福壽御息災延命故也
正應六年癸巳三月五日勸進法橋玄應

【遠刈田溫泉】(三圖か4) 大河原驛の西北二一粁、白石驛の北二〇粁、共に自動車の便がある。大河原驛からは別に仙南溫泉軌道の便もある。溫泉は藏王山の東麓に位し東南に靑麻山を望む。泉質は鹽類泉及炭酸泉で、神經諸病、リウマチス、胃腸病に効くと云ふ。ラヂウムエマナチオン含有量全國第四位、東北第一位と云はれて居る。旅館は我妻、遠藤、村上、佐藤、三浦屋、大小室、中野その他數軒。

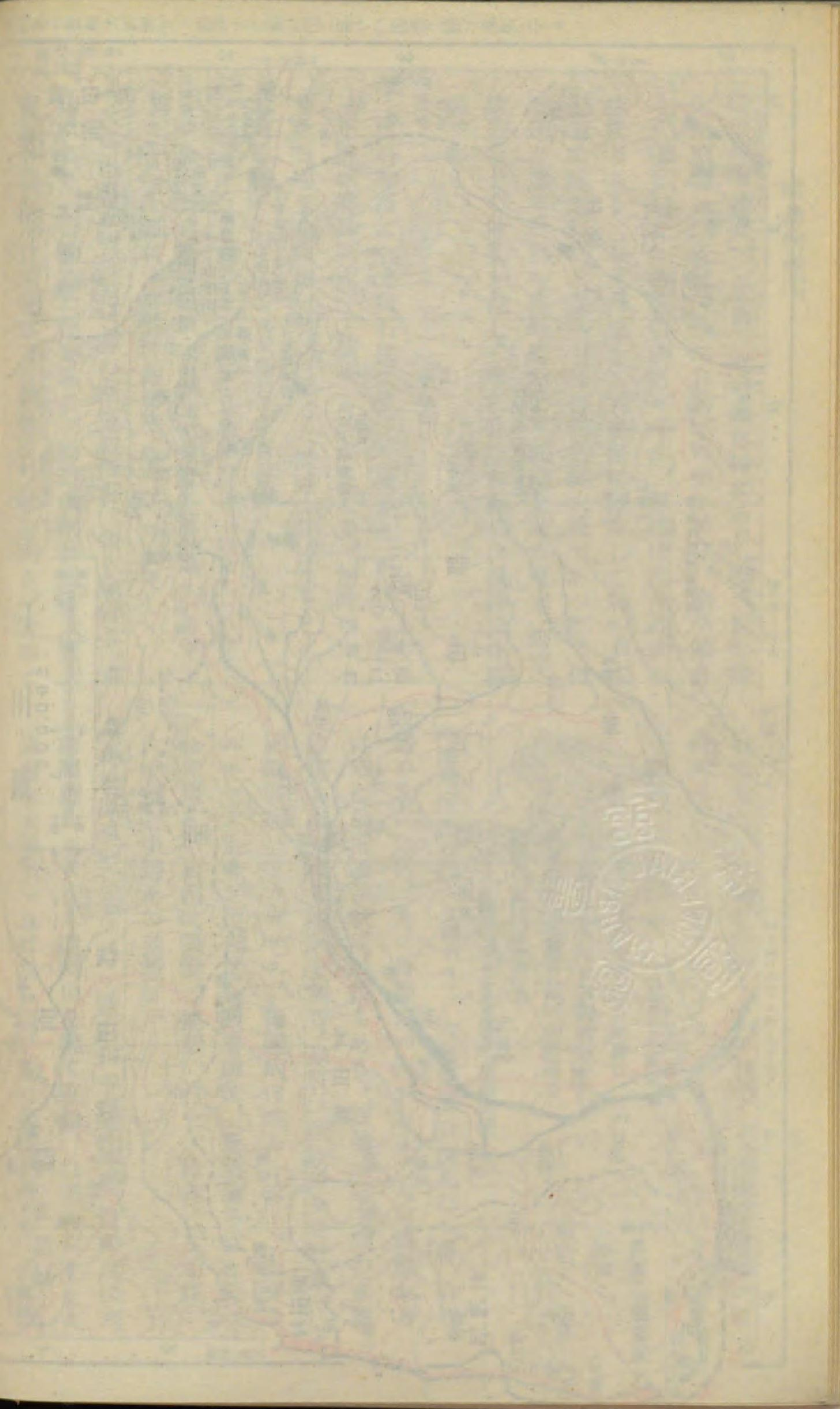
【靑根溫泉】(三圖か4) 遠刈田の西北五粁、自動車は大河原驛からすると遠刈田を經て直通、白石からすると遠刈田で乘換へねばならぬ。地は海拔約五〇〇米、西に藏

王山を負ひ、東南は遠く開けて仙臺附近から松島、金華山、太平洋まで見渡され、溫泉場として稀な眺觀美を有つて居る。溫泉は無色透明、アルカリ性の鹽類泉で、神經諸病、胃腸病、婦人病、眼病に効くと云ふ。旅館は丹野、佐藤、不忘館、名號館。

【峩々溫泉】 遠刈田の西北一〇粁、駄馬の便あり、藏王山中の仙境、海拔約八〇〇米、アルカリ性の鹽類泉、胃腸病、婦人病、皮膚病に効くと云ふ。旅館竹內。峩々の西北四粁に新關溫泉がある。

【藏王山】 宮城、山形兩縣の境上に聳ゆる火山で、熊野岳（海拔一、八四一米）から弧線を描き東南刈田岳（一、七五九米）に至る馬背狀の山列は外輪山の西半である。その東半は爆裂のために飛散し、そこに火口丘が生じた。それが五色岳で、火山灰、砂及礫の互層から成る鈍頂錐狀をなし、その西腹に御釜と稱する火口がある。直徑約三〇〇米の圓形の湖をなし、濁綠色の溫水を湛へ、時々その水を奔騰させまた泥土を噴出することがある。現に御釜の附近は深く泥狀の火山灰で被はれて凄愴な光景を呈して居る。火山體の基骨は凝灰質集塊岩で、輝石安山岩の熔岩流がその上に累層をなし、或は火山灰砂層を伴ひまた集塊岩を交層して山體を構成して居る。

遠刈田溫泉から刈田岳の頂上までは約三粁あり、登路は極めて容易である。溫泉から二粁ばかりは早川牧場の平地を行く、苅田神社を過ぎて濁川を渡ると七日原に出る、こゝはこの附近でのスキー練習場で、休憩小屋も建てられて居る。そこから右に濁川、左に登川の谷を眺めつゝ林の中の緩い登り六粁ばかりで新道小屋に達する。それより凡て一粁で峩々溫泉への追分がある。遠刈田から青根溫泉を經て濁川の右岸を峩々溫泉に出でゝ登る道とこゝで合する。新道小屋と云ふのはこゝから山形縣の上ノ山溫泉への新道を作つた時に開いたもので、登山期中は小屋番が居て、橋錢とか登山料などを徴して居る。そこには宮城縣設の立派なスキー休憩所も建てられてある。新道小屋から一粁ばかり登ると、賽の河原に出る。こゝからは藏王の連山が一



畔に集る。その賽の河原には霧の時にも迷はぬやうに一直線に針金が張られてある。それから後見坂、三途川、大黒様などを過ぎて刈田岳の頂上に達する。刈田岳から熊野岳までは一粁ばかりのやゝ平坦な道である頂上には五色岳と刈田岳、

藏王山

熊野岳の間に舊噴火口があり、刈田岳の頂上には刈田嶺神社が祀つてある。

東には阿武隈川の下流が見下され、海上には遙に松島、金華山が望まれ、仙臺の市街は手に取るやうに見える、西は山形盆地に山形市街、上ノ山温泉などを俯瞰し、朝日の連峯が遙に連つて居る、北に月山、鳥海山を望み、南に吾妻の連山を眺め、展望頗る雄大である。

熊野岳から山形縣高湯温泉までは九粁、それより奥羽線金井驛まで更に九粁の間乗合自動車の便がある。藏王山を山形縣から宮城縣へ、またはその反對に乗り越すのが興味の多い山旅である。

【藏王山麓のスキー場】（八圖）遠刈田、峩々温泉附近は冬季積雪多く藏王山腹一帶は好スキー場である、雪質も良く、スキー季節は十二月下旬より、三月下旬までで、初身者の練習よりは山岳スキーの練習に適して居る、峩々温泉を根據として藏王山へのスキー登山が興味が多い、刈田岳からの一〇粁近い大斜面、杉ケ峯附近の樹木の美觀はスキー家でなければ見られない。一、

二月には概して天候の變化が多いのでスキー登山には三月以後が最も適して居る、主に仙臺方面の學生で賑つて居るが、東京方面を始め諸方からも雪の藏王登山研究の人が集る。

大河原から東北に進むと、右方館山の麓を通る。左には白石川を隔てゝ羽山が見える。更に進んで北に折れ、白石川を渡つて槻木（つきのき）七粁六 四哩七に着く。

槻木驛 宮城縣柴田郡槻木町 福島から五五粁一三四哩二

▽角田（かくだ）軌道線 槻木角田間

▽乗合自動車 角田行

【富澤磨崖佛（とみさわまがいぶつ）】 驛の北約三粁、槻木町富澤岩崎の丘陵の岩壁にあり。寶形造の小堂に覆はれて居る。石佛は岩壁に阿彌陀如來の坐像を半肉彫にしたもので高さ約二、米七（九尺）、像の左右の壁面に「嘉元四年丙午卯月二日爲父檀那憲一坊 藤五郎」「□□□阿彌陀佛」の刻文を有し、造像銘記ある磨崖佛として、東北地方稀有のものである。

【船迫阿彌陀堂鐵佛】 驛の西約五粁、槻木町船迫の小丘にあり、小堂内に四軀の鐵佛を安置して居る。何れも坐像で胸間に鑄出の銘文がある。一軀には文永三年丙寅十月三日とあり、他の一軀には行阿彌陀佛とある、何れも甚だしく腐蝕して居るが鎌倉時代の作で珍重すべきである。

【高藏寺】〔新義眞言宗〕（二圖さ5）角田町の東北約一二粁、西根村高倉にあり、境内のにある阿彌陀堂は特別保護建造物、治承二年の建築で、平安時代末期の様式を傳へて居る。中尊寺を中心として一時東北に榮えた平安時代文化の影響を示すものである。阿彌陀堂の本尊阿彌陀佛は近年國寶に編入された丈六の坐像で、面貌豐滿、刀法甚だ遒勁（ゆうけい）、鎌倉初期の様式を傳へて居る。

槻木から更に東北に進み、全く山地を離れ海岸の平野に出て岩沼六粁四 四哩に着く。

岩沼驛（一圖さ4）宮城縣名取郡岩沼町

上野から東北本線經由　三三一粁八—二〇六哩二
上野から常磐線經由　三四五粁三—二一四哩六
仙臺から一七粁七—一一哩

▽常磐線　岩沼—平—日暮里間　三四三粁—二一三哩二

【岩沼町】　常磐線の東北本線に會する處で、交通の要點を占めて市況が盛である。町は舊名を武隈と稱し後伊達氏の領地となり、貞享以後その臣古内氏この地を治めて明治維新に至つた。その居館を武隈館と呼び、鵜崎館とも稱した。驛の構内線路の西側にある丘陵が卽ちその館趾である。その東北丘上の鵜崎神社には古内氏の祖先を祀つて居る。

【竹駒神社】〔縣社〕(二圖か4)　驛の南約八〇〇米、當社はもと武隈大明神と稱し、宇迦御魂神、保食神、稚産靈神の三神を祀る。

古杉の森に圍まれ境内廣くこの地方の名社である。本殿及拜殿は江戸時代中期の建築、社務所は別當武隈寺の本堂を改造したものである。毎年舊二月の初午より七日間初午祭典を執行し、神輿の渡御、古代行列などを催し大に賑ふ、倘當社北方に二木松と稱し根本から幹が二本に分れた松がある。昔有名であつた武隈の松と傳へ、今その近くに代木を植ゑ碑を建て「二木松碑」と題し藤原元良及橘季通の和歌を刻して居る。

【玉崎牡丹園】(二圖さ4)　驛の西南四粁半、槻木驛の東北約三粁。

岩沼から北方に向つて進む間、右には廣大な稲田を見つゝ增田七粁二 四哩五・陸前中田二粁七 一哩七を過ぎ、名取川を渡り操車場の廣き長町三粁四 二哩一を經、更に廣瀬川を横ぎり仙臺市の一部を掠めて仙臺四粁三 二哩七に着く。

▽增東軌道線　增田　閖上間　五粁八—三哩六

▽秋保電氣軌道線　長町　湯元間　一五粁九—九哩九

【道祖神社(佐倍之神)】〔鄕社〕(二圖さ4)　增田驛の西方約四粁、名取郡愛島村笠嶋にあり、境内は老松古杉の森に包まれて居る。古來此地方では良縁を得んがため或は子女を得んがためリンガを奉納する風習があり、今倘社内に大小各種のリンガが保存されて居る。明治四十一年延喜式内社佐具叡神社を合祀して鄕社となる。

昔藤原實方中將が祭神を侮蔑して馬上のまゝ社前を過ぎたのが祟をなし落馬して死んだと云ふ傳說がある。

【實方中將墓】附佐具叡神社　增田驛から西方三粁半。名取郡愛島村鹽手にあり、今實方墓と傳へられるものは丘陵に築造せる方形の小墳丘で、その傍に實方竝に西行法師の歌及由來を記した碑を樹つ。實方は藤原定時の子で和歌に長じ長德元年陸奥守に貶せられ、任地に於て客死した。倘墓のすぐ西方の丘陵に延喜式内佐久叡神社に擬定さるゝ佐具叡神社を存して居たが、今は道祖神社に合祀せられてその跡に小祠が建てられて居る。

【熊野神社】〔鄕社〕　名取郡高館村熊野堂にあり、陸前中田驛の西方三粁半、長町から岐れる秋保電車鈎取停留所からは東南三粁、名取川の南岸にあつて、境内老松生ひ繁り中央北に偏して本宮、新宮、那智及老女の神殿が四社竝んで居る。本新兩宮は一間社、春日造、那智社は三間社流造、老女宮は一間社流造、共に江戸時代初期の建築である。前面に九間三面四注造の堂宇があり、拜殿に代り、その前方に苑池を設けまた別に神樂殿、文殊堂及鐘樓などを存し、その配置は全く元熊野堂と稱せし神佛混淆時代の制式を保つて居る。保安年中の勸請にかゝると傳へ、吉野時代には奧州で著名なものであつた。寶物には曆應四年平泰綱の寄進狀を始め吉野時代の古文書多くその他伊達政宗の朱印など十數通を藏して居る。

【太白山】　秋保電氣軌道太白山停留所の北方約一粁に山腹の生出森八幡神社がある。こゝから山頂まで約半粁、鐵鎖によつて攀ぢ登るのである。山頂には貴船神社の祠がある。山は海拔六三二米、山容秀麗、山頂の眺觀美あり、視界金華山に及ぶ。

【秋保溫泉】　秋保電氣軌道湯本停留所の西南約一粁、古は名取の御湯と云ひ、飯坂や玉造と竝稱して奧州の三名湯と稱せられて居た。鹽類泉でラヂウムエマナチオンを含有する。胃腸病、皮膚病、神經諸病などに効くと云ふ。旅館　佐勘、岩沼屋、水戸屋、佐藤屋。名取川沿岸に覗橋の奇勝がある、上流一三粁には馬場の大瀧があり、更にその上流八粁に磐神巖の奇勝がある。

勿來　岩沼間

【東京から平まで】　常磐線の列車は上野を發して北進し、日暮里で東北本線と分れ、東に向ひ千住の工業地帶を過ぎ、荒川、江戸川を渡つて千葉縣に入る。松戸を過ぎてからは東北に轉じ稻田、松林、麥畑の間を走り、我孫子に近づくと右窓に手賀沼が見える、利根川を渡り茨城縣に入り、更に小貝川を横ぎり、左窓に牛久沼が望まれる。土浦に近づくと右には霞ケ浦が見え、左に筑波の名山が西北の空に眺められる。友部から東に轉じて水戸に至る、それより那珂川を渡り北に向ひ海岸に沿うて進めば、左窓には多賀山脈の山續きを見、右窓には海光が幾度か隱見する。このあたり松樹が亂立して風景がよい。助川に至れば日立鑛山の大煙突を雲表に仰ぎ、關本より一トンネルを過れば東北地方の福島縣磐城國に入り勿來に着く。

勿來驛（一圖さ6）　福島縣石城郡勿來町

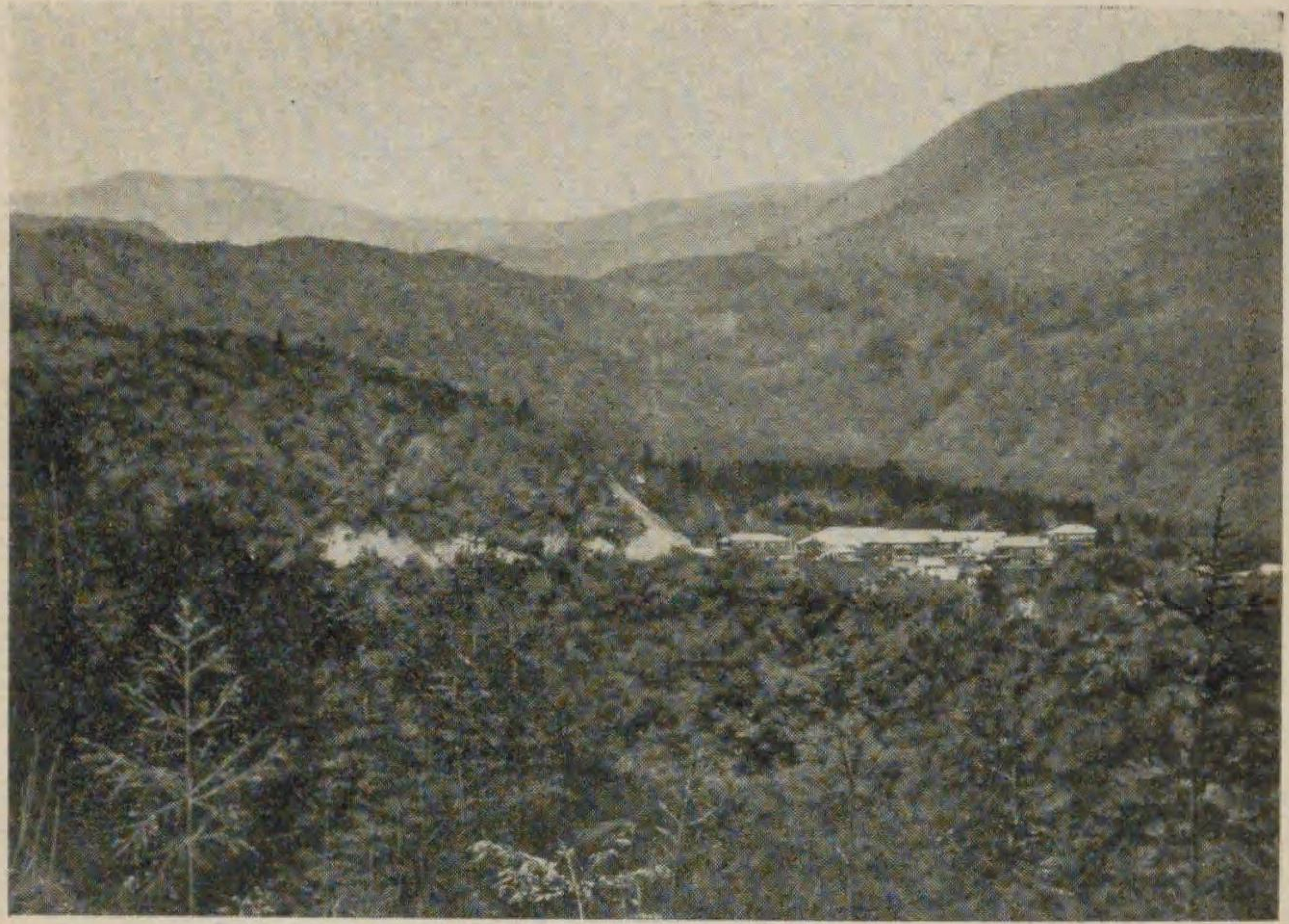
上野から一八五粁四―一一五哩二

▽乗合自動車　小川行

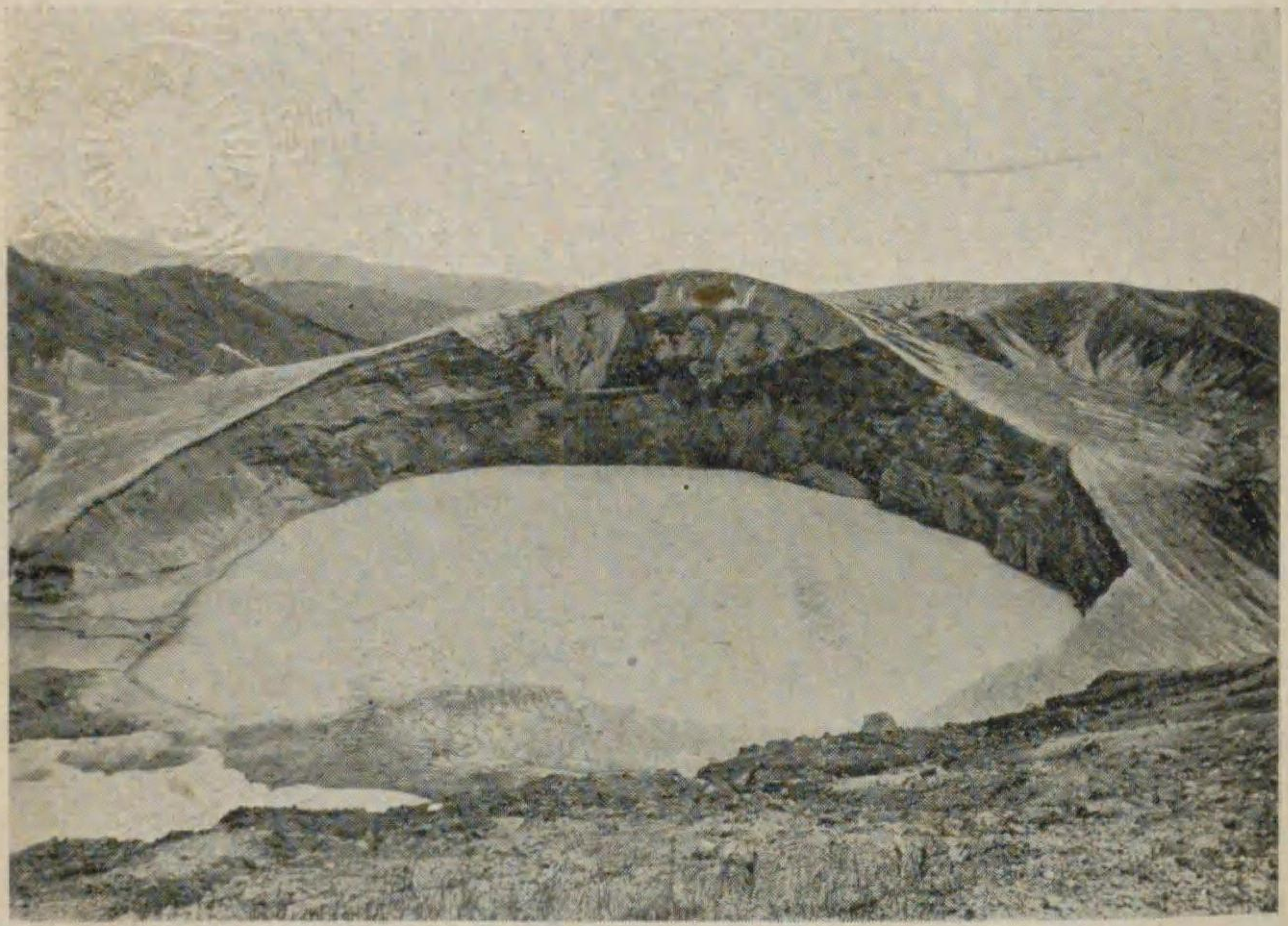
【勿來關址】（二圖さ6）　驛の南方約二粁、勿來町九面の丘上にあり濱街道の關址指示標の西約一粁にあたる。關址には二基の小石祠あり、一を關東ノ宮と呼び一を奥州ノ宮と云ふ。兩祠の後方に嘉永四年の碑があり表面に源義家の歌、裏面に筒井憲の撰文を刻して居る。關の創始は明かでないが、もと菊多ノ剗と稱し、蝦夷の南下を防ぐために設けられたものである。弘仁年間に官道が山道に移されてから漸次荒廢に歸し、關所の實は失はれ、歌の名所となるに至つた。

【松川磯】　驛の東方一帶の海岸で、白沙長く弓形を描いて連り、南は縣界附近から東北は鮫川の口に及び、延長七粁、その間に松林あり、風景がよい。

【常磐炭田】　茨城縣多賀郡から福島縣石城郡双葉郡に跨り、南北八〇粁、東西四粁乃至二四粁に亘り、その面積一〇八方粁、地質は第三紀層より成り、下部は頁岩、砂岩、礫岩で、中部は頁岩、砂岩、上部は凝灰質、

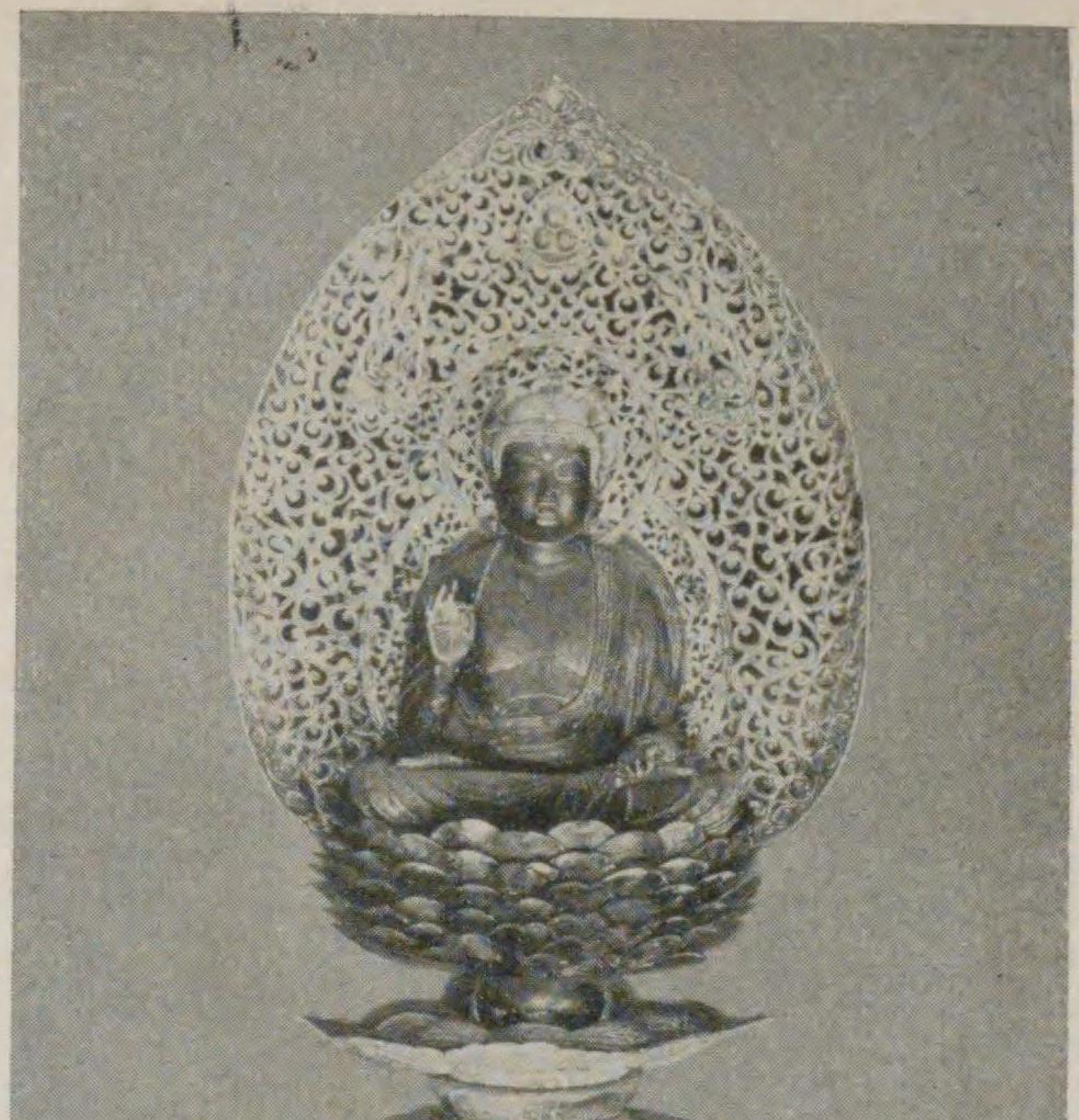


青根温泉



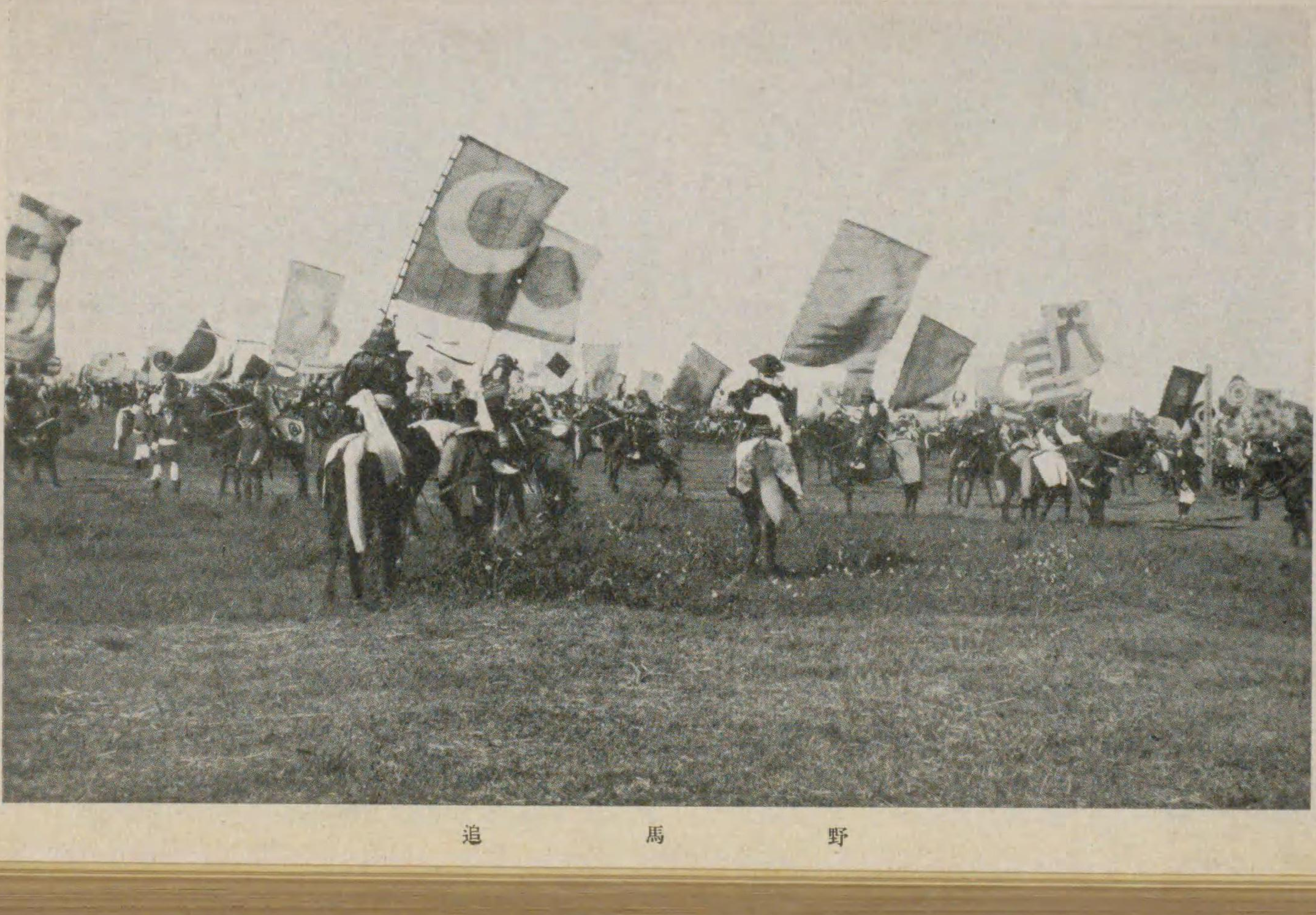
藏王山五色沼

竹駒神社



白水阿彌陀堂本尊

長隆寺地藏堂本尊



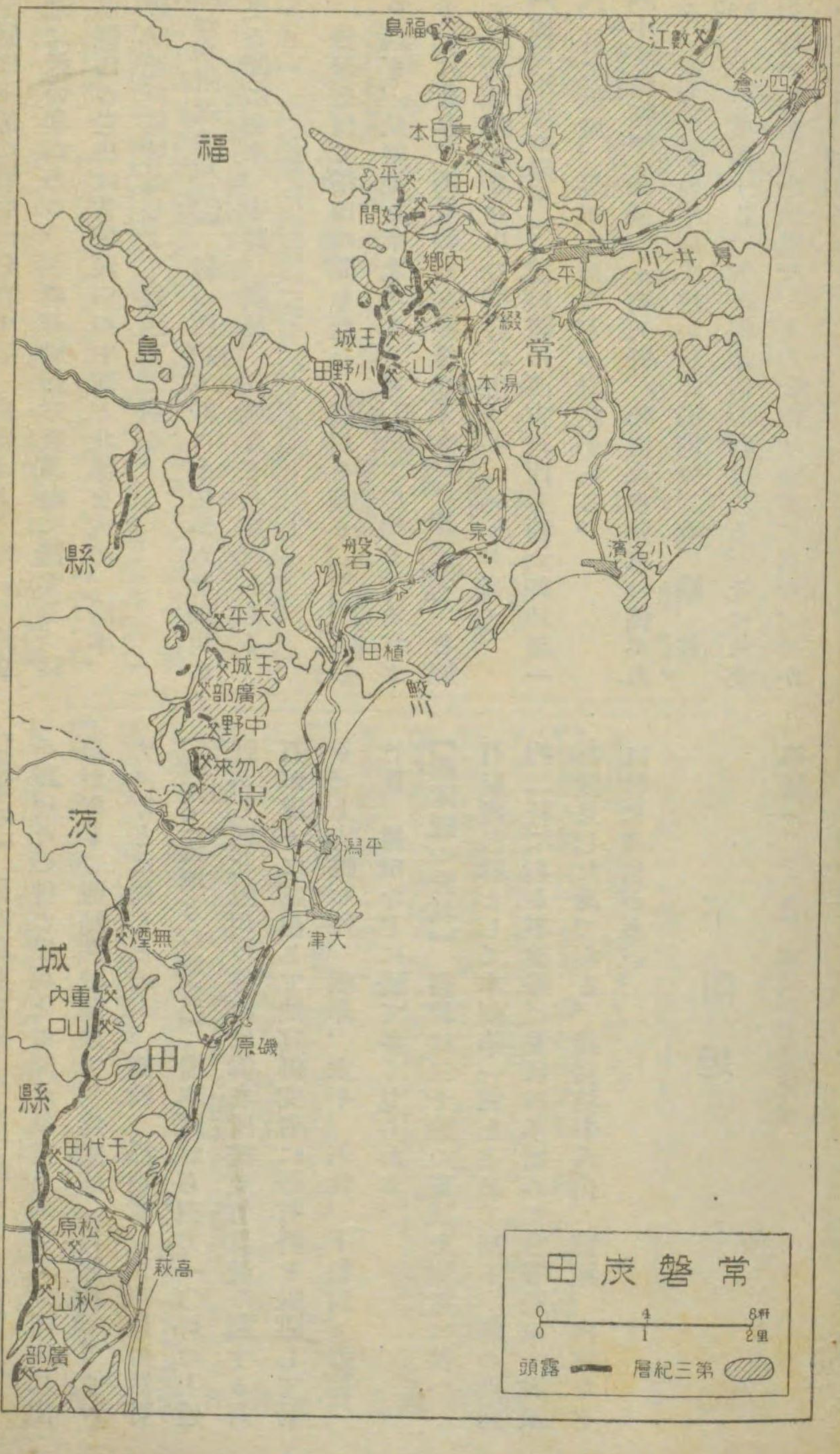
野馬追

仙臺芭蕉辻

榴ケ岡公園

遊覧者ハ普通汽車電車自動車ニヨリ松島ノ海岸ニ出テ瑞巌寺五大堂雄島新富山ヲ経テ船ニ乗リ湾内ヲ周遊シ塩釜ニ至ル

水深(数字)ハ米単位、小字ハ小数ヲ示ス



水深(藍數字)ハ米單位、小字ハ小數ヲ示ス

1 2 3 4 5 6 7 8

炭層は下部の層中に分在する、炭質はよくないが消費地に近い利がある。年產石炭約三百萬噸に達する。福島縣內の炭田は常磐炭田の中部と北部を占め、湯本、綴附近が炭層最もよく發達して居る。

【勿來附近の炭坑】驛の西約五粁の小川から北鮫川に至る間に勿來、中野、廣部、王城などの炭坑がある。

勿來を出て稻田の間を進み、鮫川を渡り、植田（四粁七 二哩九）を過ぎ、丘陵地を東北に走り泉（七粁二 四哩五）に出る。それより北に折れて石炭の發送多き湯本（六粁四 四哩）綴（三粁五 二哩二）を經て東北に向ひ夏井川の平野に出で平（四粁三 二哩七）に着く。

【植田附近の炭坑】植田驛の西方及西方約六粁乃至一〇粁に鳳城、黑田小島などの炭坑がある。

【小名濱町】泉驛の東約五粁、軌道及自動車の便がある。東方三崎の半島に抱かれた漁港で、鰹、鱶、鰈、鮃などを集散する。また海水浴が行はれる。その東北六粁の江名も小漁港で、その公園は眺望に富む。平から自動車の便がある。

【湯本町】湯本驛所在地、こゝは炭田の一中心をなし、小野田その他の炭坑との間に軌道を通ずる。町內に溫泉がある、鹽類性硫黃泉で、皮膚病、胃腸病、リウマチスなどに効くと云ふ。旅館　松柏館、山形屋外數軒

【鮫川上流地方の地質】湯本驛から西方一〇粁の上遠野から西北鮫川の谷には御在所統及竹貫統の屬する岩石が處々に露出して地質研究者に好材料を提供して居る。上遠野の外、根岸、太平、石住、下松川、上松川、竹貫、鎌田などに於て多く見られる。

【綴附近の炭坑】綴驛は三十餘の炭坑を附近に控へ、石炭發送驛として本州第一位を占めて居る。驛の西南約二粁にある不動澤は安政四年始めて常磐炭田の露頭を發見した處である。諸炭坑中入山、磐城、內鄉などは特に產出が多い。

平附近

平驛（一圖さ5）　福島縣石城郡平町

上野から二一〇粁八―一三一哩五　急行五時間

仙臺から一五一粁四―九四哩一　急行三時四〇分間

▽磐越東線　平郡山間　八五粁六―五三哩二

▽好間軌道線　平町古鍛冶　好間間　四粁三―二哩七

▽日本鐵道線　平町長橋　湯本間　六粁―三哩七

▽乘合自動車　四ツ倉行　小川鄕行　江名行

▽旅館　住吉屋　丸新館

一日平均

乘車人員　三、三〇四人　降車人員　三、三三三人

發送貨物噸數　九五噸　到着貨物噸數　四六一噸

主要發送貨物　木材　煉瓦　鐵及鋼製品　鹽　木炭　果物類　米　清酒　野菜　セメント

主要到着貨物　石炭　木材　米　鹽　砂糖　鐵及鋼製品　果物類　セメント　肥料　小麥粉

【平町】夏井川の右岸に位する城下町として發達した所で、常磐線と磐越東線の分岐點にあたり、常磐炭田の發展以來市況活氣を帶び、人口約二萬五千に及ぶ。煉瓦の製造が盛に行はれる。この地はもと岩城氏の領して居た處で、江戶時代に入り鳥居氏がこゝに封ぜられ爾後內藤氏、井上氏を經て安藤氏の城地となり、明治維新に及んだ、戊辰の役には薩長及大垣の兵がこゝに迫つて激戰があつた。

【平城址】驛の北方丘上にある、城は慶長七年鳥居氏の築造にかゝり、その東端を物見ケ岡と云ひ、展望廣く、市街は一眸の下に集まる。城址には丹後澤と稱する幽邃の塹壕が殘つて居る。

【飯野八幡宮】〔縣社〕驛の西北約二粁、町內八幡小路にあり、境內廣く老樹が繁茂して居る。鎌倉時代から飯野氏が世襲して神職となり、江戶時代には四百石の神領を有して居た。現に飯野氏は鎌倉時代以降の古文書を多數所藏して居る。

【子鍬倉神社】〔縣社〕驛の西方約半粁、町內揚土にあり、倉稻魂命を祀る。延喜式內の名神小社で、後磐城四郡の總鎮守と稱され、岩城氏の崇敬が篤かつたと云ふ。境內にある八坂神社には天文八年の制札及慶長六年、同八年の文書を藏して居る。

【松ケ岡公園】驛の西南一粁、町の西端藥王寺臺にあり、花樹多く風致に富み、園內に城主安藤對馬守信正の銅像及戊辰戰役砲臺などがある。

【專稱寺】〔淨土宗〕驛の東方約四粁、夏井村山崎梅福山にあり、應永二年良就證賢上人の開基、淨土宗名越派の總本山である。

【如來寺】〔淨土宗〕專稱寺の東方約一粁半、元亨年中名越良山の開基、奥州淨土宗の最初の本山と稱されて居る。長方形の木箱二個に納めた淨土宗名越派の教義に關する古寫本數十卷を藏して居るが、永享年間に筆寫されたものも少くない。またその木箱は月形函と稱し、一は大永六年に僧良卜、他は大永八年に僧良懿の認めた箱の由來書が墨書されて居る。尙當寺には左記の寶物がある。

一　絹本着色阿彌陀三尊來迎佛〔國寶〕　一幅　傳惠心僧都筆
一　青銅製阿彌陀如來及兩脇侍立像三軀〔國寶〕

【大國魂神社】〔縣社〕驛の東方四粁、夏井村宮前にあり、延喜式内社で、本殿、拜殿、神樂殿、寶藏などがある。寶藏には吉野時代頃の古文書二十餘通を有する。

【甲塚古墳】（二圖か5）大國魂神社の東北稻田中にあり、塚は高さ約六米、周圍約九〇米の圓形墳で、一株の巨大な老松がある。規模の壯大にして完存せる點に於て、東北地方稀有と云ふべく、史蹟に指定されて居る。

【澤村勝爲墓】驛の北方約五粁、平窪村横山にあり、自動車の便がある。墓碑に「一聲院殿劍譽利道居士、明曆元乙未七月十四日澤村勘兵衞碑」と刻書してある。尙墓域には明治二十八年の「脩澤郁君墓碑」、大正十五年の「仰澤碑」及その傍に大日堂がある。澤村勘兵衞勝爲は平城主内藤氏の臣で、慶安年間灌漑に供するため私財を投じ、多くの困難を排して小川江の開鑿を完成した人である。小川江は下小川村地内に起り、夏井川を取り入れ、丘陵の裾に沿ひ延長約三〇粁、四ッ倉に至り海に入る。灌漑區域千二百町歩に及んで居る。然るに明曆元年他領朱印地の開鑿につき獨斷專行の責を引いて自刄した。村民今に深くその德を慕つて居る。尙草野村には彼を祀れる村社澤村神社がある。

【白水阿彌陀堂】（二圖さ5）綴驛の西方約二粁、田郷村白水の北端にあり、今特別保護建造物の阿彌陀堂一宇を存するのみで、附近の願成寺に屬して居る。堂は永曆元年岩城氏の後室德尼の建立と傳へらる。三間三面、屋根は寶形造柿葺にして二軒二重繁棰、枡組は出組を用ゐ、外觀屋根やゝ高く露盤小に失し軒廻との諧調を缺ける點なきにあらざれども小堂宇に似ざる莊重雄麗の感がある。内部は中央一間を内陣として、周圍一間通りを外陣となし、外陣格天井、内陣折上小組格天井各格間長押及周壁などに彩色佛畫の痕跡を留め、また内陣柱は所謂卷柱である。内陣には黑漆の須彌壇があり、壇上に木造阿彌陀三尊竝に二天が安置されて居る。本尊は魚鱗式多瓣蓮華座華盤受座などある優麗なる臺座上に結伽趺坐し、上品下生の印を結び、容姿端麗にして、光背は飛雲の透彫に飛天を配したる華麗なるものであり、左右に觀音、勢至の立像を配し、藤原時代の特徴あるものにして、二天また頗る優雅の風を帶び、何れも國寶である。

磐越東線

平　郡山間　八五粁六　五三哩二

平を出て西に進み、更に北に折れ稻田の間を過ぎ夏井川に近づき、赤井（四粁八 三哩）小川鄕（五粁五 三哩四）を經て夏井川を渡り山峽に入る。これより先は一五粁に亘りつゝじ、新綠、紅葉の美しい峽谷で、汽車は河流を縫うて數多のトンネルをぬけ二箇所の發電所を見、川前（一六粁一 一〇哩）に着く。それより夏井（一〇粁五 六哩五）を過ぎ矢大臣山を右に見て小野新町（三粁二 二哩）に至る。

【赤井岳藥師堂】赤井驛から西北約六粁、途中約三粁の間自動車の便がある。赤井岳は海拔六〇五米、その東腹巨大なる杉檜の林の中に藥師堂がある。寺は常福寺と稱し、眞言宗で堂宇壯麗、舊曆八月中陰を緣日とし、その前夜は堂の内外に徹夜お籠りをなすもの一萬人に及ぶ。堂から西北二粁半の水石山は山中につゝじ紅葉の美觀があり、山頂（海拔七三五米）からは展望が廣濶である。

（小野新町　郡山間の記事は七二頁）

平を出て右に專稱寺の森を望み夏井川を渡り、トン

ネルをぬけて平野を走り草野（五粁五 三哩四）を過ぎ、次に仁井田川を渡り、四ツ倉（四粁三 二哩七）に着く。

四ツ倉驛（一圖か5）　福島縣石城郡四ツ倉町
平から九粁八—六哩一

【四ツ倉町】　漁港で、近海には鰹、秋刀魚、鰈の漁獲が多く、町の北方海岸では夏季海水浴が盛んで、驛からそこまで自動車の便がある。旅館、海氣館、潮聲館。附近の漁村では舊曆正月十日頃に古來有名な火打合が行はれる。

【新舞子】（二圖か5）　驛の南二粁、仁井田川の河口から夏井川の河口に至る海岸一帶、白沙青松數粁に續いて、風景美をなして居る。

【惠日寺阿彌陀像】　驛の西四粁、大野村玉山にある。寺は一堂宇を有するに過ぎないが、厨子入りの木彫阿彌陀佛立像があり胎内に左の墨書銘がある。

奉迎□
文永元年才次甲子
八月十五日□花押

【藥王寺】〔新義眞言宗〕（二圖さ5）　驛の西約九粁、大野村塙にあり、門前、參道及境内所々に多くの供養碑が散在して居るが總數四十基に近く鎌倉及室町時代の銘文を有するものも少くない。本堂には文殊菩薩の木像〔國寶〕を安置して居る。その作優秀にして鎌倉時代のものと見られる。尙絹本着色の彌勒菩薩像も國寶に指定されて居る。

【長友地藏堂】　大浦村長隆寺境内にあり、驛の西北約三粁、地藏堂は朱塗の堂で、地藏菩薩の立像〔國寶〕を安置して居る。錫杖には次の刻文がある。

大地藏井　長友之村
本願行海十穀
造工　源十郎
永祿十二年六月一日
（井は菩薩の略字）

【八茎銅山】　驛の西北一五粁、銅鑛は古生層の粘板岩及石灰岩の間に產する。

【玉山鑛泉】　驛の西約六粁、アルカリ性炭酸泉である。

四ツ倉を出ると右窓に四ツ倉公園の丘を眺め二つのトンネルを過ぎ、海岸を北進し、潮除保安林の松原を望み久之濱（四粁八 三哩）に着く。

久之濱驛（一圖か5）　福島縣雙葉郡久之濱町
平から一四粁六—九哩一

【久之濱町】　漁港で、東北には殿上崎の勝地を控へ海水浴に適する。旅館　鶴屋、吉田屋。
驛の南方二粁半横綱に波立藥師堂がある。

久之濱を出て大久川を渡り、トンネルを出入すること九回、廣野（八粁四 五哩二）を過ぎ、三のトンネルを經て木戸（五粁五 三哩四）に着く。これより小平野の間を進み、木戸川を渡り、龍田（三粁一 一哩九）を經、常磐線中最長の金山トンネル（延長約一六〇米）を過ぎて富岡（六粁九 四哩三）に着く。

次に富岡川を渡り、これに沿うて上り北に折れ程なく夜ノ森（五粁一 三哩二）を過ぎ、野上原の廣野を横ぎり大野（四粁八 三哩）を經て丘陵の間を辿る。それより長塚（五粁八 三哩六）に出でトンネルを過ぎ高瀨川を渡ると平野の間の浪江（五粁一 三哩一）に着く。

浪江驛（一圖か5）　福島縣雙葉郡浪江町
平から五九粁二—三六哩八

【大堀の相馬燒】　驛の西南約五粁の大堀村には附近の第三紀層の間に產する粘土を原料とし、外面砂目を有し内面に青ひゞを示す相馬燒を製する。

浪江から室原川を渡り、トンネルを出入すること五回小高（八粁八 五哩五）に着く。

小高驛（一圖さ5）　福島縣相馬郡小高町
平から六八粁一—四二哩三

【小高町】　蠶業の一中心で羽二重の機業が行はれる。

【相馬氏廟】　驛の西北約二粁、洞雲寺にあり、廟は本堂の西隣に區劃をなし、四方一間入母屋造の靈屋を北隅に設け、その南方に壯大なる墓碑が二列をなして相竝んで居る、相馬一族代々の墓所である。

【小高神社】〔縣社〕 驛の西北約半粁、小高城址にある、城は建武年間相馬氏の築く所、神社はその中央にあり、天御中主神を祀る。舊號を妙見神社と云ひ舊幕時代に太田及中村の妙見神社と共に中村藩主相馬氏の崇敬する所であつた。七月十二日にはこの三社聯合して馬追の神事を行ふ。(野馬追祭の項參照)

【泉澤磨崖佛】(二圖さ5) 驛の南方約四粁、福浦村泉澤大悲山小丘陵の南面の岩窟にある。磨崖佛は大なるもの七體あり、これを前岩屋の藥師と稱し、木造茅葺の廂を直に岩窟へ取り付けて覆堂として居る。岩窟の間口一四米奥行五米を算し、天井は水平で高さ約六米、後壁は殆ど直立し、天井際で少しく彎曲して居る。佛像はこの後壁に刻み出したもので背部は後壁に底部は下の岩に連つて居る。彫刻の手法には半肉と線彫がある。七體の佛像のうちに如來部に屬するもの四體あり、何れも坐像で、最も大なるは高さ臺座とも五米、他の三體は菩薩の立像である。これらの佛像は何れも甚しく磨損せるも、その輪廓相好の豐滿雄大にして、光背の精巧優美なるは平安時代の樣式を傳へて居る。前岩屋に隣れる東北の丘腹の岩窟にも千手觀音像の磨崖佛がある。その高さ七米、同時代のものならんも殆ど全部破壞されて居る。

　こゝから北へ約二粁、驛の西方約一粁、小高町の吉名にも石窟があり、三尊佛を現はして居るが、これも甚しく破壞されて居る。

　小高から北進して小高川を渡り、丘陵地に入り、トンネルを潜り太田川を渡ると、磐城太田五粁 三哩一に着く。

磐城太田驛 (一圖さ5) 福島縣相馬郡太田村
平から七三粁—四五哩四

【太田神社】〔縣社〕 驛の西北約二粁半、太田村別所にあり、天御中主神を祀り舊號を妙見神社と云ふ。元亨年間相馬重胤が下總より奥州行方郡に移り、居館を太田村に構へた時、千葉からこの地に奉遷したと傳へ、相馬氏累代の氏神として崇敬された。毎年七月十二日野馬追神事を行ふ。

　磐城太田驛を出て遠く國見山(海拔五六四米)を左窓に見、東京無線電信局原ノ町送信所の高塔を右窓に眺めて原ノ町四粁三 二哩七に着く。

原ノ町驛 (二圖さ5) 福島縣相馬郡原ノ町
平から七七粁四—四八哩一　仙臺から二四粁—四六哩

▽乘合自動車　大原行

【原ノ町】 舊名を一に弓形の宿と稱し、交通上の要地にあたり、商工業が發達して居る。人口約一萬一千に及ぶ。旅館　驛前　中野屋　花月館。

【東京無線電信局原ノ町送信所】 驛の東半粁、町内櫻井にあり。この送信所は中央に主塔あり、鐵筋コンクート造で高さ二〇〇米、周圍に數多の副柱を設け、空中線はこの主塔と副柱の間に珪銅線四十八條を傘骨狀に架設して居る。送信裝置で起した振動電流はこの空中線に流れて空間に電波を發射するのである。送信の目的局はアメリカ西岸のフランクリン局及ハワイのカフク局などである。

【野馬追祭】 原ノ町の西南にある雲雀ケ原を中心として行はれ、相馬地方の一特色をなす壯烈なる祭事である。これは相馬氏の祖先が下總小金ケ原で馬を放ち兵を練つた遺風を傳へたものと云はれて居る。この祭事は小高、太田、中村の三神社(相馬の三妙見)聯合の神事で、一方講武を目的としたものである。祭日は七月十一日(宵乘祭)、十二日(野馬追祭)、十三日(野馬掛)の三日である。初日には三神社何れも神輿を出し、古式な武者行列で原ノ町に入り、神輿を夜ノ森山上に安置し、宵乘の式が行はれる。この日競馬があり夜は民謠流山の踊がある。二日目には行列は雲雀ケ原祭場に向ひ、神輿は牛來山上に着坐し野馬追が始まる。三社の神旗が天空から落下すると猛烈な爭奪戰が起り、旗を取つた者は牛來山七曲りを馳け上り本陣審判所で賞を受ける。三日目には小高神社境内で野馬掛が行はれ、白衣を着けた健兒數十人が赤手で奔馬を捕獲する行事がある。

　原ノ町を出て新田川を渡り、二つのトンネルを潜り、

鹿島（七粁六 四哩七）を過ぎ丘陵を越えて日立木（にったき）（六粁六 四哩一）を經、中村（六粁 三哩七）に着く。

中村驛（一圖さ5）　福島縣相馬郡中村町

上野から三〇九粁一一九二哩一　仙臺から五三粁九一三三哩五

【中村町】　宇多河畔にある相馬氏の舊城下で濱街道屈指の繁華地である。中村街道はこゝから宇田川に沿ひ彥四郎山の東麓を過ぎ掛田を經て福島に向ふ。こゝに相馬駒燒の名產がある。藩主の定紋と走馬を描き、御止め燒として私に販賣することを禁ぜられたもので、慶安元年頃から名物となつた。

▽旅館　伊勢屋

【中村城址】　驛の南約一粁半、中村町の西端にあつて追手門、內濠、外濠など殘存し、その規模の雄大であつたことが判る。城址には古松老杉繁茂し、濠堤には梅櫻あり、景趣に富んで居る。慶長十六年相馬利胤が小高城からこゝへ移り、居城を構へてから、子孫相繼いで明治維新に及んだ。

【中村神社】〔縣社〕中村城址の西北隅の丘上にある。境內は老杉枝を交へて幽邃閑雅の趣がある。天御中主神（あめのみなかぬしのかみ）を祀り舊號を妙見神社と云ひ、慶長十六年、小高城（おたか）から遷座されたもので、相馬氏代々の氏神として崇敬された。每年七月十二日に野馬追神事を行ふ。（野馬追祭の項參照）

【相馬神社】〔縣社〕中村城址の中央本丸の址にあり、境內の庭園風致に富む、明治十二年の創建で相馬氏の遠祖相馬師常（もろつね）を祀つて居る。

【二宮尊德墓碑並僧慈隆墓】　驛の西南二粁餘、中村町西山の山腹に二つの墓碑が竝び樹つて居る。尊德の墓碑は安政四年に中村藩士がその遺德を慕うて營んだもの。慈隆は日光山の僧で幕末多事の際諸方遊歷中、中村藩に聘せられて尊德の遺敎を弘め且つ文武の講習に努め、維新の際當藩をして歸順せしめた關係から、歿後こゝに墓が營まれたものである。

【八幡神社】〔鄕社〕驛の南約四粁、八幡村坪田にあり、北畠顯家の將白川道忠、賊徒征討のためこの地に八幡神を勸請したと傳へ、今の社殿は元祿八年相馬昌胤の改築したものである。境內廣く周圍に濠を圍らし古松老杉繁茂して風致がある。

【原釜海水浴場】　驛の東北四粁、夏季は自動車の便がある。旅館　丸仙、東洋館。

【松川浦】　中村の北方海岸にある潟湖で、その中には岩礁星散し、小松島（しょうまつしま）の景を作つて居る。原釜の東南半粁にある尾濱の丘陵からは外海內浦を一眸の下に集め、更にその東方二粁の鵜ノ尾岬の夕顏觀音からは全景をパノラマ的に眺められる。所謂十二景を見るには夕顏觀音附近から船に乘つて中ノ洲の老松を初め順次に見物するがよい。

中村を出ると鐵道は次第に海岸に近づき右窓に新沼浦を見、新地（八粁八 五哩五）に着く。

新地驛（一圖か5）　福島縣相馬郡新地村

平から一〇六粁四一六六哩一

岩沼から二七粁四一一七哩

【釣師濱（つりしはま）海水浴場】　驛の東南一粁、旅館　大洋館、釣師館。

【新地（しんち）貝塚】　驛の西南一粁半、新地村小川の低い丘陵の突端にあり畑地に遺物が散在し貝殼が散布して居る。その南に竪穴住居地がある。更に南三粁の駒嶺村三貫地（さんがんじ）にも遺跡がある。

新地を出て北進し宮城縣に入り右に海岸の松林を眺め左に低き阿武隈高原の餘脈を見、坂元（五粁五 三哩四）濱吉田（八粁四 五哩二）亘理（わたり）（五粁 三哩一）を過ぎ、阿武隈（あぶくま）川の鐵橋（延長六〇〇米）を渡り、岩沼（八粁五 五哩三）に着く。

【亘理（わたり）町】　濱街道の要路にあたり、阿武隈川に近き要害として伊達氏の支族亘理氏の居城した處である。

【荒濱（あらはま）】　亘理町の東四粁、自動車の便がある。阿武隈川河口の右岸に位する漁港で、港內淺きも江戶時代には船舶輻輳し物資の大集散地であつたが、明治以降大汽船の行はれるにつれてさびれた。かの有名なる貞山堀は港の對岸に起り石卷附近に通ずる。その南方の鳥海では海水浴が行はれる。

仙臺　盛岡間

仙臺驛（一圖さ4）　宮城縣仙臺市東五番町

上野から東北本線經由　三四九粁五―二一七哩二　急行約八時間普通約十一時間

上野から常磐線經由　三六三粁―二二五哩六　急行約九時間普通約十時間半

青森から　三八五粁七―二三九哩七　急行約八時間半　普通約十二時間

▽宮城電氣鐵道線　仙臺　鹽釜　松島公園　石卷間

▽市內電車　驛前―東五番丁―片平丁―大學病院前―縣廳前―光禪寺通

驛前―東五番丁―荒丁

▽乘合自動車　長町行　大學病院行　靈屋下行　東照宮行　榴ヶ岡行

▽旅館　〔驛前〕仙臺ホテル　針久別館　奥田旅館　〔市內〕針久本店（國分町）　芭蕉館（南町）　中村旅館（東四番町）

一日平均

乘車人員　四、八〇九四人　降車人員　四、八〇〇人

發送貨物噸數　三三三噸　到着貨物噸數　七四噸

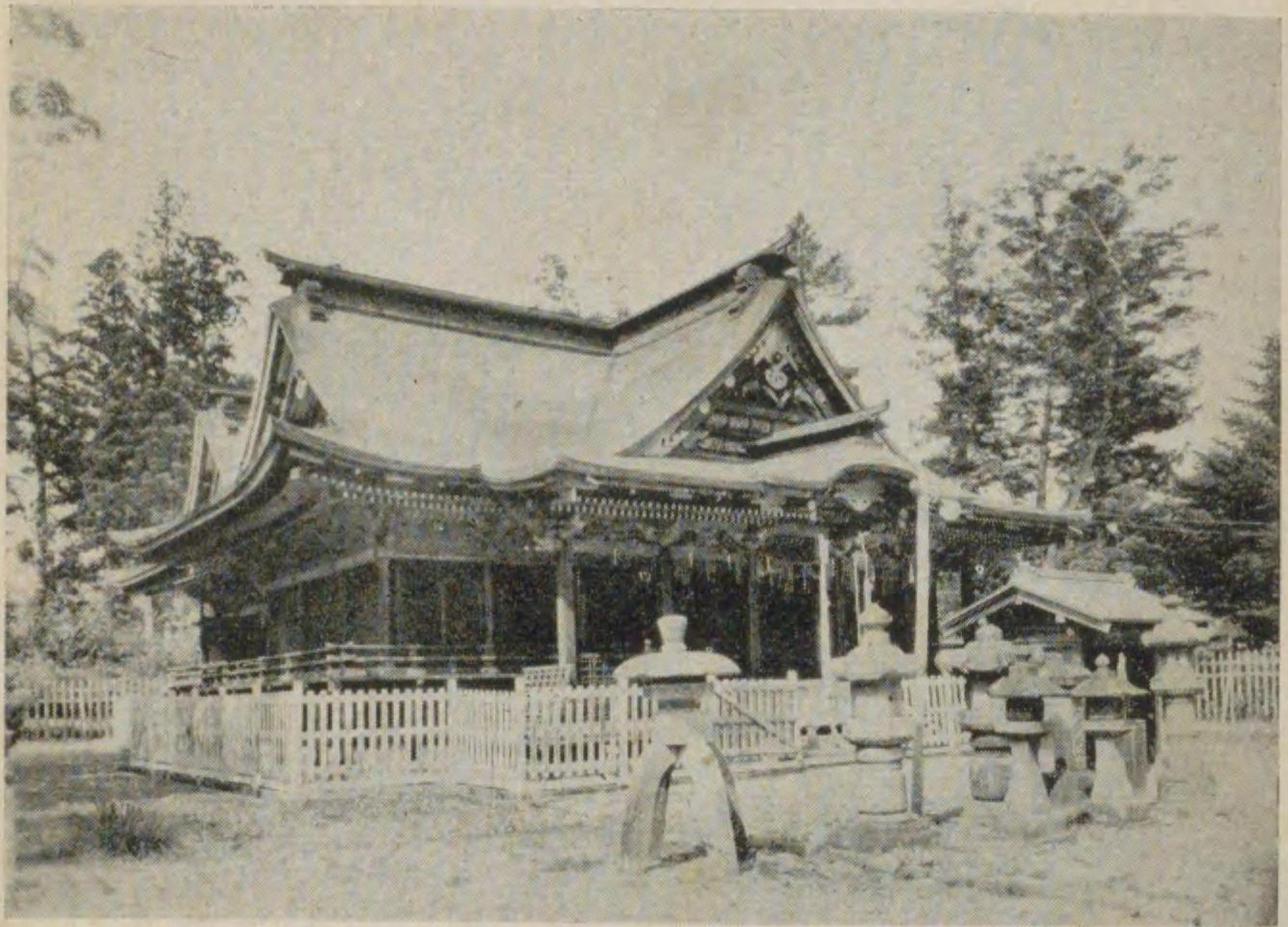
主要發送貨物　麥酒　煙草　鐵及鋼製品類　木材類　鹽　石油類　清酒　米　肥料類　飼料

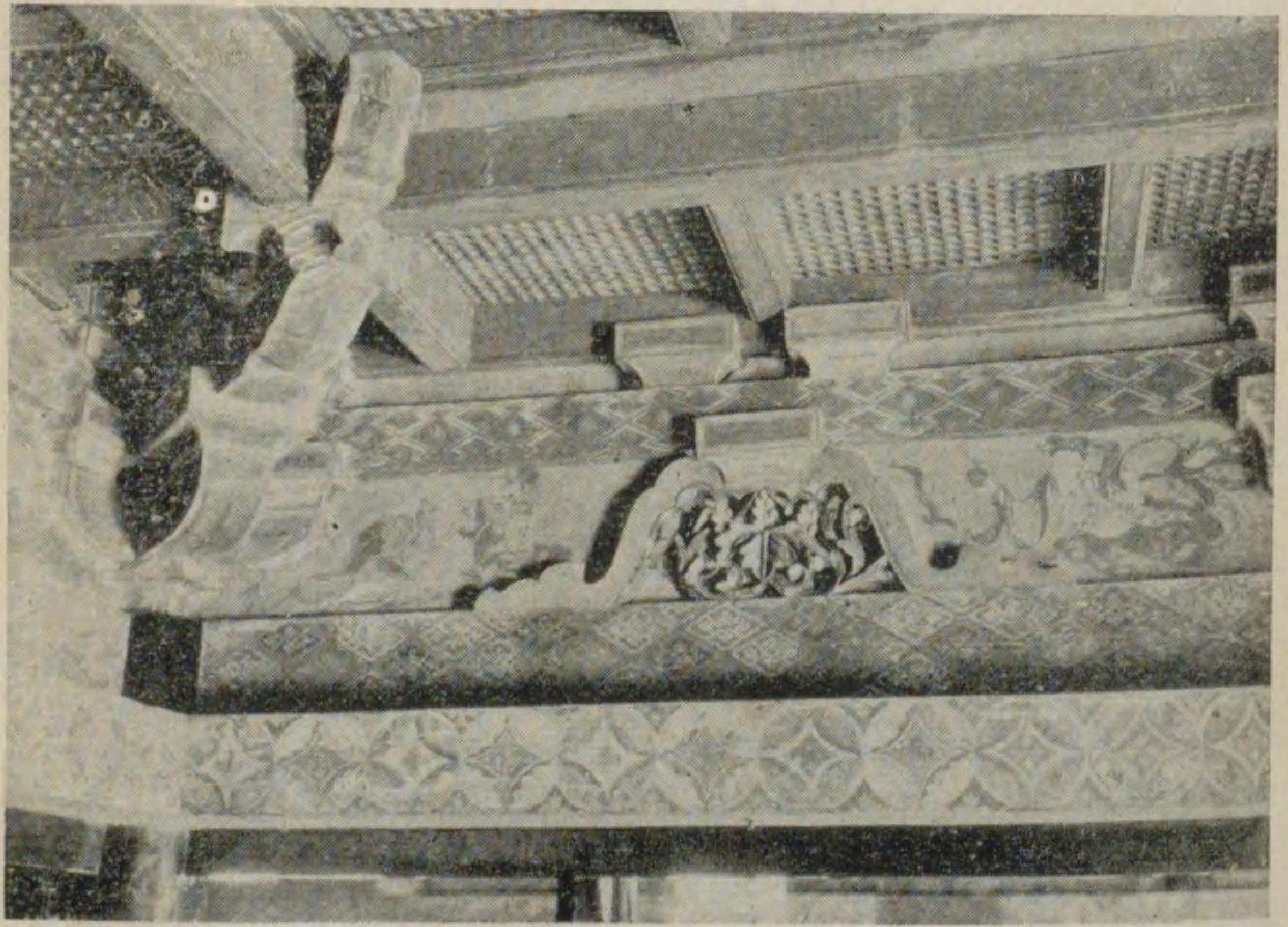
主要到着貨物　石炭　木材類　木炭　米　セメント類　麥類　煙草　鹽　清酒　鮮魚　砂糖類

【仙臺市】（九圖）　宮城縣の中部に位し、北西南の三方に丘陵を廻らし、東の面だけ平野をなし、廣瀨川は市の西南部を流れて居る。慶長五年以來伊達氏六十餘萬石の城下として明治初年に及んだ。廢藩後は縣治の中心となりまた師團を置かれ、帝國大學その他高等の諸學校の創設を見、商工業盛に行はれ、今や人口約十六萬五千の大都市となつた。

伊達氏がこゝに築城する以前は宮城野につゞく荒涼たる原野で國分莊と呼ばれ鎌倉時代の初め千葉氏が領し後國分氏の領地であつた。天正五年伊達政宗の叔父盛重は國分氏の養子となつたが政宗と不和を生じ戰ひ敗れて沒落した。政宗は天正十九年以來玉造郡岩出山城に居たが、慶長五年青葉山に築城を企て、同七年に竣工した。築城と同時に市街を經營し街衢凡そ百を

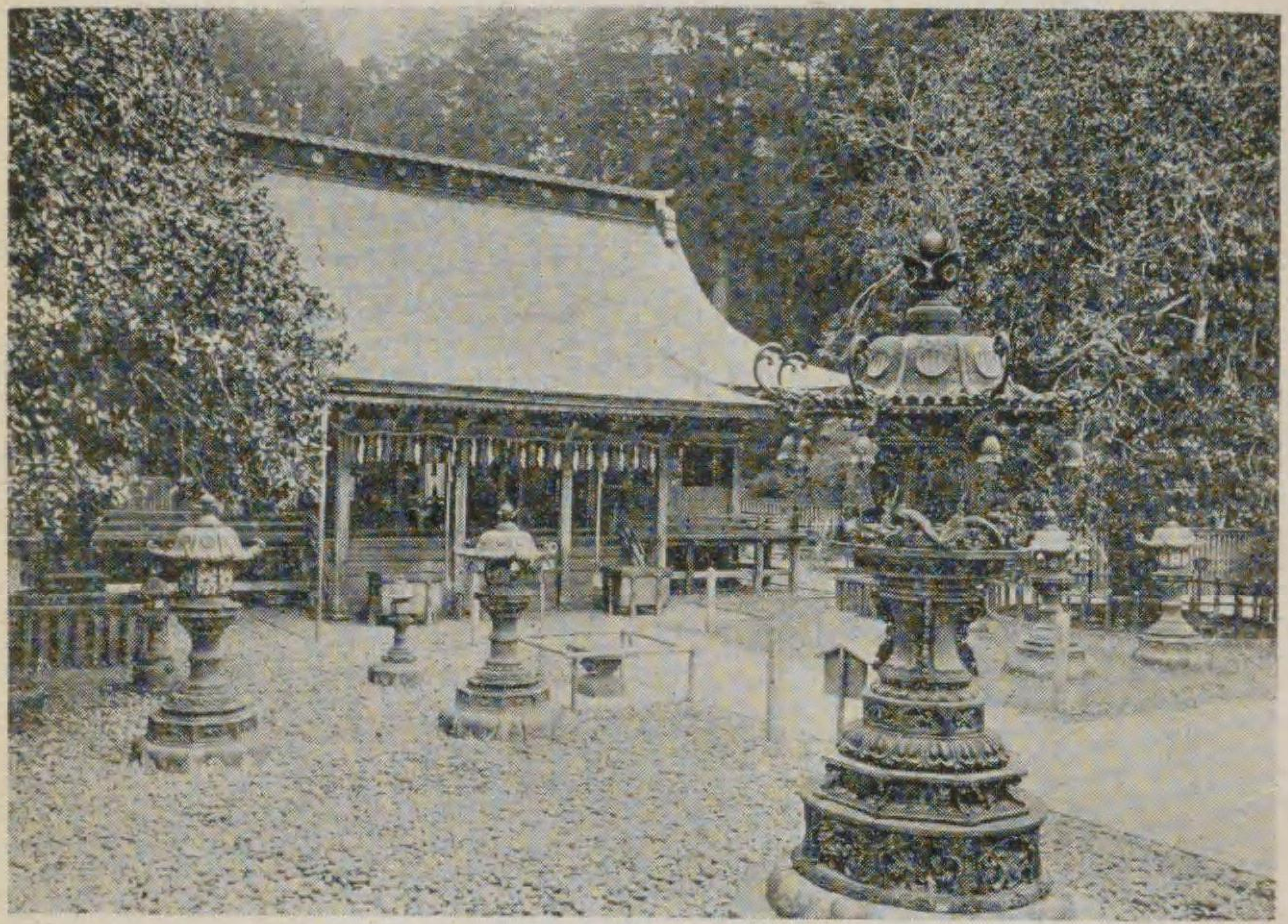
大崎八幡神社

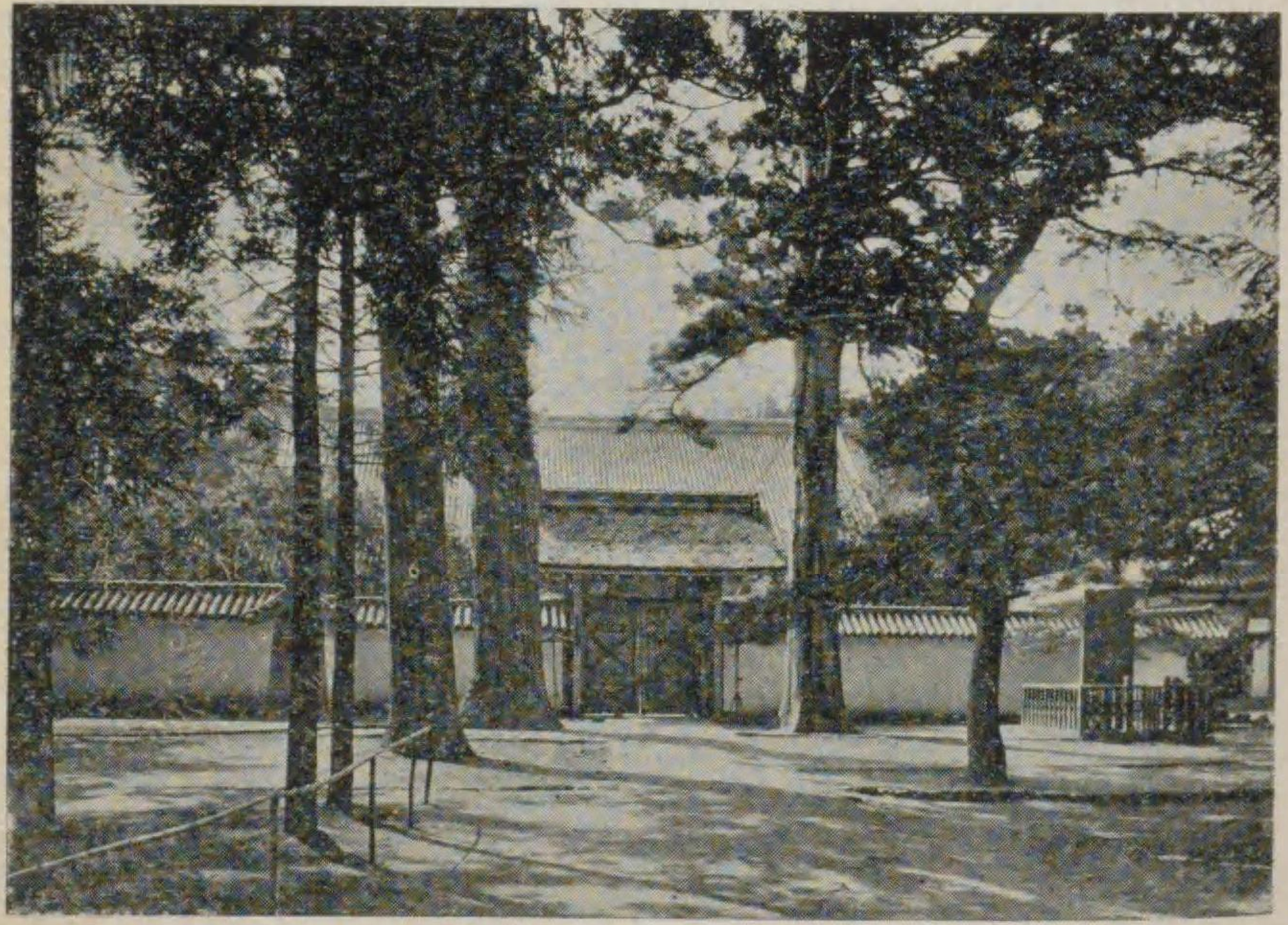




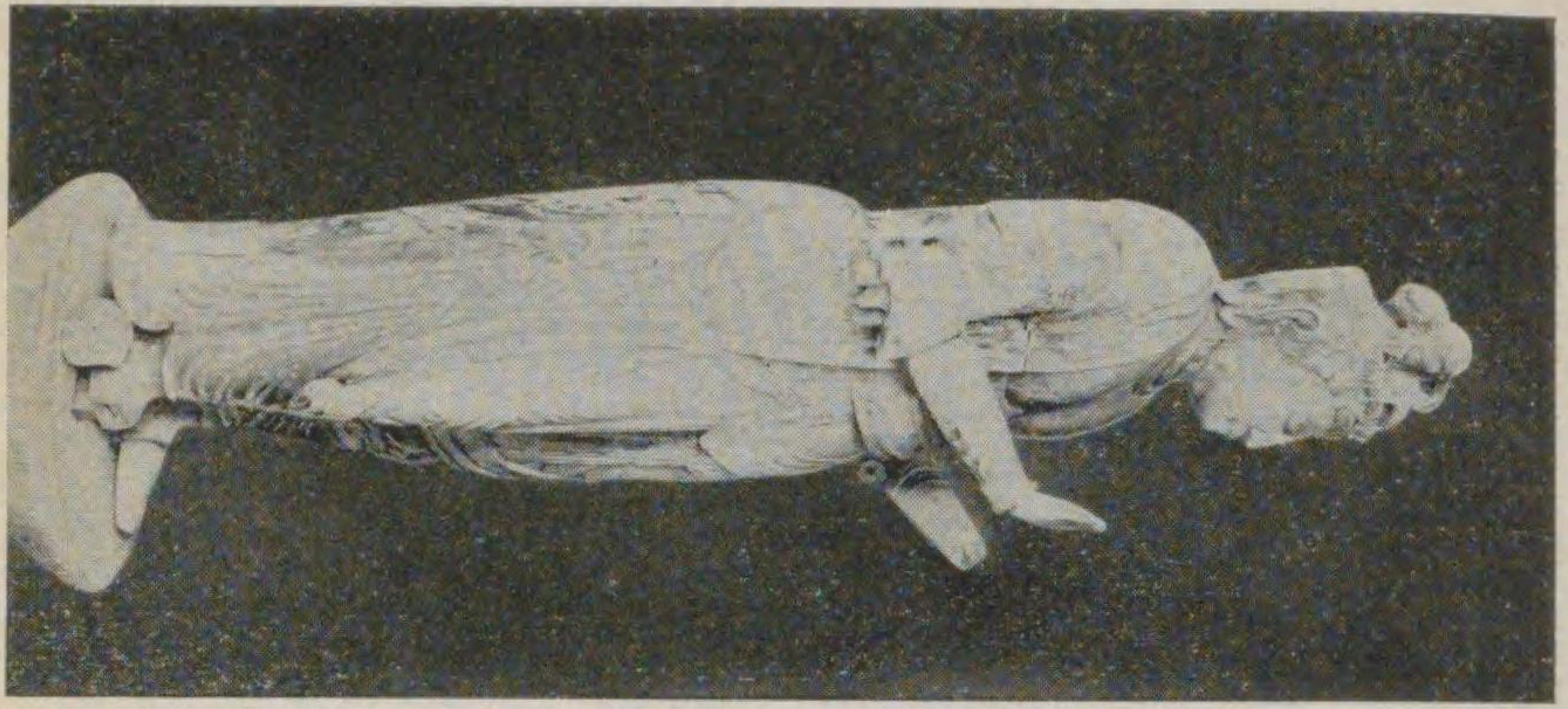
大崎八幡神社內部

鹽竈神社

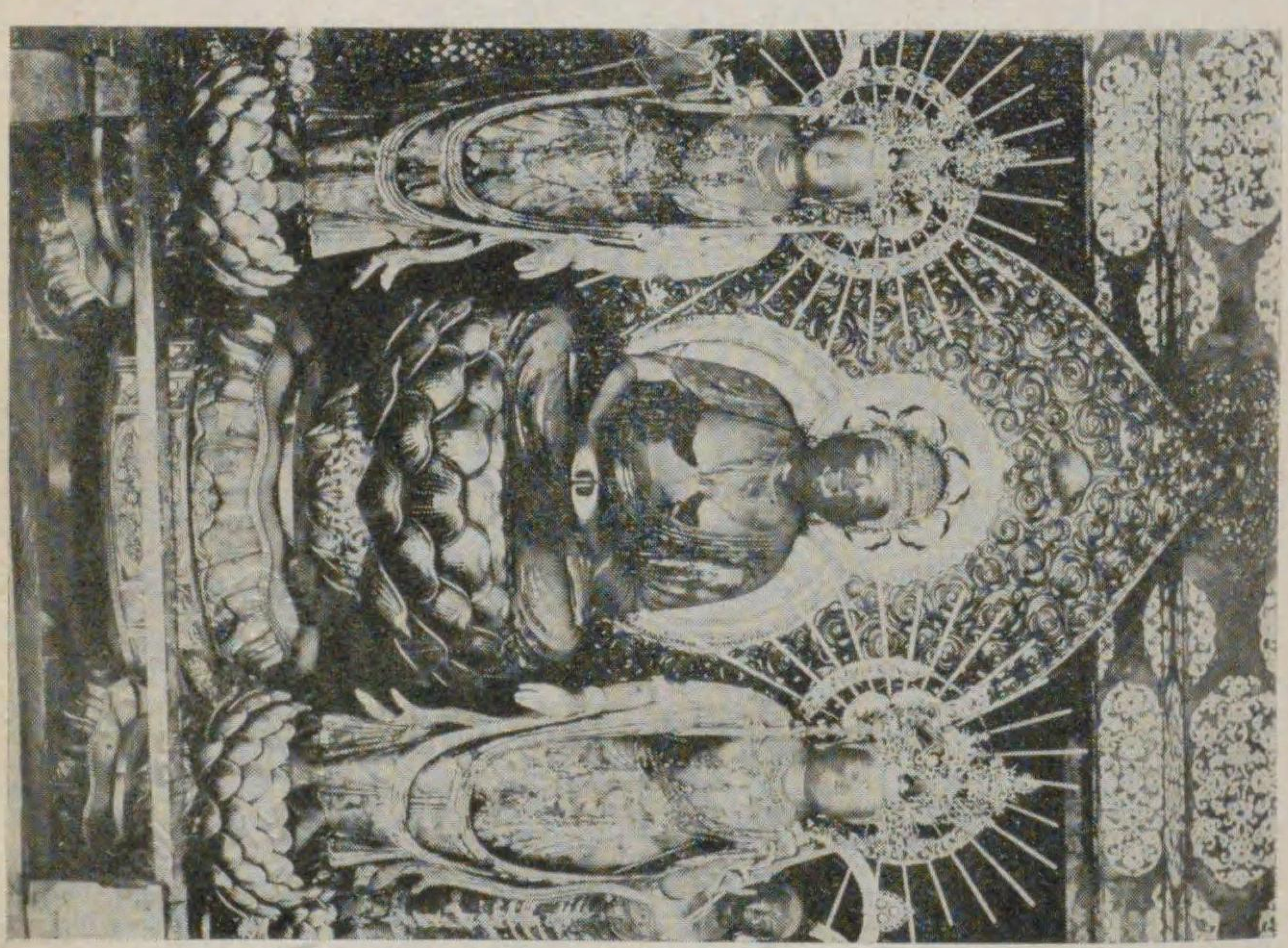




松島瑞巌寺



北成島毘沙門堂吉祥天

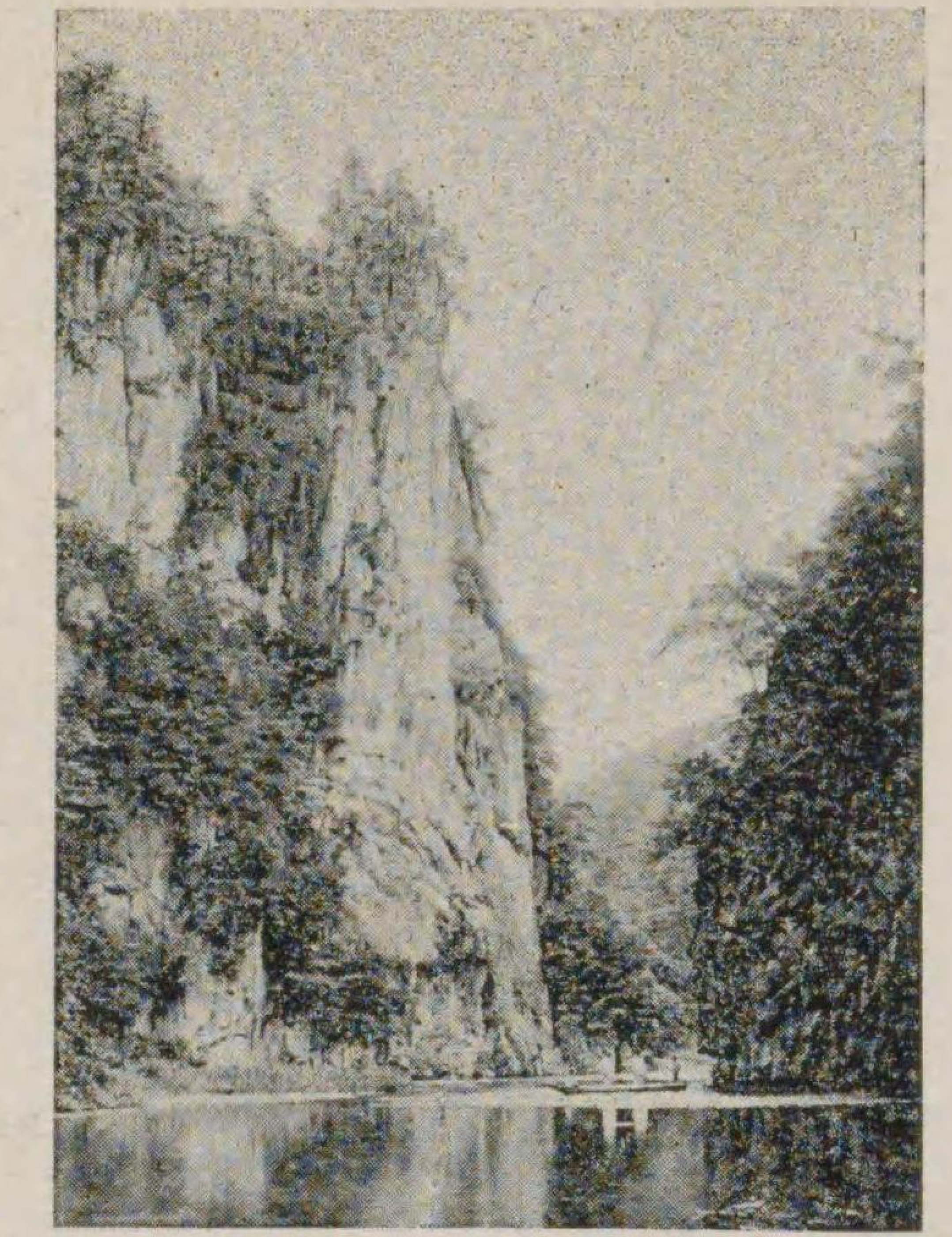


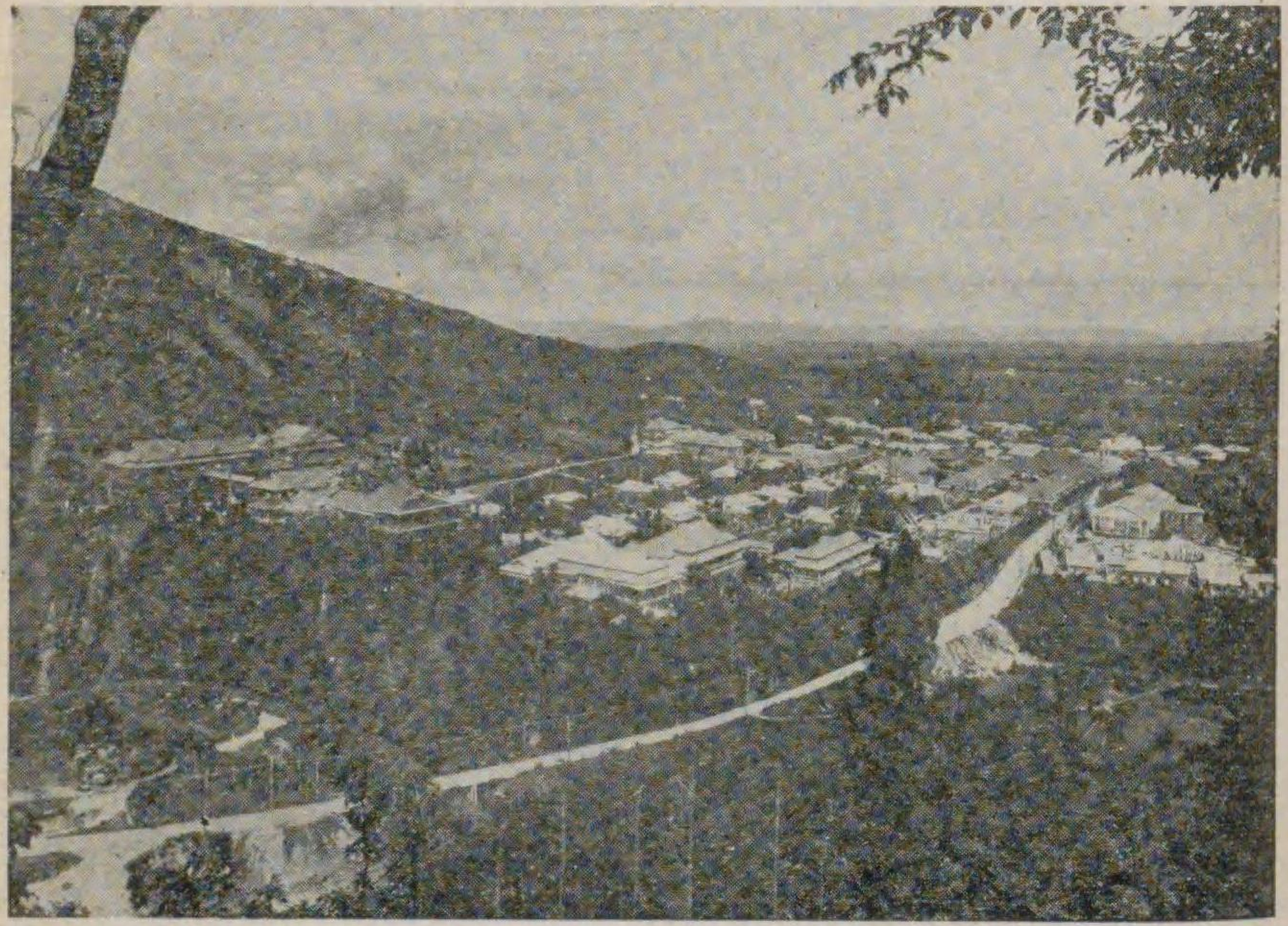
中尊寺金色堂阿彌陀三尊

大般若波羅蜜多經卷第二百六十六　成
三藏法師　玄奘奉　詔譯
初分難信解品第三十四之八十五
善現一切智智清淨故五眼清淨五眼清淨
故四無量清淨何以故若一切智智清淨若

中 尊 寺 經 卷

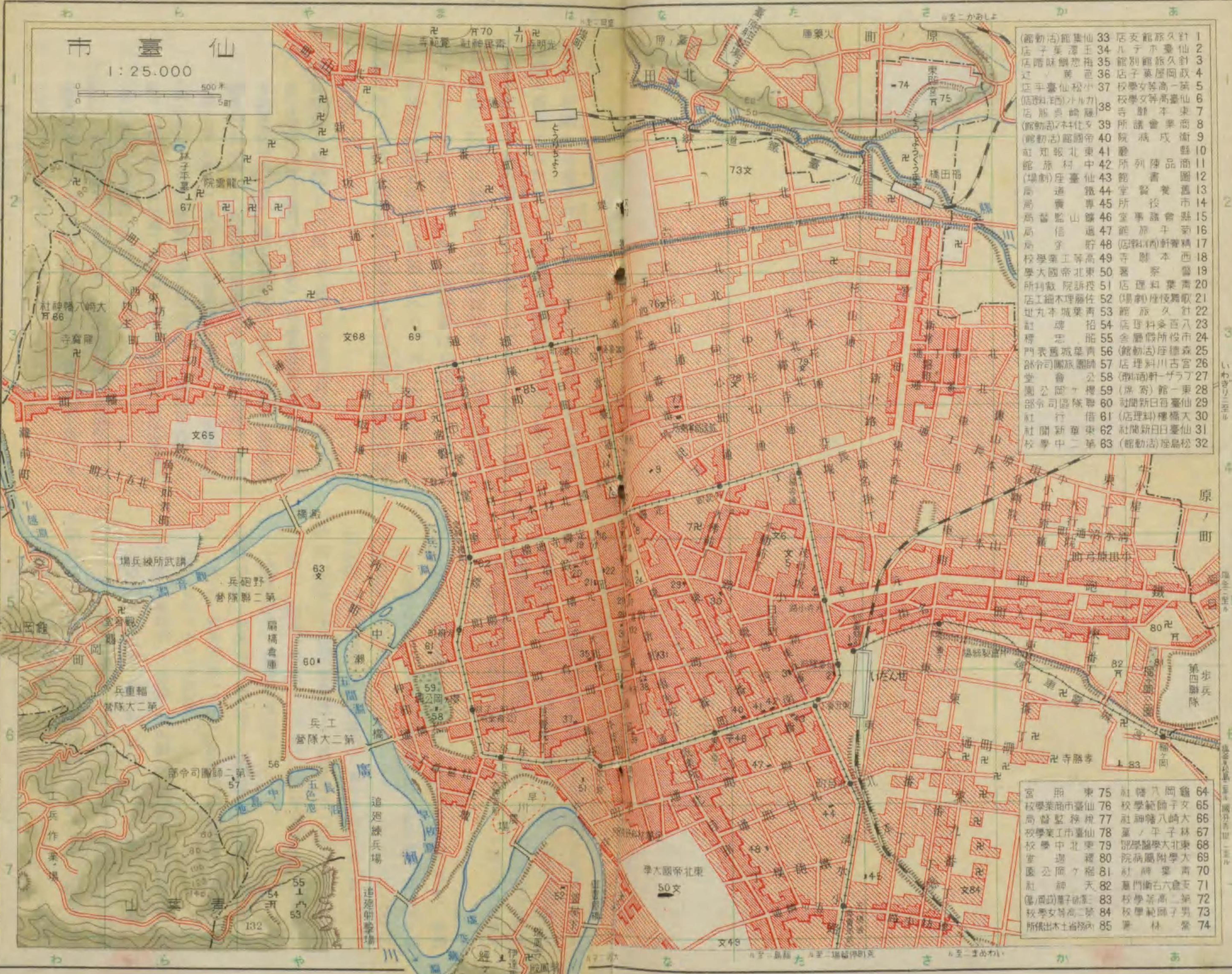
猊鼻渓





花巻温泉

主ナル遊覽地 櫻ヶ岡公園 瑞鳳殿 青葉城址 大崎八幡神社 林子平墓 青葉神社 支倉常長墓 芭蕉ノ辻 東照宮



配置し從來の名稱千代を改めて仙臺とした。その市街は漸次擴張されたが、この最初の配置は大體に於て現今まで維持され芭蕉の辻を中心として四方に連つて居る。築城と同時に神社寺院の或は移轉され或は復興されたものも少くなく、大崎八幡神社は岩出山から移され、藥師堂は國分寺址に再興された。共に慶長年間の建物で特に大崎八幡神社の如きは今に輪奐の美を發揮して居る。

▽官公廳　學校　その他　第二師團司令部（川内）　宮城控訴院（片平町）　地方裁判所（片平町）　稅務監督局（北一番丁）　地方專賣局（淸水小路）　鑛山監督局（東三番町）　遞信局（南町通）　鐵道局（南小路）　縣廳（勾當臺通）　市役所（東三番丁）　東北帝國大學（片平町）　同金屬材料研究所（片平町）　第二高等學校（北六番町）　高等工業學校（南六番丁）　女子專門學校（連坊小路）　圖書館（定禪寺通）　商品陳列所（勾當臺通）　商工會議所（東一番丁）　公會堂（大町）

▽銀行　七十七銀行（大町四丁目）　東北實業銀行（名掛町）　五城銀行（國分町）　宮城貯蓄銀行（東四番丁）　宮城縣農工銀行（東二葉町）　安田銀行支店（大町四丁目）

▽工場　片倉組製絲場（東八番町）　東北館製絲場（琛場）　小松機業場（良覺院町）　仙臺染織工場（土橋通）　仙臺平機業工場（琵琶首町）　伊澤酒造場（上杉山通）　佐々木味噌醬油釀造場（東二番町）　紅久商店（田町）　キリンビール工場（小田原長町通）

▽新聞社　東北新報社（南町通）　河北新報社（東三番町）　仙臺日日新聞社（大町五丁目）　東華新聞社（木町末無）　宮城每日新聞社（東三番町）

▽病院　大學附屬病院（北四番丁）　赤十字病院（北一番丁）

▽料理店　大橋樓（東四番丁）　八百粂（東一番丁）　宮古川（東一番丁）　靑葉（元鍛治丁）　ブラザー軒（東一番町）　カルトン（大町五丁目）　精養軒（東一番丁）

▽娛樂場　歌舞伎座（國分町）　仙臺座（東五番丁）　森德座（東一番丁）　松島座（東一番丁）　仙集座（東一番丁）　帝國館（南町通）　文化キネマ（百軒町）

▽名產　仙臺平　八橋織　埋木細工　鯛味噌　玩具（堤人形　盆鋒鎗）　菓子（九重　ゆべし　ほしの梅　よし飴）

【仙臺平】品位の高雅と地質の强いので名高い袴地用の絹織物である。初め藩主伊達政宗が京都から召した織工兩國屋八右衞門が工夫して織出したもので八右衞

門織と稱して居たが、世に廣く行はれるに及んで、他地方では仙臺平と名づけるに至つたものである。

【八橋織】 元祿頃の伊達風俗に由來するものである。織模樣は七五三の方形を組合せて、これに松島の風景などを織出した練絹物で、極めて優美、特に裏地、帶揚、手巾など婦人用のものに供せられる。

【埋木細工】 埋木は古くは名取川から出たものであるが、今に市西の長倉山及越路山から掘り出す。これを細工して器物に造ることは文政五年藩士山下周吉に始まる。埋木は脂氣があつて特殊の色澤と品位を有するので、盆、茶托などに愛用される。

【さんさ時雨】 仙臺では婚禮その他すべての祝宴に謠ふ。その普通の歌詞は

さんさ時雨か萱野の雨か
　音もせで來てぬれかゝる
　　ショウガイナ
この座敷はめでたい座敷
　鶴と龜とが舞ひ遊ぶ
　　ショウガイナ
雉のめんどり小松の下で
　つまを呼ぶ聲千代千代と
　　ショウガイナ
武藏あぶみに紫手綱
　乘せてやりたや春駒に
　　ショウガイナ
酒の肴に數の子よかろ
　親はにしんで子はあまた
　　ショウガイナ

一座拍子を取りて合唱し、三味線にも合せ舞もする。

【ハットセ踊】 鹽釜甚句である。その歌詞は

鹽釜街道に白菊うゑて
　何をきくきくアリヤ便りきく
　　ハットセハットセ
末の松山すゑかけまくも
　神のはじめしアリヤ海のさち
　　ハットセハットセ
千賀の浦風身にしみじみと
　かたりあふ夜のアリヤ友千鳥
　　ハットセハットセ
さあさやつこらさと乘り出す船は
　命帆をかけアリヤ波枕
　　ハットセハットセ

【遊覽順路】 （小廻り） 驛―榴ケ岡公園―孝勝寺政岡の墓―東北帝國大學―瑞鳳殿―櫻ケ岡公園―公會堂―仙臺城址―縣廳―商品陳列所―芭蕉の辻―驛。

（大廻り） 驛―東照宮―榴ケ岡公園―孝勝寺政岡の墓―東北帝國大學―瑞鳳殿―櫻ケ岡公園―公會堂―仙臺城址―大崎八幡神社―林子平墓―青葉神社―支倉常長墓―縣廳―商品陳列所―芭蕉の辻―驛。

【東照宮】〔縣社〕 驛の北方約二粁、宮町の北端、社殿は伊達忠宗が幕府の許可を得て慶安三年に造營をはじめ承應三年に落成したもので德川家康を祀つて居る。例祭四月十七日。

【榴ケ岡公園】 驛の東方一粁半、東公園とも云ふ。昔はつゝじが澤山あつた。また園の東方にあたる地は昔の宮城野で、もと萩、女郎花などの生ひ繁つた處で古歌にも詠ぜられて居るが、今は陸軍の用地となつて居る。現今園内には樹齡二百五十年に及ぶ枝垂櫻數十株枝を交へ花時には盛觀を極め、指定の名勝地となつて居る。

こゝにある釋迦堂は藩主伊達綱村が元祿八年生母三澤初子の冥福を祈るため建立して、その持佛を安置したものである。その由來を記した碑が堂の前に立つて居る。

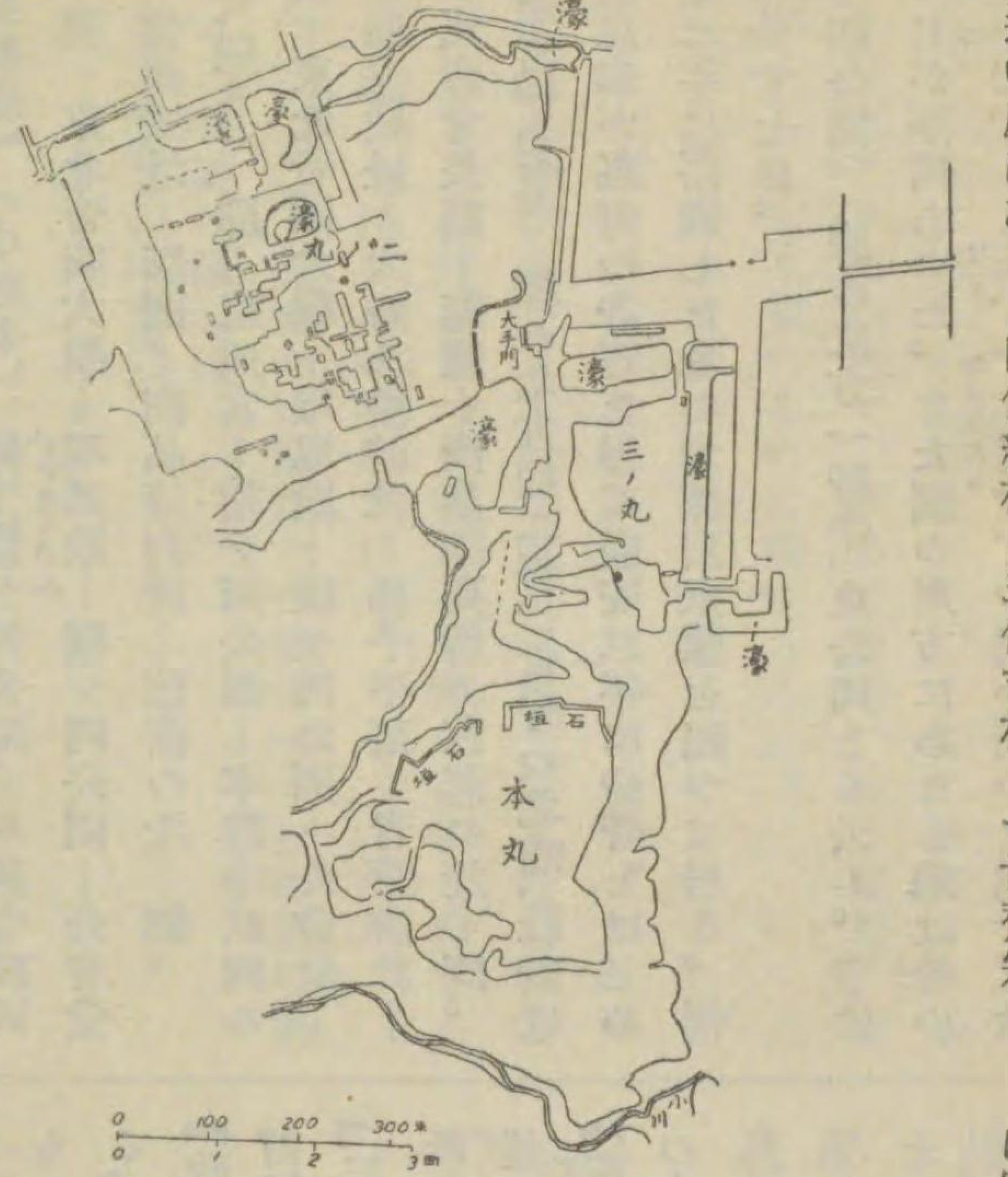
【政岡の墓】 驛の東約一粁半、宮城電氣鐵道榴ケ岡停留場の西南。市內東九番町、日蓮宗孝勝寺の後にあり、「三澤氏初子之墓」と題してある。初子は伊達綱村の生母卽ち伽羅千代萩の政岡である、尙この墓と竝んで伊達忠宗夫人の墓もある。

【瑞鳳殿】 驛の西南約二粁半、市內城山の東、登り口の左手に瑞鳳寺があり、更に參道を登ると間もなく瑞鳳殿に達する。藩祖伊達政宗の靈廟で寬永十四年の建築である。奧院の壇上に衣冠束帶を着けた政宗の木像を安置して居る。靈廟の向つて右側の柵內には政宗に殉死した家臣十五人、陪臣五人の石塔がある。尙瑞鳳殿の向側には二代忠宗及三代綱宗の廟がある。

【伊達家累代墓所】 驛の南方約四粁半、市外大年寺山

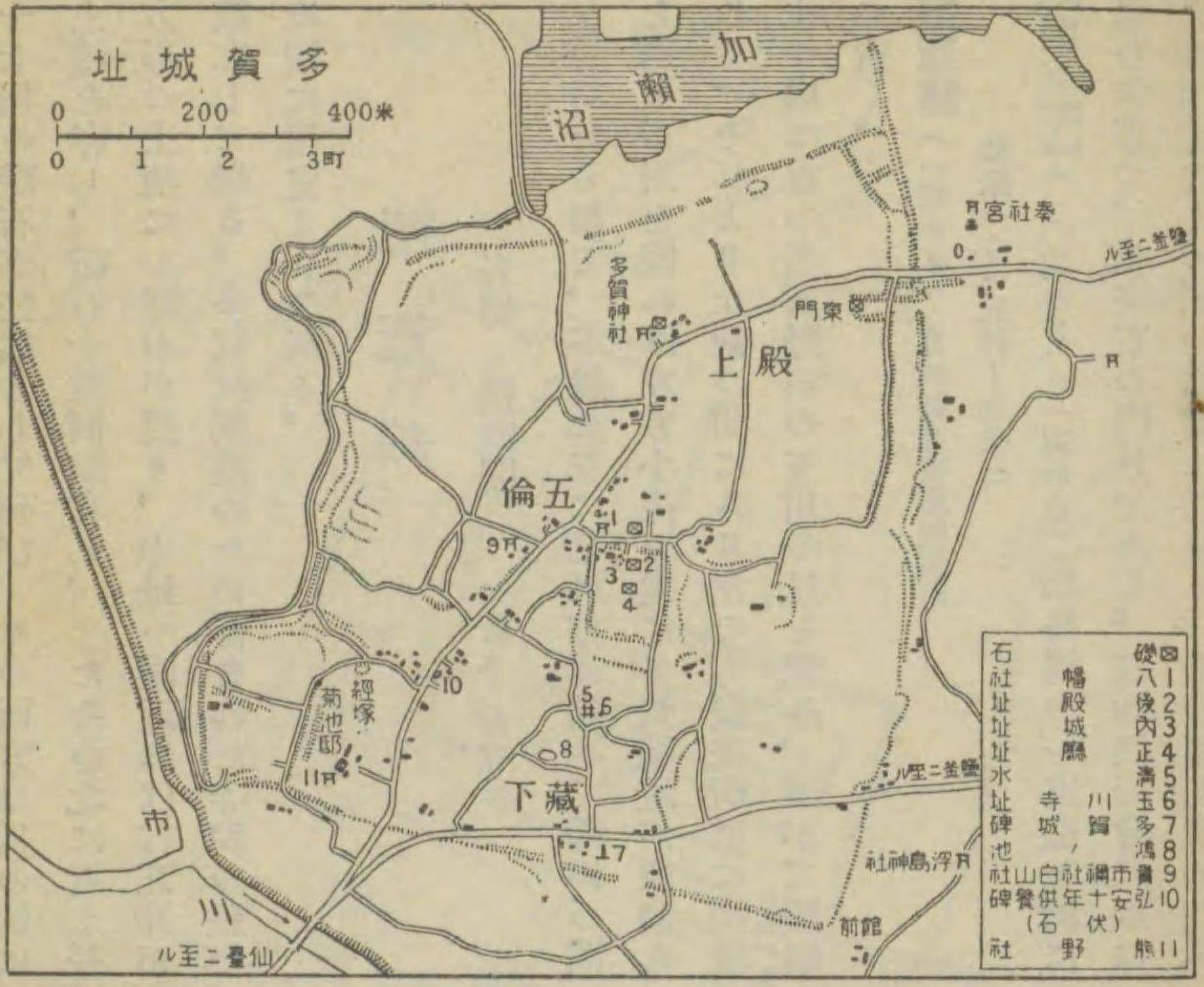
にある。長町驛からは西北約二粁半。墳域は二箇所にあつて、六代の藩主宗村以下重村、齊村などの墓は入口に近い處にあり、四代綱村、五代吉村、十世齊宗、十二代齊邦などの墓所はこれより東方にある。大年寺は享保二年鐵牛禪師の開基、黄檗宗であつたが、慶邦以後神葬式に改められて以來見る影もなく荒廢して居る。

仙臺城址



【櫻岡公園】驛の西約二粁、西公園とも云ひ、廣瀬川に臨み、青葉山に對す。縣社櫻岡八幡宮が鎭座され、市公會堂の設もあり、また支倉常長の碑がある。

【仙臺城址】驛の西南約二粁半、市内電車大町一丁目で下車し、大橋を渡ると城門の前に出る。本丸址及その北麓一帶は今公園となり二ノ丸址には第二師團司令部が置かれて居る。自然の天險によつて築城したもので前面には廣瀬川を控へ、後方は山を背負ひ遙に宮城野を一眸の下に收め、頗る要害の地を占めて居る。今本丸の石壘僅に一部分殘存し、また濠池の名殘を留め、二ノ丸の大手門の嚴然として遺存するのを見るのみであるが、城郭の規模の大きかつたことは偷一一指摘される。この城は初め千葉氏が居館を營み青葉城と呼んだが、慶長年間政宗こゝに築城して以來伊達氏の本城となつた。維新後廢城となり城池は毀たれ當年の壯觀を失つた。今追手門は師團司令部



二面は深き斷崖に限られ、四圍に土壘を繞らし、中央に土壇がある。この地は正廳の址で礎石が點在して居る。その西部を「御座ノ間」と稱へ、吉野時代義良(のりなが)親王の御座所であつたと傳へて居る。また内城の後方土壘外を始めその北方多賀社小祠の後方などにも礎石が點在して居る。東北隅外には奏社宮があり、多賀國府に屬した總社の名殘を止むるものと云はる。その他城内隨所よりは當時の屋根瓦を始め陶器、土器、鐵鏃、石帶、管玉など多數の遺物が發見せられ、今城内西南隅に近い菊池邸に保管せられて居る。同邸は明治九年明治天皇御巡幸の砌駐輦を辱うした所である。その東北道路の傍に弘安十年銘記の供養碑がある。また内城の南麓に近く玉川寺(玉泉寺)址がある。本城は奈良時代蝦夷征服のために築かれ、鎭守府を置き、陸奥國府もまた併置せられた處で、東北地方に於ける最も重要なる舊址で史蹟に指定せられて居る。

【多賀城廢寺址】 多賀城址の東南一粁、上野にある丘陵の上にある小社の直前に塔址があり、心礎を中心に

十七個の礎石が整然として列び、その西方鳥居の側に土壇を存し、礎石十數個點在し、またその北に近く長方形の土壇にも礎石が殘り、寺址の附近には古瓦片が散在して居る。多賀城鎭護のため營まれた寺院の址で史蹟に指定されて居る。

鹽竈線

岩切　鹽竈間　六粁九―四哩三

岩切から出て、本線を左に見東方に進み、稻田の間を過ぎ市川を渡れば左方小高き處に多賀城址が眺められる。それより丘陵の間に入り左の方鹽釜街道に接近する處に古の名所野田の玉川の址を望み、やがて鹽竈に着く。

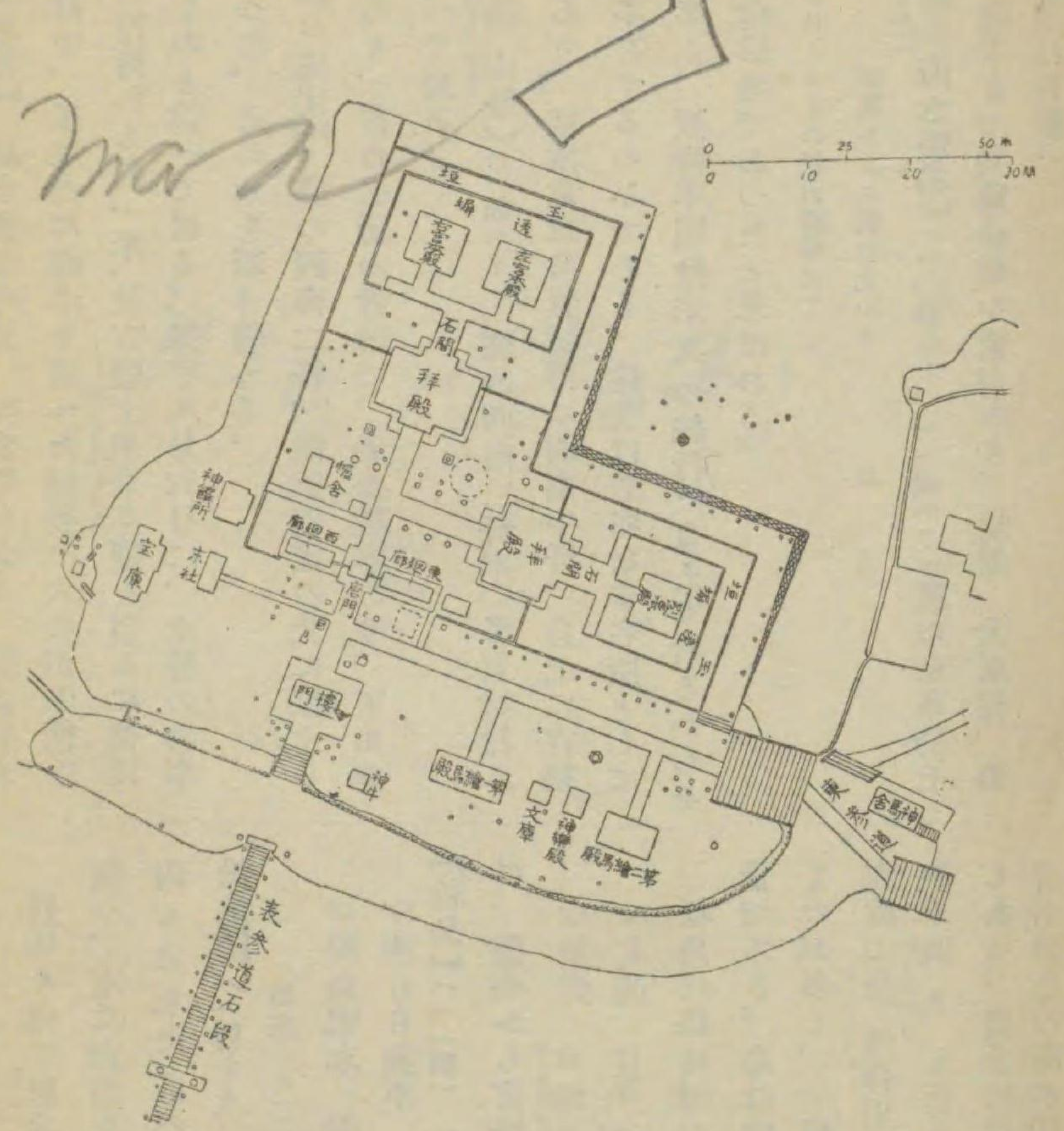
鹽竈驛（一圖か4）宮城縣宮城郡鹽釜町
仙臺から一五粁―九哩三

【鹽釜町】（一〇圖な3、一一圖わ5）松島灣の一支鹽釜灣に臨む港市で、仙臺市の門戸である。三陸汽船會社船は岩手縣宮古との間の諸港に往來し、その他船舶の出入多く、物資の集散盛に行はれ、商況活潑で、特に鮮魚の市場としては全國屈指の地位を占めて居る。

▽旅館　鹽釜ホテル　太田屋　えびや
▽宮城電車　仙臺　鹽釜　松島公園　石巻間
▽汽船　松島行（十數回　所要時間一時―一時半）
石巻　鮎川　金華山行
鮎川　女川　高田　細浦　大船渡　小白濱　大槌　山田　宮古行

【鹽竈神社】〔國幣中社〕（一圖な3、一一圖わ5）驛の西北約一粁。表參道の鳥居際から直に二百餘級の石段を登りつめた所に樓門があり、更に唐門を入ると正面に本宮があり、右手には別宮がある。本宮には武甕槌神と經津主神を祀り、別宮には鹽土老翁神と志波津彥神を祀つて居る。志波津彥神はもと宮城郡岩切村の志波彥神社から明治四年遷したものである。これらの社殿は元祿八年仙臺藩主伊達綱村が造營を始め寶永元年伊達吉村の時に竣成したのである。神前には藩主伊達周宗の寄進した燈籠、林子平の獻じた日時計などがある。境內には老杉鬱茂し櫻樹花卉多く、東方には昔千賀浦と

鹽竈神社境內圖



云つた鹽釜灣を望み、極めて風致に富んで居る。當社の起源は明かでないが、延喜式の主稅寮式にその名が見えて居る。江戸時代には伊達氏の崇敬篤く、社領二千二百餘石を領して居た。例祭七月十日、花祭四月二十五日、帆手祭十月十日。

寶物
一　糸卷太刀〔國寶〕銘國光　一口
一　黑漆太刀〔國寶〕銘雲生　一口
（二口とも目下東京遊就館へ出陳中）
一　太刀　三十餘口　伊達綱村以後歷代藩主の奉納せしもの
一　太刀　一　口　傳後藤又兵衞所持
一　村井古岩舊藏古寫本　三百餘冊